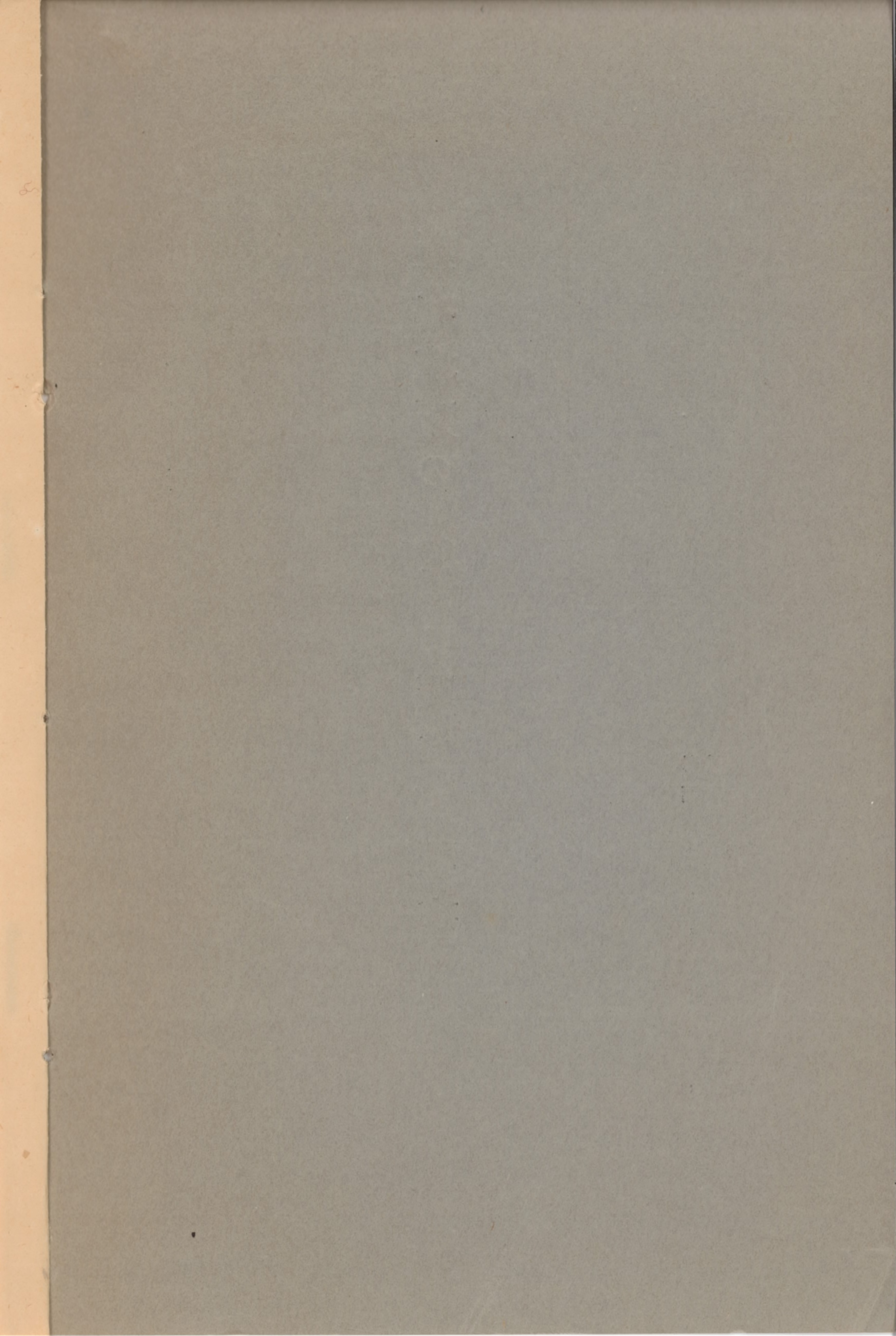


人口問題資料第九輯

東北地方の人口に関する調査

財團法人 人口問題研究會



昭和十年三月

東北地方の人口に関する調査

財團法人
人口問題研究會

東京
人口
調査
會

東京
人口
調査
會

昭和十三年三月

はしがき

この調査は研究員小田内通敏、研究員増田重喜、研究員舘稔に命じて極めて短期間に東北地方の人口現象に關する基本的資料を調査せしめたる結果を輯録したるものである。調査期間が極めて短期間であつたために不十分並に不統一な點も少くないが、他日補整の機會を得たいと思ふ次第である。

昭和十年三月七日

財團法人 人口問題研究會

總人 口 問 題 研 究 會

昭和十年三月廿日

二十日並に不惑一の課をめぐり、昨日蘇連の總會を辨けつと思ふ次第である。

この調査は調査員小田内重喜、調査員伊田重喜、調査員前田三命、丁張間、丁張間、丁張間、丁張間、丁張間の人口調査

おしな

目次

はしがき	頁
大要	一
一、人口動態	八
1 出生	八
2 婚姻	一四
3 死亡	二〇
4 自然増加	二七
二、現在人口の傾向	三〇
三、移動	三六
四、産業別人口構成と其の變化	五〇
五、土地と農家	六六
六、一世帯當人口	八二
七、結語	八五

小 結	五
六、一世帯富人口	八
五、土賦と地家	六
四、畜業限人口増減と其の變分	六
三、尋 常	六
二、概算人口の増減	六
A 自然増減	六
B 移 入	六
C 移 出	六
D 出 生	六
E 人口増減	六
一、大 要	一
封じ込め	頁

目 次

大要

一 人口動態

1 出生

(a) 東北地方の出生率は極めて高く年々全國の水準以上に在るが、昭和八年全國普通出生率三二%に對し東北區は三七%を示してゐる。

(b) 東北地方の出生率は以前に比すると最近やゝ低下の傾向にあるが全國のそれと大體步調を合せてゐる。

(c) 又この地方の特殊出生率（妊孕年齢の有配偶女子に對する出生の比率）は全國二三六%（昭和五年）に對し二八〇%（同上）を示し著しく高い。即ち出産力が極めて旺盛である。

2 婚姻

(a) 東北地方は婚姻が頻繁である。昭和八年普通婚姻率全國七%に對し東北區八%である。特殊婚姻率（結婚可能年齢に於ける無配偶者に對する婚姻件數の比率）について見れば全國との開きは更に顯著である。即ち昭和五年全國三三%東北區三七—四八%。

(b) 過去十四ヶ年に亘つて常に婚姻率は高いが全國よりやゝ著しい速度で低下して來てゐる。

(c) 一般に極めて早婚である。昭和五年平均婚姻年齢は全國夫二九・〇二才、妻二四・一二才であるが、この地方は夫二八・一〇才—二六・五八才、妻二三・八二才—二一・四五才である。

(d) 早婚で且婚姻が頻繁であるから配偶者を持てるものゝ割合が極めて高い。

(e) 出生率並に出産率の高い原因の一はこゝにある。

3 死亡

(a) 死亡率は昭和八年全國一八%、東北區一九%であつて一般に高い。

(b) 最近十四ヶ年間の死亡率の低下は全國よりも明かに遅れてゐる。

(c) 乳兒死亡率が特に高い。全國(昭和八年)一二%、東北區(同上)一四%。

4 自然増加(死亡に對する出生の超過)

(a) 自然増加率は極めて高い。昭和八年全國一四%、東北區一八%。

(b) 最近十四ヶ年間に於て出生率はほぼ全國の傾向に伴つて低下してゐるが、死亡率の低下が全國よりも遅れてゐるから、この地方の自然増加率の上昇的傾向は全國よりもやゝ低い。

二 現在人口の増加

(a) 大正九年—昭和五年十ヶ年間の現在人口の増加率は全國一五・二%に對して東北區一三・五%であつて全國よりやゝ低い、青森、岩手、宮城三縣は一九%—一七%で相當高く、秋田、山形、福島三縣

は一〇%—一二%で低い。

然し、一般に非都市的な地域としては現在人口の増加率は高いと見られる。

(b) 大正九年—昭和七年間の増加の傾向線によつて見ると同様のことが更に明かに看取される。

三 移 動

(a) 移動は比較的少いと見られる。

(b) 青森、岩手、宮城三縣は縣外移動特に少く、秋田、山形、福島三縣はやゝ多い。

(c) 結局、青森、岩手、宮城三縣では自然増加人口の七五—九〇%を、秋田、山形、福島三縣では五三

—六二%を縣内に止めてゐるのと等しい状態である。

(d) 出稼も東北區全體として見ればそれ程盛んではない。出稼率（出稼者數の現在人口に對する割合）

(e) は昭和七年全國一四%東北區一一%。

(f) 要するに人口増加力の高いこの地方の人口は縣外に流出すること少く、縣内に止まる部分が相當多

い。

四 産業別人口構成と其の變化

1 産業別人口構成の特色（昭和五年）

(a) 有業人口の六割五分が農業者であつて、（全國四割八分）農業人口の割合が極めて大である。

(b) 商工業人口の割合が極めて低い。工業人口の割合一一% (全國一九%)、商業人口の割合一一% (全國一七%)。

2 産業別人口構成の變化 (大正九年—昭和五年)

- (a) 農業人口は全國に於ては二厘方減少してゐるが、この地方に於ては五分五厘の増加を示し、農業人口の増加數は有業人口増加數の六割以上に當つてゐる。
- (b) 有業者中に占める農業人口の割合は六四・七%から六四・五%に極めて僅かに減少を示してゐるが全國の五一・八%から四八・三%の減少に比すれば云ふに足らない。
- (c) かくてこの地方の著しき増加人口は主として農業に吸収せられたと見てよい。

五 土地と農家

1 土地利用

(a) 耕地が少く山林、牧場、原野が多い。

即ち

	山林	牧場原野	耕地	總面積
全國 (府縣)	五〇・九%	七・二%	一七・二%	一〇〇・〇%
東 北 區	五七・三	八・七	一四・〇	一〇〇・〇

而かも山林原野の約五割が國有林野である。

(b) 最近十ヶ年間（大正十一年—昭和七年）の耕地の増加率は二・二一%であつて府縣の一・三七%に比し大である。

(c) 耕地擴張見込地面積の割合も多い。即ち、昭和八年府縣平均二四%に對し東北區は二九%である。

(d) 耕地に於ける田畑の割合は田、五四%、畑、四六%であつて、全國の平均夫々六二%、三八%に比すれば、東北地方は畑の割合が比較的多い。

(e) 田に於ては一毛作田が大部分である。即ち九六%が一毛作田で二毛作田は四%に過ぎない。全國平均は一毛作田六一%、二毛作田三九%である。

(f) 小作地の割合が全國の割合よりも比較的多い。即ち

自作地

小作地

全國（府縣）

五四%

四六%

東北區

五三%

四七%

（昭和七年）

最近十年間（大正十一年—昭和七年）の自作地の減少率、小作地の増加率は全國の傾向を凌いで著しい。即ち

	自作地	小作地
全國(府縣)	減一%	減二%
東北區	減四%	增一%

2 農家

(a) 農家戸數の増加が著しい。即ち大正十一年—昭和七年間に於て全國増加率平均五%に對し、東北區九%である。

(b) 農家一戸當耕地面積は全國より稍々大であるが、(昭和七年全國府縣〇・九三五町、東北區一・四一七町)最近十ヶ年間(大正十一年—昭和七年)に於て全國と共に低下を示してゐる。減少率に於ては府縣六%に對し東北區五・八%であつて府縣よりも稍々少いが、減少段別は府縣〇・〇六町に對し、東北區は〇・〇八八町を示し全國よりも大である。

(c) 一町未滿經營農家戸數は府縣の平均に於ては七〇・四%から七〇・二%に減少してゐるが東北區に於ては之と逆に五二%から五四%に増加してゐる。一町以上三町未滿の經營農家は府縣の平均は二七%から二八%に増加してゐるが、東北區に於ては三九%から四一%に増加してゐる。三町以上の經營農家は府縣に於ては二・三%から一・八%に減少してゐるが東北區に於ては七・七%か

ら五・五%に府縣よりも相當著しく減少してゐる。

(d) 耕地所有廣狹別農家戸數の割合の變化を見ると一町未滿の割合は府縣に於ては七五%から七六%に増加してゐるが、東北區は六五%から六六%に増加してゐる。

五町未滿は府縣二二%から二一%に、東北區三一%から三〇%に減少してゐる。五町以上は府縣二・五%から二・二%に、東北區は四・二%から三・九%に減少してゐる。

以上c、d、の如くこの地方は特に農家の零細化の傾向の著しきを見ることが出来る。

(e) 府縣に於ては自作農家戸數は七%増加してゐるに反し東北區に於ては二%餘の減少を示し、小作農家戸數は府縣三%の増加に對し東北區に於ては二一%の激増を示し、小作農化の著しきことを知るこ

六 一世帯當人口

(a) 普通世帯一世帯當人口は昭和五年五・八八であつて全國の五・〇七に比し遙かに大である。

(b) 農業世帯一世帯當人口は昭和五年六・七であつて全國の五・七に比し之亦遙かに大である。

(c) 大正九年—昭和五年間に於て全國の傾向に伴つて一世帯當人口は増加してゐる。(全國四・九—五・一

東北區五・七—五・九)

東北地方の人口に關する調査

東北地方の地形は山地多く、而かも其の分布は、關東地方の如く一方に偏在せずして六縣内に擴がり、其の地理的位置も亦東北に僻在するを以て、冷涼なる氣候と相俟つて其の風土は土地利用に特殊の影響を與へてゐる。かくてこの地方は他の諸地方に比して著しく山地に依存する林野面積廣く、而かも其の大部分が國有林野である。従つて耕地少く、耕地につきても田畑の關係に於て畑多く、田には一毛作田多きを特色とする。一般に土地の生産力乏しく、經濟の發達も比較的低き段階にある。

此等の自然的、社會的、經濟的特殊條件を反映してこの地方の人口は極めて特殊なる現象を呈してゐる。又この特殊なる人口現象はこの地方の社會的、經濟的諸問題の根基に重大なる規制條件として横はつてゐる。以下に於てこの地方の人口現象を自然的、經濟的諸條件との關聯に於て概觀する。

一 人口動態

1 出生

先づこの地方の昭和八年に於ける普通出生率(推計現在人口千につき現在地別出生數の比率)を見れば(第

第一表 昭和八年道府縣別全國人口動態

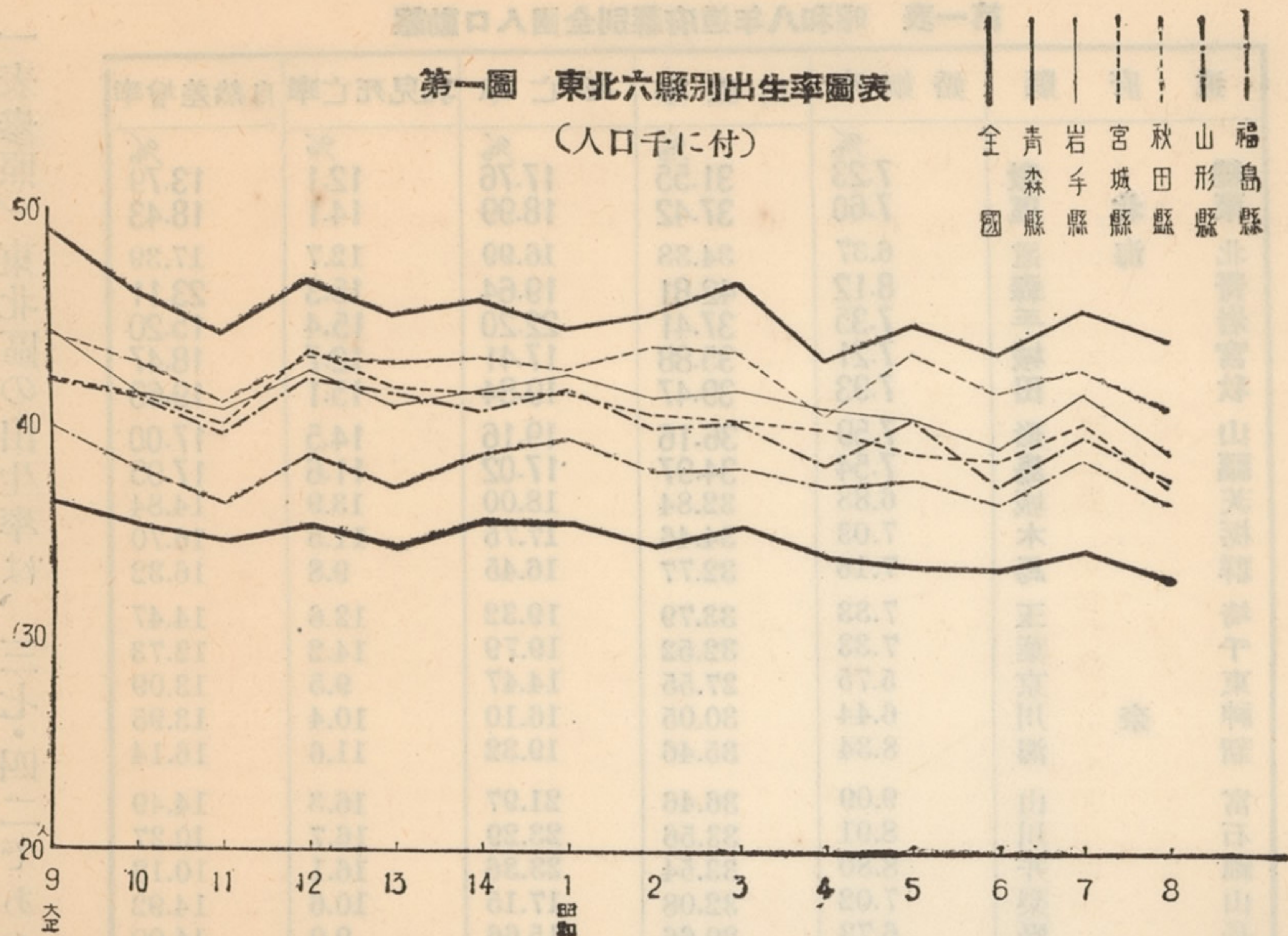
道	府	縣	婚姻率	出生率	死亡率	乳兒死亡率	自然差増率
			%	%	%	%	%
總		數區	7.23	31.55	17.76	12.1	13.79
東	北	道	7.60	37.42	18.99	14.1	18.43
北	海	道	6.37	34.38	16.99	12.7	17.39
青		森	8.12	42.81	19.64	15.3	23.11
岩		手	7.35	37.41	22.20	15.4	15.20
宮		城	7.21	35.88	17.41	12.7	18.47
秋		田	7.93	39.47	19.84	15.1	19.63
山		形	7.59	36.16	19.16	14.5	17.00
福		島	7.54	34.97	17.02	11.6	17.95
茨		城	6.88	32.84	18.00	13.9	14.84
栃		木	7.03	34.46	17.75	11.5	16.70
群		馬	7.16	32.77	16.45	9.8	16.32
埼		玉	7.33	33.79	19.32	12.6	14.47
千		葉	7.33	32.52	19.79	14.2	12.73
東	奈	京	5.75	27.55	14.47	9.5	13.09
神		川	6.44	30.05	16.10	10.4	13.95
新		潟	8.34	35.46	19.32	11.6	16.14
富		山	9.09	36.46	21.97	16.3	14.49
石		川	8.91	33.56	23.29	16.7	10.27
福		井	8.80	33.54	23.36	16.1	10.18
山		梨	7.02	32.08	17.15	10.6	14.92
長		野	6.73	29.66	15.66	9.0	14.00
岐		阜	7.92	33.80	19.30	12.2	14.50
靜		岡	7.43	33.66	17.48	12.1	16.19
愛		知	7.14	31.74	16.93	12.1	14.81
三		重	7.72	31.79	19.12	13.9	12.67
滋		賀	8.08	29.08	19.92	13.4	9.16
京		都	6.60	26.29	17.01	11.8	9.28
大		阪	6.05	25.39	16.38	13.3	9.01
兵		庫	6.84	28.86	17.91	11.9	10.95
奈	歌	良	8.55	29.67	19.28	14.8	10.39
和		山	7.53	29.27	17.00	11.2	12.27
鳥		取	7.56	29.72	17.64	11.1	12.08
島		根	7.91	30.98	20.96	13.1	10.02
岡		山	8.03	29.65	19.01	12.5	10.64
廣		島	8.21	30.20	17.64	10.8	12.56
山		口	7.99	29.05	18.48	10.6	10.58
德		鳥	8.07	34.19	19.61	12.1	14.58
香		川	8.61	33.63	19.06	12.9	14.57
愛		媛	7.81	32.75	18.26	11.1	14.49
高		知	7.41	29.16	18.56	13.4	10.59
福		岡	7.08	29.72	17.28	13.0	12.44
佐		賀	8.43	33.12	19.88	14.3	13.24
長		崎	7.05	31.32	17.53	11.0	13.80
熊		本	7.51	31.44	17.49	9.6	13.95
大		分	7.86	33.56	20.26	12.6	13.31
宮		崎	7.05	34.47	16.79	10.8	17.67
鹿	兒	鳥	7.65	32.22	16.13	9.1	16.09
沖		繩	8.56	25.44	16.02	5.7	9.42

備考 (1)日本帝國統計年鑑に據る。(2)東北區は婚姻數、出生數、死亡數、自然差増數を六縣につき夫々合計し、日本帝國人口動態統計に於て使用せる府縣別推計人口により、六縣合計を算出して計算せり。乳兒死亡率、東北區は六縣平均。

一表參照) 東北區の出生率は、三七・四二であつて、これを全國の三一・五五に比較すれば、極めて高い地位

第一圖 東北六縣別出生率圖表

(人口千に付)



を占めてゐる。六縣中最高は青森縣の四二・八一であつて、秋田縣の三九・四七これに次ぎ、岩手縣三七・四一、山形縣三六・一六、宮城縣三五・八八、福島縣三四・九七であつて、何れも遙に全國の水準を超えてゐる。特に青森縣の如きは、普通出生率は全國最高を示してゐる。

大正九年より昭和八年に至る最近十四ヶ年間に於けるこの地方の出生率の變動を全國のそれと比較すれば第二表並に第一圖の如くである。かやうにこの地方の出生率はこの間連年いづれも遙かに全國の水準を超えてゐる。六縣間の順位は年によつて多少の變化はあるが一般に青森縣最も高く、秋田縣之につき、岩手、宮城、山形諸縣の順位であつて福島縣が最低である。

次にこの期間に於て全國出生率は稍々低下の傾向を示してゐるが六縣共にほゞ之と歩調を合してゐる。参考として大正九年を一〇〇とする。六縣別出生率指數表(第三表)を掲げ

ておく。

第二表 東北六縣別出生率表 (人口千人に付)

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	三三・一	四三・三	四九・〇	四四・三	四三・〇	四四・三	四二・〇	三九・八
一〇年	三五・一	四一・二	四六・〇	四一・三	四一・三	四二・七	四一・一	三七・七
一一年	三四・二	三九・六	四三・九	四〇・四	三九・七	四〇・七	三九・三	三六・〇
一二年	三四・九	四一・九	四六・三	四二・二	四三・一	四二・七	四一・八	三八・二
一三年	三三・八	四〇・六	四四・七	四〇・四	四一・三	四二・三	四一・〇	三六・六
一四年	三四・九	四〇・九	四五・二	四一・一	四〇・九	四三・五	四〇・〇	三八・〇
昭和元年	三四・八	四一・一	四三・八	四一・七	四〇・八	四二・九	四一・〇	三八・七
二年	三三・六	四〇・一	四四・五	四〇・六	三九・七	四二・九	三九・一	三七・一
三年	三四・四	四〇・四	四五・九	四〇・八	三九・四	四二・五	三九・三	三七・二
四年	三三・一	三八・七	四二・二	三九・九	三八・九	三九・四	三七・二	三六・三
五年	三二・四	三九・四	四三・七	三九・四	三七・七	四二・三	三九・三	三六・六
六年	三二・二	三七・九	四二・三	三七・八	三七・三	四〇・四	三六・〇	三五・三
七年	三二・九	三九・八	四四・三	四〇・四	三九・〇	四一・四	三八・三	三七・三
八年	三一・六	三七・四	四二・八	三七・四	三五・九	三九・五	三六・二	三五・〇

第三表 東北六縣別出生率指數表

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一〇年	九七・〇	九五・三	九三・八	九三・一	九六・〇	九六・四	九七・九	九四・七

大正一一年	九四・五	九〇・五	八九・六	九一・一	九二・五	九二・一	九三・六	九〇・五
一二年	九六・四	九五・九	九四・五	九五・一	一〇〇・三	九六・四	九九・六	九五・九
一三年	九三・四	九二・八	九一・一	九一・一	九六・一	九五・六	九七・六	九一・九
一四年	九六・四	九三・五	九二・三	九二・七	九五・二	九五・九	九五・四	九五・五
昭和元年	九六・一	九三・八	八九・五	九四・一	九四・九	九四・六	九七・六	九七・三
二年	九二・八	九一・七	九〇・八	九一・五	二二・五	九七・〇	九三・一	九三・二
三年	九五・〇	九二・三	九三・六	九一・九	九一・七	九六・一	九三・六	九三・五
四年	九一・四	八八・三	八六・〇	八九・九	九〇・四	八九・一	八八・六	九一・一
五年	八九・五	九〇・一	八九・二	八八・八	八七・八	九五・五	九三・五	九一・八
六年	八九・〇	八六・四	八六・三	八五・三	八六・八	九一・二	八五・八	八八・七
七年	九〇・八	九〇・九	九〇・三	九一・〇	九〇・九	九三・六	九一・二	九三・六
八年	八七・二	八五・四	八七・三	八四・四	八三・五	八九・二	八六・一	八七・八

一般に人口の年齢構成は各地方に於て夫々その自然的經濟的諸條件を反映して相當顯著なる差異を示してゐる。今、昭和五年國勢調査の結果によつてこの地方の特殊年齢構成を全國のそれと對比すれば次表の如くである。

昭和五年特殊年齢構成 (人口千に付)

全 國	〇歳—一四歳	一五歳—五九歳	六〇歳以上	青 森 縣	〇歳—一四歳	一五歳—五九歳	六〇歳以上
	三六七	五五九	七四		四一〇	五三〇	六〇
岩 手 縣	三九九	五二六	七五	宮 城 縣	四〇八	五二七	六五
秋 田 縣	四一四	五二八	五八	山 形 縣	三九七	五三七	六六
福 島 縣	四〇七	五三二	七二	備考	國勢調査報告に據る。		

即ち、この地方の人口年齢構成の特色は、十四歳未満の幼年人口の割合が比較的多く、十五歳より五十九歳に至る所謂生産年齢人口が比較的に少いといふことである。

このことはこの地方が出生が盛んであることの後果の一面であることは云ふまでもない。普通出生率の高いことが或る程度までこの地方の出産力の高いことを暗示するのであるが、更にかゝる年齢構成の差異、其の他配偶関係の差異を除去して實質的な出産力をたしかめることも必要である。

そのために妊孕年齢（十五歳—四十四歳）女子有配偶者に對する現在地別出生數の千分比即ち、所謂特殊

第四表 昭和五年及大正九年道府縣別特殊出生率

道府縣	大正9年	昭和5年
總區	252.6	235.9
北海道	285.5	279.6
道	275.9	276.6
森田	312.1	292.3
手城	276.6	266.2
田形	293.0	278.5
島	283.3	284.6
城	288.9	289.0
木	267.9	271.3
馬	268.6	259.7
玉	277.8	277.2
葉	292.6	280.7
京	290.3	268.0
川	256.3	243.9
潟	203.3	193.5
山	235.0	220.1
川	282.3	—
井	271.3	—
梨	264.3	242.6
野	282.3	277.2
阜	285.6	260.9
岡	264.0	260.9
知	288.1	255.0
重	262.9	236.9
賀	258.6	254.8
都	264.9	245.7
阪	267.1	196.5
庫	226.7	174.5
良	200.8	202.0
山	230.2	227.7
取	266.3	228.8
根	258.9	—
山	238.9	221.6
島	221.7	—
口	223.4	—
島	249.7	209.5
川	225.0	257.2
媛	281.4	—
知	293.8	254.1
岡	264.0	—
賀	231.7	208.6
崎	216.8	254.0
本	263.5	—
分	237.3	—
崎	256.7	—
島	250.1	242.9
繩	243.1	246.6
鹿	255.8	—
沖	177.5	193.9

備考 妊孕年齢女子有配偶者數は國勢調査報告に基き算出し、現在地別出生數は日本帝國人口動態統計に據る。

出生率を求めれば右の如くである（第四表）。

即ち、昭和五年に於ける東北區の出生率は二七九・六であつて、全國の二三五・九に比し遙に上位に位する、東北六縣中最高は、青森縣の二九二・二であり、山形縣の二八九・〇これに次ぎ、以下秋田縣二八四・六、宮城縣二七八・五、福島縣二七一・三、岩手縣二六六・二の順位であつて、何れも全國中極めて高率の地域を形成してゐる。かくて、この地方は現在人口に比して出生數が多いのみならず、又現在する妊孕年齢女子有配偶者の出産力の高いことも亦顯著である。

2 婚 姻

以上の如く、この地方の出生率は著しく高いのであるが、婚姻率も一般に高く、婚姻年齢は極めて低い。この地方の出生に關聯して簡単に婚姻に一瞥を投ずることとする。

普通婚姻率（推計現在人口千につき現在地別婚姻件數の比率）を見れば第五表の如く、昭和八年に於て東北區の婚姻率は稍々全國の上位にあり、宮城縣を除いていづれも全國の水準を超えてゐる。

今大正九年より昭和八年に至る十四ヶ年間に於ける其の變動を見れば、全國の低下傾向につれて東北六縣の普通婚姻率も漸次低下を示してゐる。而してその低下の速度が全國のそれよりも稍々著しきことは第六表及び第二圖の如くである。

第五表 東北六縣別婚姻率表

年次	全國	東北區	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
大正九年	九・七六	一一・三四	一一・八九	一一・二七	一一・一五	一一・一八	一一・〇〇	一〇・九一
一〇年	九・一四	一〇・四二	一〇・四四	一〇・〇〇	一〇・四二	一一・三七	一〇・八五	九・七八
一一年	八・九五	九・七九	九・九四	九・五五	九・八六	一〇・六五	九・九八	九・一一
一二年	八・七七	九・九五	一〇・一一	九・五七	九・八一	一〇・五三	一〇・〇五	九・七五
一三年	八・六八	九・九〇	一〇・二三	九・三七	九・九一	一〇・七九	一〇・二四	九・三二
一四年	八・七三	九・六五	一〇・三一	九・五五	九・二四	一〇・三五	九・五八	九・三五
昭和元年	八・三一	九・四六	九・五五	九・一二	九・〇一	一〇・一七	九・六二	九・三八
二年	七・九六	八・八二	九・三三	八・九〇	八・五四	九・七九	八・四八	八・四〇
三年	八・〇四	八・八二	九・五三	八・五三	八・六三	九・五三	八・七二	八・三四
四年	七・九〇	八・五五	八・九一	八・七三	八・二三	九・〇八	八・五八	八・一一
五年	七・八六	八・五七	九・三八	八・四〇	八・〇〇	九・二四	八・七三	八・〇七
六年	七・六〇	七・九八	八・五一	七・八六	七・六四	八・七二	七・七二	七・七一
七年	七・七七	八・二四	八・七四	八・〇四	七・八九	八・七九	八・一七	八・〇五
八年	七・二三	七・六〇	八・二二	七・三五	七・二二	七・九三	七・五九	七・五四

第六表 東北六縣別婚姻率指數表

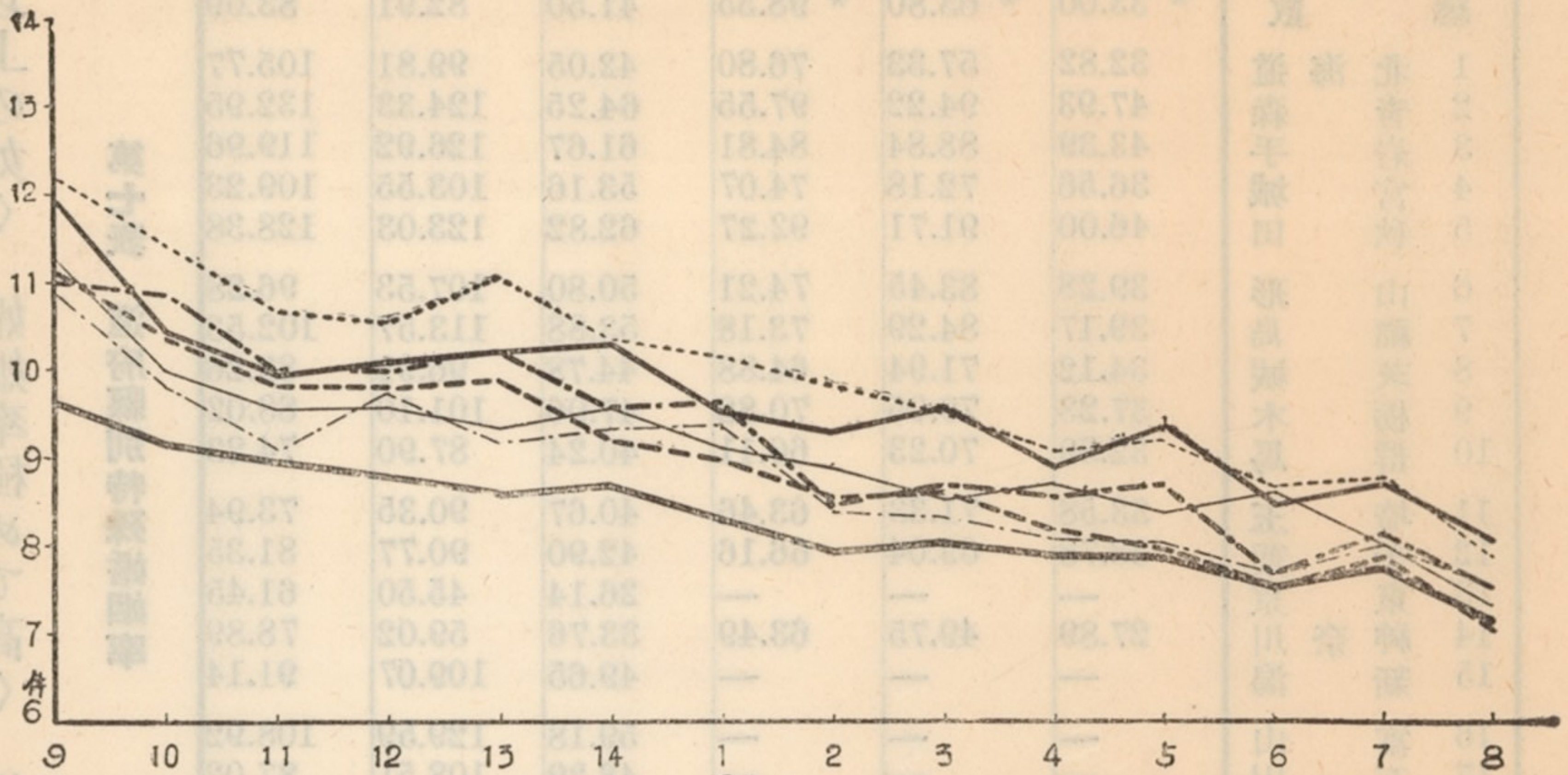
年次	全國	東北區	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
大正九年	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
一〇年	九三・六五	九一・八九	八七・八〇	八八・四三	九三・四五	九三・三五	九八・六四	八九・六四
一一年	九一・七〇	八六・三三	八三・六〇	八四・七四	八八・四三	八七・四四	九〇・七三	八三・五〇
一二年	八九・八六	八七・七四	八五・〇三	八四・九二	八七・九八	八六・四五	九一・三六	八九・三七

昭 和 元 年	二 年	三 年	四 年	五 年	六 年	七 年	八 年
八八・九三	八一・五六	八二・三八	八〇・九四	八〇・五三	七七・八七	七九・六一	七四・〇八
八七・三〇	七七・七八	七七・七六	七五・五七	七五・五七	七〇・三七	七七・〇七	六七・〇二
八六・〇四	七八・四七	八〇・一五	七四・九四	七六・八九	七一・五七	七三・五一	六八・二九
八三・一四	七八・九七	七五・六九	七七・四六	七四・五三	六九・七四	七一・三四	六五・二三
八八・八八	七六・五九	七七・四〇	七三・八一	七一・七五	六八・五二	七〇・七六	六三・八六
八八・五九	八〇・三八	七六・二四	七四・五五	七五・八六	七一・五一	七三・一七	六五・二一
九三・〇九	七七・〇九	七九・二七	七八・〇〇	七九・三六	七〇・一八	七四・二七	六九・〇〇
八四・五一	七六・九八	七六・四四	七四・三四	七三・九七	六〇・六九	七三・七九	六九・一一
八五・七〇	八五・九八	八〇・三三	八〇・九二	八二・八七	八四・七四	八三・五〇	八七・四五
八六・七一	八〇・三三	八〇・一五	七四・九四	七六・八九	七一・五七	七三・五一	六八・二九
八五・三六	八三・四二	八〇・一五	七五・五七	七五・五七	七〇・三七	七七・〇七	六七・〇二
八九・四五	八三・四二	八二・三八	八〇・九四	八〇・五三	七七・八七	七九・六一	七四・〇八
八八・九三	八五・一五	八二・三八	八〇・九四	八〇・五三	七七・八七	七九・六一	七四・〇八

さてこゝに注意すべきは、東北地方の人口年齢構成は上述の如き特色を持つてゐるから、この點を考慮すれば、この地方の普通婚姻率は、寧ろ過少に評價せられてゐるといふことである。そこで年齢構成の差異によつて生ずる、婚姻率の不當なる差異を少くする爲に、所謂特殊婚姻率を算出して、この地方が如何なる状態にあるかを見れば、第七表の如くである。即ち全人口より、十五歳未満の幼年人口を除去し、これを所謂可婚年齢人口とする。可婚年齢人口中有配偶者を除き、無配偶者千につき、婚姻件数の比率を示したものがこの特殊婚姻率である。昭和五年全國特殊婚姻率は三三であるが、青森縣の四八を最高として、秋田縣四六これに次ぎ、岩手縣四三、山形、福島二縣は共に三九であつて、宮城縣の三七を最低としてゐるが、何れも全國平均を著しく超過してゐる。これを全國各府縣に就いて見ても、福井縣の四二を除外すれば、上記の六

第二圖 東北六縣別婚姻率圖

(千人に付)



全青岩宮
 全森手域
 國縣縣縣
 秋田縣
 山形縣
 福島縣

縣は、何れも全國最高位を占めてゐると云ふことが出来る。
 以上の如くこの地方の婚姻の頻度は著しく高いが、平均婚姻年齢も、又極めて低いと云ふことが出来る。昭和五年全國平均婚姻年齢は、男二九・〇二歳、女二四・一二歳であるが、東北地方男子の平均婚姻年齢の最高を示してゐる福島縣と雖も、男二八・一〇歳、女二三・八二歳であつて、遙に全國のそれの下位に位する。最低は青森縣の男二六・五八歳、女二一・四五歳であつて岩手縣男二六・五八、女二一・七三これに次ぎ、秋田縣男二七・二六、女二一・八八、宮城縣男二七・九六、女二三・〇三、山形縣男二七・九八、女二三・五三と云ふ順位であつて、全國殆んど類例を見ない早婚地域と云はなければならぬ。

次に以上の如く、婚姻率極めて高く、婚姻年齢が極めて低く、従つて可婚年齢者中有配偶者の率即ち有配

第七表 道府縣別特殊婚姻率

(昭和五年、大正九年)

道府縣名	年次	昭和5年			大正9年		
		總數	男	女	總數	男	女
總數		* 33.00	* 63.80	* 98.35	41.50	82.91	83.09
1 北海道		32.82	57.33	76.80	42.05	99.81	105.77
2 北青森		47.93	94.22	97.55	64.25	124.33	132.95
3 岩手		43.39	88.84	84.81	61.67	126.92	119.96
4 宮城		36.56	72.18	74.07	53.16	103.55	109.23
5 秋田		46.00	91.71	92.27	62.82	123.03	128.38
6 山形		39.28	83.45	74.21	50.80	107.53	96.28
7 福島		39.17	84.29	73.18	53.88	113.57	102.53
8 茨城		34.12	71.94	64.88	44.78	96.91	83.26
9 栃群		37.23	79.05	70.82	47.06	101.10	88.02
10 群馬		32.39	70.23	60.11	40.24	87.90	74.23
11 埼玉		33.58	71.33	63.46	40.67	90.35	73.94
12 千葉		33.78	69.04	66.16	42.90	90.77	81.35
13 東京		—	—	—	26.14	45.50	61.45
14 神奈川		27.89	49.75	63.49	33.76	59.02	78.89
15 新潟		—	—	—	49.65	109.07	91.14
16 富山		—	—	—	59.18	129.59	108.92
17 石川		—	—	—	48.29	108.51	87.02
18 福井		42.09	90.36	78.79	49.13	108.96	81.49
19 山梨		33.83	69.56	65.86	45.66	93.35	87.12
20 長野		30.21	67.47	54.71	37.45	82.62	68.48
21 岐阜		37.05	74.87	73.36	45.13	90.94	69.60
22 静岡		37.51	75.45	74.60	48.07	97.72	94.62
23 愛知		29.23	59.83	57.40	38.68	80.90	74.11
24 三重		34.58	73.78	65.39	43.83	94.63	81.63
25 滋賀		34.22	75.12	62.84	40.12	92.23	71.02
26 京都		23.48	44.94	49.16	31.61	61.81	64.68
27 大阪		21.09	38.11	47.21	27.73	50.27	61.83
28 兵庫		28.49	56.09	57.59	35.21	66.08	75.38
29 奈良		34.78	72.27	67.05	41.37	85.31	80.32
30 和歌山		32.26	65.16	64.29	42.71	88.21	82.80
31 鳥取		—	—	—	43.63	96.55	79.59
32 島根		36.58	74.49	71.86	45.26	93.66	87.59
33 岡山		—	—	—	42.83	87.90	83.54
34 廣山		—	—	—	48.85	95.70	99.78
35 山口		33.40	65.92	67.70	45.14	90.89	89.69
36 徳島		38.49	78.46	75.54	46.50	97.01	89.29
37 香川		—	—	—	48.47	99.58	94.44
38 愛媛		37.58	78.57	72.09	46.87	99.56	88.56
39 高知		—	—	—	47.42	99.46	90.63
40 福岡		30.48	58.96	63.11	38.80	73.04	82.77
41 佐賀		36.58	77.96	65.48	49.46	108.07	91.19
42 長崎		—	—	—	38.97	72.14	84.75
43 熊本		—	—	—	45.18	99.79	82.54
44 大宮		36.78	79.12	68.74	49.92	108.70	92.30
45 鹿兒島		35.07	69.01	71.31	42.35	84.45	84.94
46 鹿兒島		—	—	—	41.63	98.06	72.34
47 沖繩		34.74	82.66	59.94	32.67	74.06	58.45

備考 「日本帝國人口動態統計」により婚姻数とり、國勢調査報告により可婚年齢者(15歳以上)を算出し内有配偶者を除き算出の基礎とせり。昭和五年空欄は國勢調査報告の未だ發表されざるもの。
* 抽出法による概數

偶率も亦高い。昭和五年全國總數は、六二二を示してゐるが、東北地方の最低、宮城、山形二縣と雖も各々

道府縣名	年次 夫妻別	昭和5年			大正9年		
		夫	妻	差	夫	妻	差
		歳	歳	歳	歳	歳	歳
總數		29.02	24.12	4.90	29.22	24.28	4.94
1 北海道	道森	28.83	23.65	5.18	29.16	23.56	5.60
2 北青	森手	26.58	21.45	5.13	26.48	21.61	4.87
3 岩宮	城田	26.58	21.73	4.85	26.63	21.92	4.71
4 秋		27.96	23.03	4.93	28.37	23.25	5.12
5 山形	山形	27.26	21.88	5.38	27.28	22.12	5.16
6 福茨	形島	27.98	23.53	4.45	28.32	23.83	4.49
7 栃群	城木	28.10	23.82	4.28	28.26	24.14	4.12
8 新	馬	28.87	24.39	4.48	28.35	24.48	3.87
9 奈	木馬	28.24	24.15	4.09	29.11	24.61	4.50
10 玉	玉	28.30	24.84	3.46	28.69	25.11	3.58
11 葉	葉	28.34	24.25	4.09	28.17	24.33	3.84
12 京	京	27.90	23.71	4.19	27.73	23.74	3.99
13 東	川	31.04	25.57	5.47	31.71	26.16	5.55
14 神	川	30.04	25.17	4.87	30.30	25.59	4.71
15 新	湯	27.49	23.60	3.89	28.10	23.94	4.16
16 富	山	27.58	22.20	5.38	28.12	22.05	6.07
17 石	川	28.38	22.77	5.61	28.93	23.04	5.89
18 福	井	28.04	22.69	5.35	28.63	23.05	5.58
19 山	梨	29.09	25.17	3.92	29.51	25.41	4.10
20 長	野	29.16	25.07	4.09	29.46	25.00	4.46
21 岐	阜	28.97	23.74	5.23	29.57	24.09	5.48
22 靜	岡	27.56	23.02	4.54	28.68	23.10	5.58
23 愛	知	28.95	23.87	5.08	29.36	24.21	5.15
24 三	重	28.66	23.82	4.84	28.98	24.05	4.93
25 滋	賀	29.33	24.20	5.13	29.86	24.62	5.24
26 京	都	29.79	24.73	5.06	30.35	24.97	5.38
27 大	阪	30.59	25.52	5.07	30.93	25.70	5.23
28 兵	庫	30.64	24.33	6.31	29.53	24.34	5.19
29 奈	良	28.70	24.40	4.30	29.10	24.61	4.49
30 和	山	28.03	24.02	4.01	29.57	24.15	5.42
31 鳥	取	27.86	23.77	4.09	27.71	23.89	3.82
32 島	根	29.09	24.29	4.80	29.28	24.41	4.87
33 岡	山	28.71	24.06	4.65	28.81	23.96	4.85
34 廣	山	29.39	24.04	5.35	29.64	23.88	5.76
35 山	口	29.77	23.88	5.89	30.36	24.27	6.09
36 德	島	27.60	23.41	4.19	28.22	23.88	4.34
37 香	川	28.71	23.85	4.86	29.23	24.01	5.22
38 愛	媛	28.96	23.98	4.98	29.31	24.22	5.09
39 高	知	28.48	23.70	4.78	28.26	23.80	4.46
40 福	岡	29.88	24.81	5.07	29.90	24.76	5.14
41 佐	賀	29.37	24.70	4.67	29.42	24.74	4.68
42 長	崎	29.77	24.86	4.91	29.76	25.06	4.70
43 熊	本	29.77	24.87	4.90	30.21	25.16	5.05
44 大	分	29.19	24.01	5.18	29.28	24.70	5.08
45 宮	崎	29.12	24.59	4.53	29.23	24.78	4.45
46 鹿	島	29.74	25.21	4.53	29.91	25.19	4.72
47 兒	繩	28.07	24.53	3.54	27.81	24.33	3.48

第八表 道府縣別夫妻平均婚姻年齡 (昭和五年、大正九年)

備考 「日本帝國人口動態統計」に據つて夫妻夫々五歳階級別婚姻件數をとり、15—19歳は17.5歳、20—24歳は22.5歳といふが如く假定し、之に各階級の婚姻件數を乗じて平均を求めた。但し15歳未満は14.5歳70歳以上は75歳と假定した。

第九表 道府縣別可婚年齢人口有配偶率

(昭和五年、大正九年)

(單位千人)

年次 道府縣名	昭和5年			大正9年		
	總數	男	女	總數	男	女
總數	622	613	630	630	629	631
1 北海道	623	596	655	655	616	701
2 北海	668	663	674	688	678	697
3 道	678	682	674	705	709	701
4 青森	631	627	634	655	648	662
5 岩手	657	653	662	679	671	686
6 宮城	631	644	620	649	660	638
7 秋田	652	668	638	669	680	659
8 山形	649	660	639	678	693	663
9 福島	644	655	632	658	673	645
10 茨城	605	624	587	617	637	598
11 群馬	620	634	608	627	650	606
12 埼玉	634	637	631	656	667	647
13 東京	541	507	580	546	513	585
14 神奈川	596	569	625	595	563	630
15 新潟	—	—	—	647	665	630
16 富山	—	—	—	674	688	660
17 石川	—	—	—	636	660	615
18 福井	632	647	618	643	663	623
19 山梨	604	609	599	627	633	621
20 長野	590	615	566	604	627	584
21 岐阜	631	634	629	641	643	640
22 静岡	636	637	636	659	662	657
23 愛知	601	607	598	624	634	615
24 三重	622	635	610	636	652	621
25 滋賀	597	617	578	659	638	583
26 京都	557	548	567	577	572	582
27 大阪	568	546	592	574	552	598
28 兵庫	609	606	613	614	600	630
29 奈良	610	617	604	620	626	615
30 和歌山	606	605	607	621	625	618
31 鳥取	—	—	—	662	683	642
32 島根	645	648	627	671	676	667
33 岡山	—	—	—	651	655	648
34 廣島	—	—	—	640	632	648
35 山口	624	621	627	641	642	641
36 徳島	643	645	640	656	663	650
37 香川	—	—	—	646	648	644
38 愛媛	634	642	626	654	664	644
39 高知	—	—	—	668	676	600
40 福岡	615	608	621	625	612	639
41 佐賀	617	637	598	634	653	617
42 長門	—	—	—	622	607	637
43 熊本	—	—	—	619	640	599
44 大分	641	656	627	658	676	642
45 宮崎	648	645	651	673	672	674
46 鹿兒島	—	—	—	627	661	596
47 沖縄	600	628	577	601	625	579

備考「國勢調査報告書」に據る。
 (1) 抽出法による結果に基く。
 (2) 空欄は報告書の未だ發表されざるもの。

六三一であつて、遙に全國の平均を超えてゐる。この地方の最高は、岩手縣の六七八であつて、青森縣の六六八これに次ぎ、秋田縣六五七、福島縣六五二の順位である。かくの如くこの地方は婚姻率、従つて有配偶率に於て全國最高の地域であり、平均婚姻年齢から云へば、最も早婚なる地方であつて、この點からも出生率並に出産力が高いことは明かである。

3 死 亡

以上の如く、この地方は婚姻率、出生率の著しく高き地方であるが、死亡率も亦一般に高い。

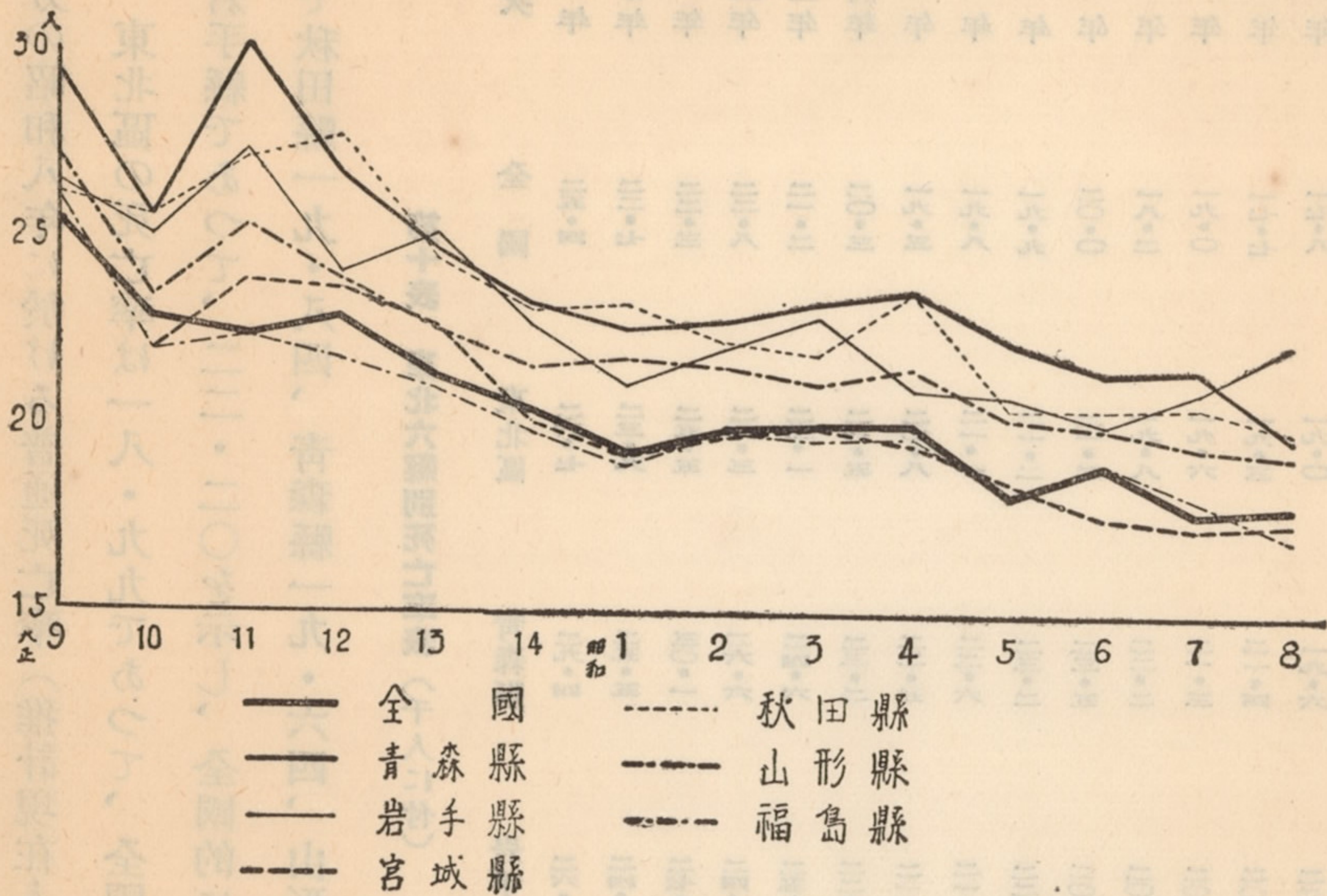
この地方の昭和八年に於ける普通死亡率（推計現在人口千につき現在地別死亡数の比率）を見れば、第一表の如く、東北區の死亡率は一八・九九であつて、全國の一七・七六を超えてゐる。東北六縣中最高を示すものは、岩手縣であつて、二二・二〇を示し、全國的には石川、福井二縣に次いで第三位を占めてゐる。岩手縣に次で秋田縣一九・八四、青森縣一九・六四、山形縣一九・一六、宮城一七・四一の順位であつて、福

第十表 東北六縣別死亡率表（千人に付）

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	二五・四	二六・七	二九・四	二六・四	二六・〇	二六・一	二七・二	二六・〇
一〇年	二三・七	二三・九	二五・五	二四・九	二三・九	二五・五	二三・四	二二・九
一一年	二三・三	二五・五	三〇・一	二七・三	二三・八	二七・一	二五・三	二三・八
一二年	二三・八	二四・三	二六・六	二四・〇	二三・六	二七・六	二三・八	二二・七
一三年	二二・二	二三・一	二四・六	二五・〇	二三・六	二四・四	二三・五	二〇・九
一四年	二〇・三	二二・五	二三・二	二三・六	二〇・一	二三・〇	二二・五	一九・八
昭和元年	一九・三	二〇・八	二三・五	二二・〇	一九・二	二三・二	二二・七	一八・九
二年	一九・八	二二・一	二三・六	二二・九	一九・七	二三・一	二二・五	一九・八
三年	一九・九	二二・二	二三・二	二三・八	一九・九	二二・八	二二・〇	一九・六
四年	二〇・〇	二二・二	二三・五	二〇・九	一九・五	二三・五	二二・四	一九・七
五年	一八・二	一九・八	二三・二	二〇・七	一八・五	二〇・四	二〇・二	一八・二
六年	一九・〇	一九・六	二三・三	二〇・〇	一七・六	二〇・四	一九・九	一九・〇
七年	一七・七	一九・三	二二・四	二〇・九	一七・三	二〇・五	一九・四	一八・〇
八年	一七・八	一九・〇	一九・六	二三・二	一七・四	一九・八	一九・二	一七・〇

第三圖 東北六縣別死亡率圖

(千人に付)



島縣の一七・〇二が最低である。福島、宮城兩縣を除けば、何れも全國の死亡率の上位に位する。

次に大正九年より昭和八年に至る十四ヶ年間の死亡率の變動を全國のそれと對比すれば第十表竝に第三圖の如くである。福島、宮城の二縣はこの間大體に於て、特に昭和年間に入つて以來殆んど全國の水準を往來してゐる。之に對して爾餘の四縣はいづれも連年全國の水準の遙かに上位に於て變動をみせてゐるが、その中一般に青森縣が最高を示し、秋田、岩手、山形諸縣の順位であつて、出生率の順位と相照應する。ただこゝに見逃がしてならないのは最近二、三年間岩手縣が全國竝に爾餘の東北諸縣の傾向とは反對に相當顯著な増大を示してゐるといふことである。

又、この間全國の死亡率は相當顯著な低減の傾向

を示してゐるが、大體に於てこの地方の死亡率も亦減退をみせてゐる。然しその傾向は東北六縣別死亡率指數表（第十一表）によつて知らるゝ如く、全國の低下傾向よりも幾分緩慢であるかの如くである。

第十一表 東北六縣別死亡率指數表

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一〇年	89.4	89.6	86.9	94.2	88.0	97.6	85.8	84.3
一一年	87.8	95.5	102.6	103.3	91.4	103.9	93.1	87.8
一二年	89.8	90.8	90.4	91.1	90.6	105.9	87.5	83.4
一三年	83.5	86.3	83.7	94.9	86.8	93.6	82.6	80.4
一四年	79.9	80.4	79.0	85.6	77.1	88.2	78.9	76.2
昭和元年	75.6	78.0	76.7	79.5	73.7	80.8	79.8	72.7
二年	78.0	78.8	77.1	83.0	75.7	84.8	79.0	76.3
三年	78.3	79.2	78.9	86.5	76.4	83.6	77.3	75.4
四年	78.7	79.3	80.1	79.1	74.8	90.2	78.8	75.7
五年	77.7	74.1	75.7	76.5	70.9	78.2	74.2	70.2
六年	74.8	73.2	72.4	75.6	67.5	78.0	73.2	73.2
七年	69.7	73.4	73.9	79.0	66.3	78.5	72.7	69.2
八年	70.1	72.1	66.9	84.1	66.9	76.0	70.4	65.5

こゝに注意すべきはこの地方の人口年齢構成の上記の如き特色から見て、死亡率の比較的高い幼年人口の割合が多いのであるから、かやうな年齢階級の割合が比較的少い地方、特に都市的な府縣に比してその普通

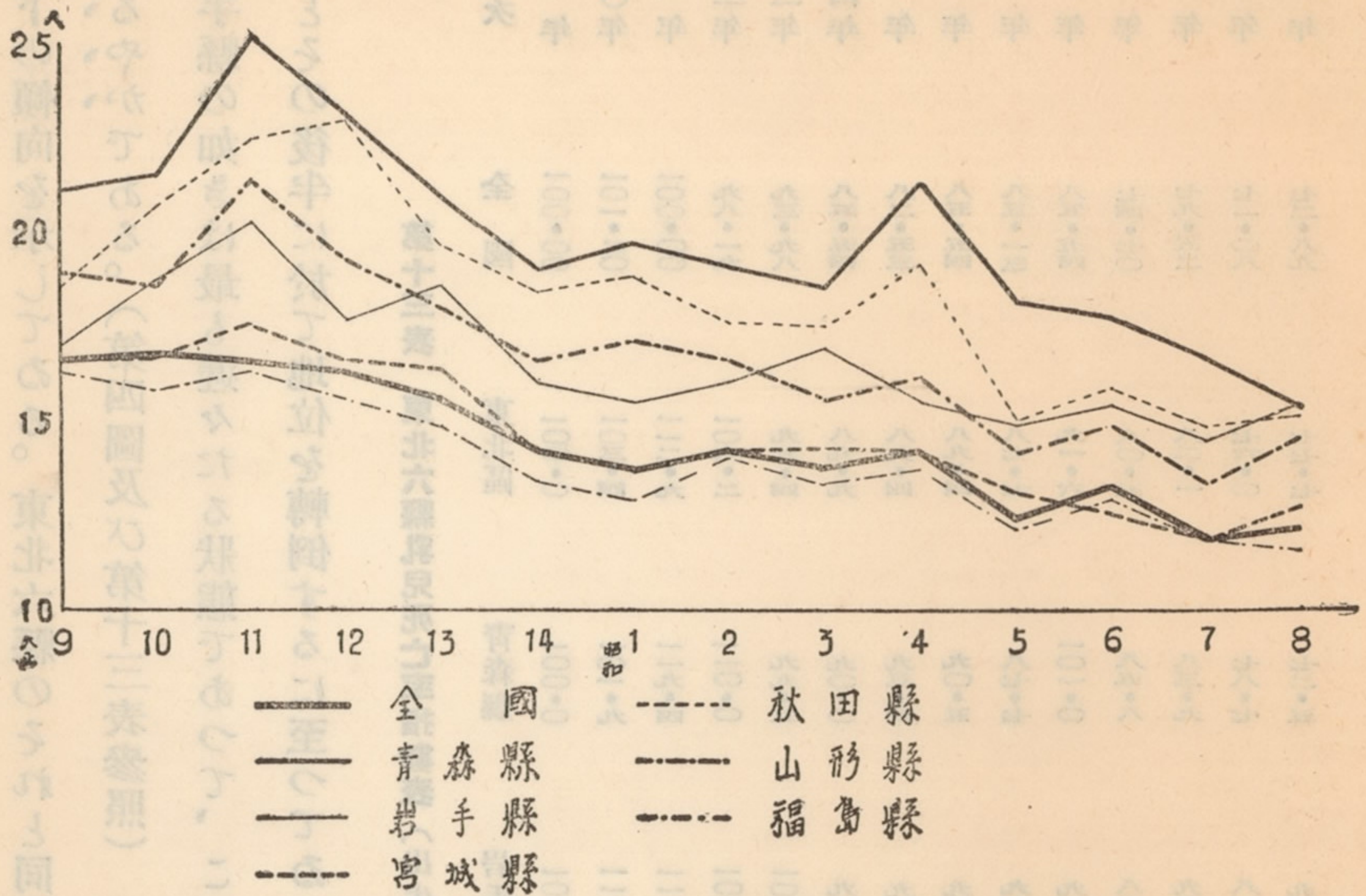
死亡率は稍々過大に評價せられてゐる傾があるといふことである。

次に一般に死亡率の決定的條件であると云はれてゐる如く死亡中重要な地位を占める乳兒死亡の状態を見れば、東北六縣乳兒死亡率（出生百に付き乳兒死亡數の比率）平均は一四・一であつて、全國の一・一・一を遙に超えてゐる、岩手縣は東北最高一五・四を示し、富山、石川、福井の北陸三縣に次いで全國第四位の高率

第十二表 東北六縣別乳兒死亡率表（出生百に付）

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	一六・六	一七・九	二二・一	一七・〇	一六・六	一八・五	一八・九	一六・三
一〇年	一六・八	一八・五	二二・五	一八・七	一六・七	二〇・七	一八・六	一五・八
一一年	一六・六	二〇・二	二五・二	二〇・三	一七・六	二三・五	二二・四	一六・三
一二年	一六・三	一九・〇	二三・二	一七・七	一六・六	二三・〇	一九・三	一五・六
一三年	一五・六	一七・八	二二・〇	一八・六	一五・九	一九・七	一八・〇	一四・九
一四年	一四・二	一六・一	一九・〇	一六・〇	一四・二	一八・四	一六・六	一三・四
昭和元年	一三・七	一六・〇	一九・七	一五・五	一三・七	一八・八	一七・一	一二・九
二年	一四・二	一六・一	一九・一	一六・一	一四・二	一七・六	一六・六	一四・〇
三年	一三・八	一五・七	一八・五	一六・九	一四・三	一七・〇	一五・六	一三・三
四年	一四・二	一六・四	二二・三	一五・五	一四・二	一九・二	一六・二	一三・七
五年	一二・四	一四・四	一八・一	一四・八	一三・一	一五・〇	一四・二	一二・一
六年	一三・二	一四・七	一七・七	一五・四	一二・五	一五・八	一四・八	一二・九
七年	一二・八	一三・六	一六・六	一四・四	一二・八	一四・八	一三・三	一一・八
八年	一二・一	一三・九	一五・三	一五・四	一二・七	一五・一	一四・五	一一・六

第四圖 東北六縣別乳兒死亡率圖表
(出生百人に付)



を示してゐる。

岩手縣に次いで、青森縣一五・三、秋田縣一五・一、山形縣一四・五の順位であつて、死亡率の低い福島、宮城兩縣は乳兒死亡率も亦低く、夫々一一・六、一一・七を示してゐる。

今、大正九年より昭和八年に至る十四ヶ年間のこの地方の乳兒死亡率の變動を全國のそれと對比して示せば第十二表並に第四圖の如くである。即ち、この地方として死亡率の低い福島、宮城二縣は乳兒死亡率も亦低く極めて全國の水準に接近し、之を上下して變動してゐる。この間、青森縣は連年全國の水準よりも著しく高くこの地方の最高を示し、之に次いで死亡率の順位と照應して秋田、岩手、山形諸縣の順位である。

この十四ヶ年間に於て全國の乳兒死亡率は相當顯

著なる低下の傾向を示してゐる。東北六縣のそれと同じく低下の傾向を示してゐるが、全國の趨勢に比して遙かにゆるやかである。(第四圖及び第十二表參照)

特に岩手縣の如きは最も遅々たる状態であつて、この期間の前半に於て寧ろ岩手縣よりも幾分高位にあつた山形縣とその後半に於て地位を轉倒するに至つてゐる。

第十三表 東北六縣乳兒死亡率指數表 (出生人口百に付)

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
一〇年	101.20	103.40	101.90	110.00	100.60	111.90	98.40	96.90
一一年	100.00	112.90	119.40	119.40	106.00	121.60	113.20	100.00
一二年	98.19	106.20	110.00	104.10	100.00	124.30	101.10	95.70
一三年	93.98	99.40	99.50	109.40	93.50	106.50	95.20	91.40
一四年	85.54	89.90	90.00	94.10	85.50	99.50	87.80	82.20
昭和元年	82.53	89.40	93.40	91.20	82.50	101.60	90.50	79.10
二年	85.54	89.40	90.50	94.70	85.50	95.10	87.20	85.90
三年	83.13	87.70	87.70	99.40	86.10	91.90	82.50	81.60
四年	85.54	91.60	101.00	91.20	85.50	103.80	85.70	84.10
五年	74.70	80.50	85.80	87.10	78.90	81.10	75.10	74.20
六年	79.52	82.10	83.90	90.60	75.30	85.40	78.30	79.10
七年	71.08	76.00	78.70	84.70	71.10	80.00	70.40	72.40
八年	73.89	77.70	72.50	90.60	76.50	81.60	76.70	71.20

最後に附言すべきは東北地方に於て、普通死亡率が全國の水準より高いこと上述の如くであるが、特に乳兒死亡率に於てはその隔りがより一層擴大せられてゐるといふことである。

4 自然増加

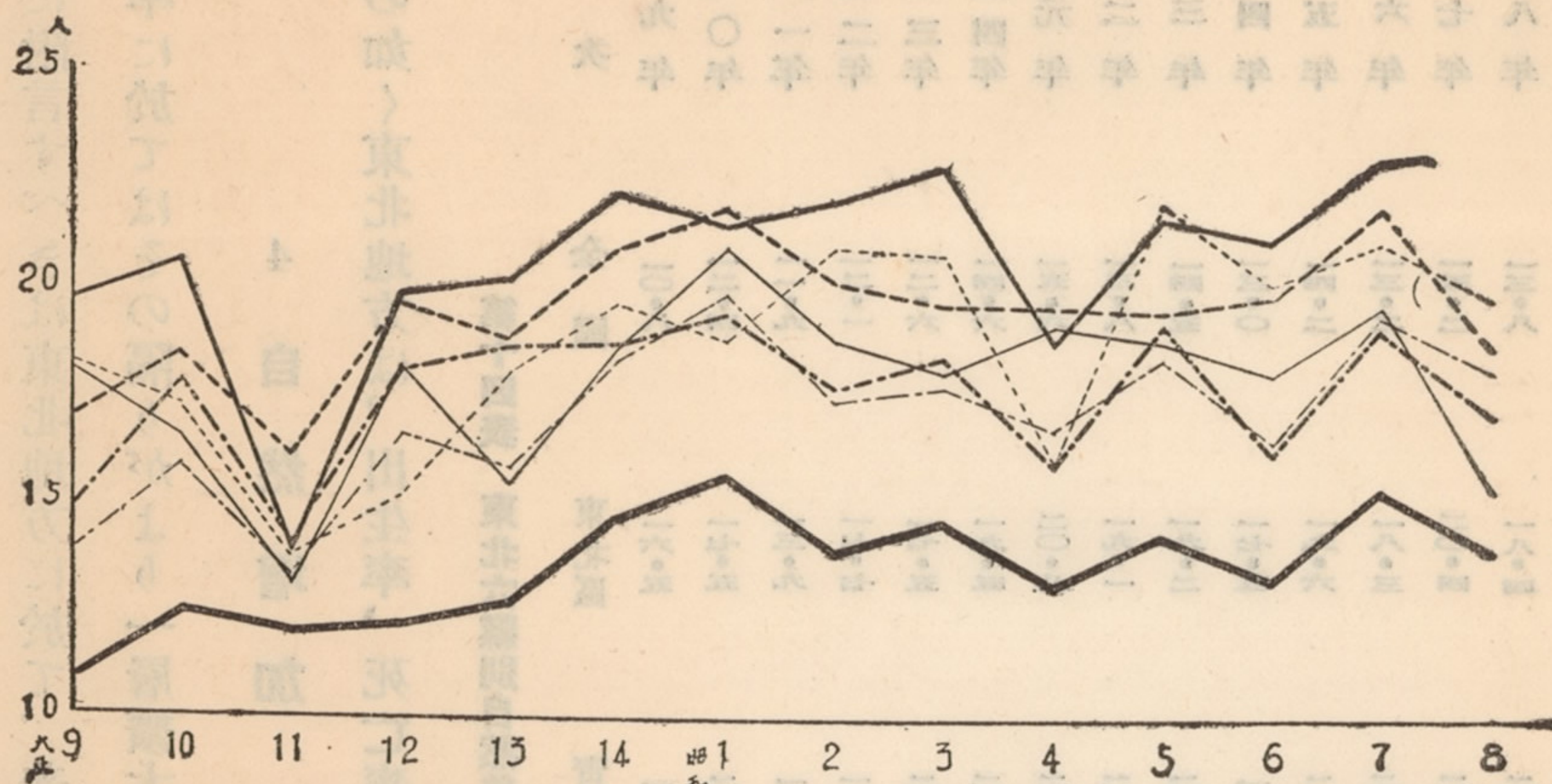
以上の如く東北地方は、出生率、死亡率共に高いのであるが、自然増加即ち出生の死亡に對する差増の率

第十四表 東北六縣別自然差増率表（千人に付）

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	一〇・八	一六・五	一九・六	一八・〇	一六・九	一八・二	一四・八	一三・八
一〇年	一二・四	一七・五	二〇・五	一六・四	一八・四	一七・二	一七・八	一五・八
一一年	一一・九	一三・九	一三・八	一三・一	一五・九	一三・六	一四・〇	一二・三
一二年	一二・一	一七・七	一九・七	一八・一	一九・五	一五・〇	一八・〇	一六・五
一三年	一二・六	一七・五	二〇・一	一五・四	一八・七	一七・九	一八・五	一五・七
一四年	一四・六	一九・五	二二・〇	一八・五	二〇・八	一九・五	一八・六	一八・二
昭和元年	一五・六	二〇・八	二二・三	二〇・八	二二・七	一八・七	一九・三	一九・八
二年	一三・八	一九・一	二二・九	一八・七	二〇・三	二〇・八	一七・六	一七・三
三年	一四・五	一九・二	二二・七	一七・九	一九・五	二〇・七	一八・三	一七・六
四年	一三・〇	一七・五	一八・六	一九・〇	一九・四	一五・九	一五・八	一六・六
五年	一四・二	一九・六	二二・五	一八・七	一九・三	二二・九	一九・一	一八・三
六年	一三・二	一八・三	二二・〇	一七・九	一九・七	二〇・〇	一六・一	一六・三
七年	一五・二	二〇・四	二三・九	一九・五	二二・八	二〇・九	一九・〇	一九・三
八年	一三・八	一八・四	二三・二	一五・二	一八・五	一九・六	一七・〇	一八・〇

第五圖 東北六縣別自然増加率圖表

(千人に付)



全青森
 全岩手
 全宮城
 全秋田
 全山形
 全福島

も著しく高いのである。

東北區の自然増加率は、人口千につき一八・四三であつて、全國の一三・七九に比すれば、著しく高いと云はなければならぬ。東北六縣中最高は青森縣の二三・一七であつて、全國の第一位に位する。青森縣に次いで、秋田縣の一九・六三はこれ亦全國の第二位を占め、宮城縣一八・四七、福島縣一七・九五、山形縣一七・〇〇の順位であり、岩手縣の一五・二〇を最低とする。以上何れも全國各府縣の率を遙に凌駕し、自然増加率の最も高き地方を形成してゐる。

今、大正九年より昭和八年に至る十四ヶ年間の變動を見るに、出生率の低下の速度よりも死亡率の低下の速度が稍々急なる爲に全國の自然増加率の傾向は上昇を示してゐる。然るに東北地方に於ては前述の如く、出生率の低下の傾向は全國のそれと大體同様の歩調を

迎つてゐるが、死亡率の低減が全国のそれよりも緩慢である爲に、この地方の自然増加率の上昇は全国よりもやゝ著しく緩慢である。それにも拘らず今日尙依然としてその自然増加率が全国に冠絶すること上述の如くである。

第十五表 東北六縣別自然増加率指數表

年次	全國	東北區	青森縣	岩手縣	宮城縣	秋田縣	山形縣	福島縣
大正九年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一〇年	114.8	115.6	114.2	91.4	118.4	94.6	110.2	114.4
一一年	110.2	84.1	70.1	73.6	94.2	75.1	94.7	95.4
一二年	113.0	116.9	100.5	101.0	115.2	82.8	111.8	119.3
一三年	116.7	115.9	101.2	85.5	110.5	96.5	115.4	113.5
一四年	115.1	117.6	111.2	103.0	113.9	107.0	115.7	111.8
昭和元年	114.4	116.0	108.5	115.7	117.9	103.0	110.3	114.3
二年	117.8	115.4	111.3	103.9	118.3	114.4	119.0	114.9
三年	114.3	116.3	115.6	99.9	115.2	114.0	113.6	117.3
四年	110.4	115.6	94.9	105.9	114.5	87.5	106.7	110.0
五年	111.5	118.6	109.5	103.9	113.8	110.3	119.1	113.2
六年	113.2	110.6	107.0	99.6	116.6	110.1	109.0	117.7
七年	1140.7	113.5	116.3	108.7	118.6	115.2	118.4	119.3
八年	117.8	111.4	118.0	84.7	109.1	108.0	115.1	119.7

二 現在人口の傾向

大正九年の國勢調査より昭和五年の國勢調査に至る十ヶ年間に於ける現在人口の増加率を見るに、東北區の増加率は一三・九%であつて全國の増加率一五・二%に比し下位に位する。然るに宮城縣は一八・八%青森縣は一七・三%岩手縣一五・四%であつて以上三縣は何れも全國の増加率よりも高く、殊に宮城縣の増加率一八・八%は大都市を擁する東京、大阪、神奈川、京都等を除外すれば、全國の第二位を占め青森に於ては第五位、岩手縣に於ても、第八位といふ高位にある。之に反して秋田、福島、山形の三縣は増加率低く、夫々、九・九、一〇・七、一一・五を示してゐる。これ等三縣の全國に於ける位置は、次表の如く山形縣第十五位、福島縣第十七位に位し、大都市所在府縣を除くも尙且つ第十位及第十二位といふ、全國三分の一の地位を占めてゐる。以上の如くこの地方の現在人口の増加は、截然二つの異つた地域に分けることが出来る。青森、岩手、宮城三縣は、増加率著しく高く、非都市的府縣としては、その高き事に於て、寧ろ異例に屬するのであつて、これに對して爾餘の三縣は増加率遙に全國のその下位にあるが、全國的に見れば寧ろ比較的上位に位すると云はなければならぬ。

更に推計人口を以て大正九年より昭和七年に至るまでの、現在人口増加の傾向を示せば、以下の如くである。

第十六表 大正九年—昭和五年現在人口増加率

府縣名	増加率	府縣名	増加率	府縣名	増加率	府縣名	増加率
全 國	一五・二	福 島	一〇・七	新 潟	八・八	愛 知	二二・九
東 北 區	一三・五	茨 城	一〇・一	富 山	七・六	三 重	八・二
北 海 道	一九・二	枋 木	九・一	石 川	一・三	滋 賀	六・二
青 森	一七・三	群 馬	一二・七	福 井	三・二	京 都	二〇・六
岩 手	一五・四	埼 玉	一〇・六	山 梨	八・二	大 阪	三六・八
宮 城	一八・八	千 葉	一〇・〇	長 野	九・九	兵 庫	一五・〇
秋 田	九・九	東 京	四六・二	岐 阜	一〇・一	奈 良	五・六
山 形	一一・五	神 奈 川	二二・四	靜 岡	一六・〇	和 歌 山	一〇・七
府縣名	増加率	府縣名	増加率	府縣名	増加率	府縣名	増加率
福 島	一五・五	鳥 取	七・六	高 知	七・〇	沖 繩	一・〇
東 北 區	一三・五	島 根	三・五	愛 媛	九・一	鹿 兒 島	一〇・〇
北 海 道	一九・二	岡 山	五・四	香 川	八・一	宮 崎	一六・八
青 森	一七・三	廣 島	九・七	德 島	六・九	大 分	九・九
岩 手	一五・四	山 口	九・一	島 川	八・一	熊 本	九・八
宮 城	一八・八	廣 島	九・七	香 川	八・一	宮 崎	一六・八
秋 田	九・九	山 口	九・一	愛 媛	九・一	鹿 兒 島	一〇・〇
山 形	一一・五	山 口	九・一	高 知	七・〇	沖 繩	一・〇

備考 日本帝國統計年鑑に據り算出す。

第十七表 東北六縣現在人口増加

縣 名	大正九年		大正十四年		昭和五年		大正十四年—昭和五年増加		大正九年—昭和五年増加	
	現在人口	實 數	現在人口	實 數	現在人口	實 數	實 數	比%	實 數	比%
全 國	五五、九六三、〇三三	三、七九、七六九	五九、七三六、八三三	六、七	六四、四五一、〇五五	四、七三、一八三	七・九	八、四八六、九二五	一五・二	
東 北 區	五、七九三、九七四	三六五、三三四	六、一五九、二九八	六・一	六、五七四、三五九	四一五、〇六一	六・三	七、八〇、三八五	一三・五	
青 森	七五〇、四五四	五五、五三三	八二二、九七七	七・五	八七九、九二四	六六、九三七	八・二	一二九、四六〇	一七・三	
岩 手	八四五、五四〇	五五、四四四	九〇〇、九八四	六・六	九七五、七七一	七四、七六七	八・三	一三〇、三三一	一五・四	
宮 城	九六一、七六八	八二、二六八	一、〇四四、〇三六	八・六	一、一四二、七六四	九八、七四八	九・五	一八一、〇一六	一八・八	
秋 田	八九八、五三七	三七、八七一	九三六、四〇八	四・二	九八七、七〇六	五二、二九八	五・五	八九、一六九	九・九	
山 形	九六八、九二五	五八、三七二	一、〇二七、二九七	六・〇	一、〇八〇、〇三四	五二、七三七	五・一	一一一、一〇九	一一・五	
福 島	一、三六二、七五〇	七四、八四六	一、四三七、五九六	五・五	一、五〇八、一五〇	七〇、五五四	四・九	一四五、四〇〇	一〇・七	

備考 國勢調査報告に據る。

第十八表 東北地方推計人口

年次	全國	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	全國	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
大正九年	五五、九六三、〇五三	七五、四五四	八四五、五四〇	九六一、七六八	八九八、五三七	九六八、九五五	一、三六二、七五〇	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
一〇年	五六、七八七、三〇〇	七六四、八〇〇	八五四、八〇〇	九六八、五〇〇	九〇六、八〇〇	九七六、一〇〇	一、三八一、〇〇〇	101.10	101.10	101.10	100.69	100.91	100.73	101.33
二年	五七、六五五、八〇〇	七七三、二〇〇	八六四、二〇〇	九七五、二〇〇	九二四、九〇〇	九八三、四〇〇	一、三九八、八〇〇	102.30	102.11	102.00	101.48	101.82	101.49	102.64
三年	五八、四八一、五〇〇	七八一、六〇〇	八七三、一〇〇	九八一、三〇〇	九三二、六〇〇	九八九、八〇〇	一、四一六、一〇〇	103.60	103.33	103.25	102.03	102.67	102.15	103.91
一三年	五九、一三八、九〇〇	七九一、〇〇〇	八八二、二〇〇	九九二、〇〇〇	九三二、八〇〇	九九八、四〇〇	一、四三七、九〇〇	104.90	104.56	104.33	103.15	103.70	103.04	105.51
一四年	五九、七三六、八三三	八二二、九七七	九〇〇、九八四	一、〇四四、〇三六	九三六、四〇八	一、〇二七、二九七	一、四三七、五九六	106.20	107.47	106.55	108.55	104.21	106.02	105.49
昭和元年	六〇、五二一、六〇〇	八二四、七〇〇	九二二、五〇〇	一、〇六一、一〇〇	九四四、三〇〇	一、〇三九、四〇〇	一、四五三、二〇〇	107.70	109.02	107.91	110.33	105.09	107.27	106.63
二年	六一、三六六、六〇〇	八三六、六〇〇	九二四、二〇〇	一、〇七六、五〇〇	九五二、三〇〇	一、〇五一、七〇〇	一、四八六、九〇〇	109.50	110.59	109.30	112.13	105.98	108.54	107.78
三年	六一、二二二、二〇〇	八四八、七〇〇	九三六、〇〇〇	一、〇九六、〇〇〇	九六〇、三〇〇	一、〇六四、二〇〇	一、四八四、九〇〇	111.00	112.19	110.69	113.95	106.87	109.83	108.96
四年	六二、九三八、二〇〇	八六〇、九〇〇	九四八、〇〇〇	一一、一三三、八〇〇	九六八、五〇〇	一、〇七六、八〇〇	一、五〇一、一〇〇	112.60	113.80	112.11	115.80	107.78	111.13	110.15
五年	六四、四五〇、〇〇五	八七九、九一四	九七五、五五一	一一、四二二、七八四	九八七、七〇六	一、〇八〇、〇三四	一、五〇八、一五〇	114.10	116.33	115.37	118.82	109.92	111.46	110.66
六年	六五、三六六、五〇〇	八九二、九〇〇	九九〇、三〇〇	一一、六一、〇〇〇	九九七、七〇〇	一一、〇九〇、三〇〇	一、五二一、九〇〇	115.70	118.03	117.22	120.81	111.03	112.52	111.67
七年	六六、二九六、〇〇〇	九〇六、一〇〇	一、〇〇五、一〇〇	一一、八一、五〇〇	一、〇〇七、八〇〇	一一、一〇〇、七〇〇	一、五三五、八〇〇	117.30	119.78	118.87	122.84	112.26	113.60	112.69

備考 日本帝國統計年鑑に據る。

大正九年より昭和七年に至る十三ヶ年間の東北六縣に於ける推計現在人口の増加の傾向を見るに、同年間に於ける内地現在人口の傾向を標準とすれば、(茲に於ける數字は日本帝國統計年鑑所載の推計人口にして大正九年大正十四年及び昭和五年は國勢調査人口) 青森、岩手、宮城の三縣は増加の比率に於て標準よりも遙かに高位にをり、秋田、山形、福島の三縣は漸増の傾向にあるも標準に比し低位である。

本邦内地現在人口の實數は、大正九年に於て五五、九六三千人を示し昭和七年に於ける推計は、六六、二九六千人を示せるを以て、大正九年に於ける實數を一〇〇・〇〇とせる基準に照し、昭和七年に於て一一七・三の増加指數を示してゐる。

然るに東北各縣に於ける現在人口の増加の傾向は、内地現在人口の數量的傾向を標準とすれば、左に示すが如き状態に在る。

青森縣は、大正九年に於て現在人口七五六、四五四人、昭和七年に於て九〇六、一〇〇人を示せるを以て、大正九年に於ける實數を基準指數一〇〇・〇〇とせば昭和七年には一一九・七八の増加指數を示す。この年に於ける内地標準指數に比し二・四八の高位にある。

岩手縣は、大正九年に於ける現在人口八四五、五四〇人、昭和七年に於て一、〇〇五、一〇〇人を示せるを以て、大正九年に於ける基準に照し、昭和七年には、一一八・八七の増加指數を示しこの年度に於ける内地標準指數に比し、一・五七の高位に在る。

宮城縣は大正九年に於て九六一、七六八人、昭和七年に於て一、一八一、五〇〇人なるを以て大正九年に於ける基準に照し昭和七年には、一二二・八四の増加指數を示し、この年度の内地標準指數一一七・三に比し五・五四の高位に在る。

されば、以上三縣に於ける右年間の現在人口増加の趨勢を表示せる指數は内地標準指數よりも高く、そ

の順位は、宮城縣最も高く、(十五・五四)を示し、次位は青森縣にして、(十二・四八)、岩手縣第三位を占め、(十一・五七)を示してゐる。

之に反し、秋田縣は、大正九年に於て、現在人口八九八、五三七人、昭和七年に於て一、〇〇七、八〇〇人にして大正九年に於ける基準に照し、昭和七年には一一二・一六の増加指數を示せるも、この年度に於ける内地標準指數の一七・三に比すれば五・一四の低位に在る。

山形縣は、大正九年に於て現在人口九六八、九二五人、昭和七年に於ての推計人口一、一〇〇、七〇〇人にして、大正九年に於ける基準よりの指數にて一一三・六〇の増加指數を示すも、この年度の内地標準指數に比し三・七〇の低位にある。(二・四八)の高位に在る。

福島縣は、大正九年に於て現在人口一、三六二、七五〇人、昭和七年に於て一、五三三、八〇〇人を示し、大正九年に於ける基準に照し、昭和七年には一一二・六九の増加指數を示せるも、この年度の内地標準指數より見れば四・六一の低位に位する。

故に以上三縣に於ける右年間の現在人口増加の趨勢を表示せる指數は、内地標準指數よりも低く、低下の順位は、秋田縣最も低く、(一五・一四)を示し、次位は福島縣にして(一四・六一)を示し、山形縣は、三・七〇にして第三位を占めてゐる。

東北六縣に於ける數量的増加の傾向に關し、現象上の認識を明確にせむが爲、東北六縣の各々に就き最小

自乗法の直線を以て其の傾向を示せば次の如くである。

即ち標準直線たる内地現在人口の數量的傾向線の位置は、昭和七年の時點に於て五十五度四十分の角度を示してゐる。然るに青森、岩手、宮城の三縣の各現在人口を示せる直線の位置は、同時點に於て内地標準直線に比し遙かに高く、順位に於て宮城縣は最高位を示し六十四度一分十五秒、青森縣は、次位を示し五十九度四十七分十四秒、岩手縣は、第三位にをり、五十七度四十三分の地位を示してゐる。

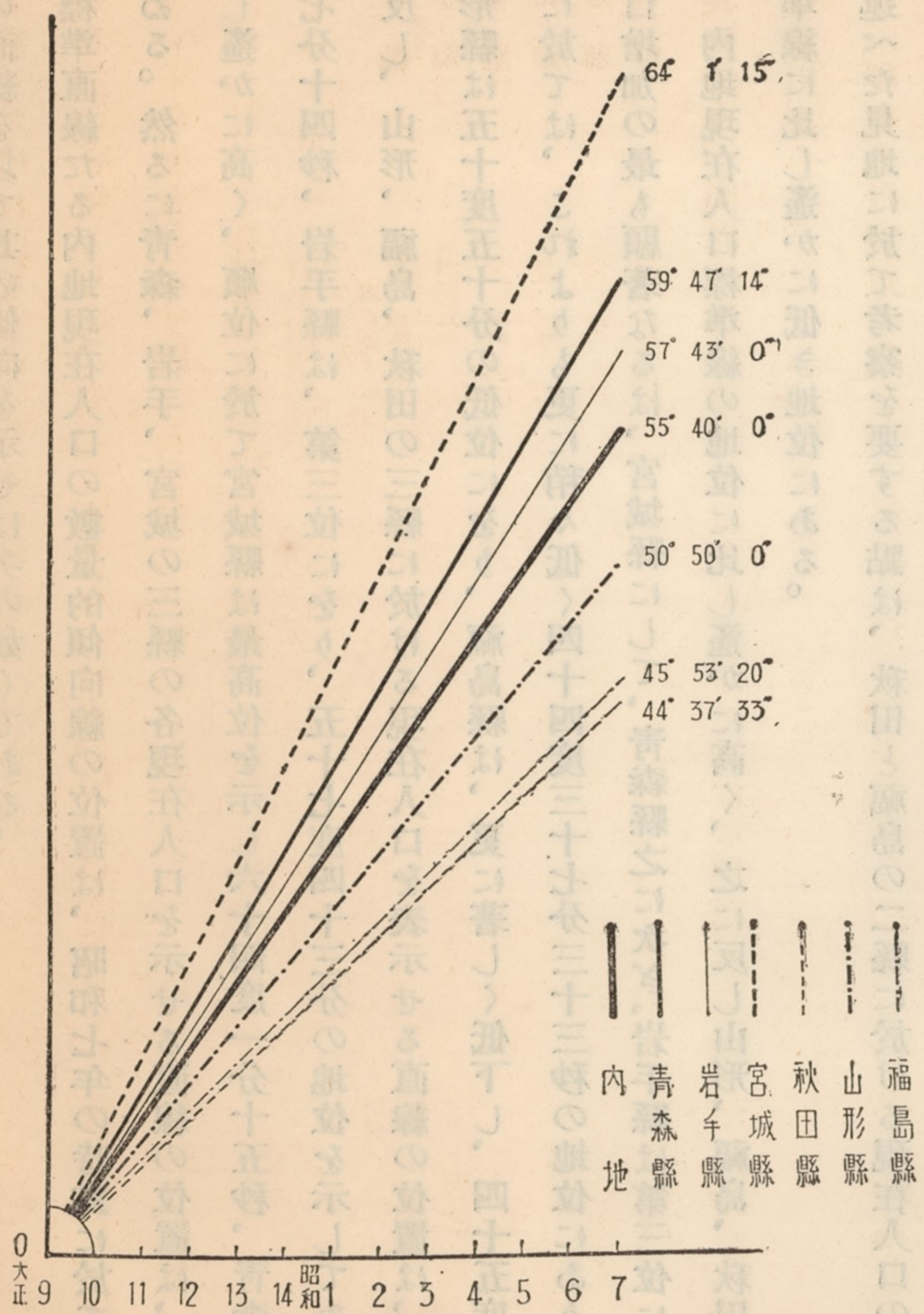
之に反し、山形、福島、秋田の三縣に於ける現在人口を表示せる直線の位置は、内地標準直線に比し低下し、山形縣は五十度五十分の低位にをり、福島縣は、更に著しく低下し、四十五度五十三分二十秒を示し、秋田縣に於ては、これよりも更に稍々低く四十四度三十七分三十三秒の地位にあり故に最近十三年間を通じ現在人口増加の最も顯著なるは、宮城縣にして、青森縣之に次ぎ、岩手縣は第三位にあり。此等三縣に於ける傾向は、内地現在人口標準線の地位に比し遙かに高く、之に反し山形、福島、秋田の三縣に於ける傾向は、内地標準線に比し遙かに低き地位にある。

以上述べた見地に於て考察を要する點は、秋田と福島との二縣に於ける現在人口の増加傾向である。秋田、青森、岩手、山形の傾向の高きは、大體に於てその各々に於ける自然差増の傾向の高きに依つて影響せられる結果と見て差支ない。

然るに福島縣と秋田縣は自然増加の傾向高く、前者は七十四度四十八分四十九秒、後者は七十五度三十五分

十九秒といふ如き傾向の高さを示すに拘らず、現在人口の増加の傾向は甚だ低く福島縣は四十五度強、秋田縣は四十四度強の低位にあるを以て、自然増加の傾向と現在人口増加の傾向との開きは、福島縣は二十九度十一分二十九秒、秋田縣は三十度五十七分四十六秒の高角を示してゐる。これを兩傾向の開きに於て青森の

第六圖 現在人口傾向線



以上並へき長敷の角を以て、秋田縣の傾向は、現在人口の増加の傾向の十三度五十八分三十三秒、岩手の十四度三十分八秒、宮城の十二度十五分六秒の角度に比すれば、福島縣と秋田は、自然増加の傾向に對して現在人口増加の傾向は甚だ低位にあるのを知る。そこでこの兩縣が自然増加の傾向高いにも拘らず現在人口増加の傾向の甚だ低いは如何なる理由に依

るかを考察しなければならぬ。

これが考察の資料として、東北六縣各々の自然差増の傾向の大きさ（角度）と現在人口の實數に依る割合に就き、次にその割合を示す關係表を掲げておく。

自然差増及現在人口傾向關係表

縣名	自然増の角度		換算		現在人口實數の割合 大正九年基準	結果Cに對する青森縣を基準とせる指數
	A	A'	B	A'/B		
青森縣	七三度四分	二六五・五四七	100・00	二、六五・四七	100・00	100・00
岩手縣	七三度二分	二五九・九八八	二八・二	二、二〇・一七	八二・五八	八二・五八
宮城縣	六六度二分	二七四・五八一	二七・四	二、一五・六七	八二・三	八二・三
秋田縣	七五度五分	二七二・一九	一八・六	二、二九・〇五	八六・二七	八六・二七
山形縣	六六度四分	二四七・七三	二八・〇九	一、九三・九七	七三・八三	七三・八三
福島縣	七四度四分	二六九・三九	二八・一五	一、四九・〇三	五三・六	五三・六

右の表に依り、傾向の基準年度たる大正九年に於ける現在人口の割合は、福島縣は他の縣に比し甚だ高いことを知るであらう。

右表中（現在人口實數の割合）B項目に於て、青森一〇〇・〇、岩手一一八・一一、宮城一二七・一四、秋田一一八・七八、山形一二八・〇九に對し一八〇・一五の高率である。かく傾向の基準に於て福島縣は最初より現在人口の數量が高きを以て、之れに自然差増の數量的影響が結果としての傾向の高さに及ぼさぬ。即ち福島縣にありては現在人口の増加の割合を表現せる傾向直線に自然差増の影響少く、従つて福島縣の現在人

口の増加を表現したる傾向線が低角を示す所以である。即ち右表中 C 項目に於て福島縣が指數五六・三六の低きにゐるのは數字的に之を立證するものである。

然るに秋田縣の現在人口の傾向線の低いは、福島縣の場合と趣を異にする。何となれば傾向の基準に於て現在人口の割合は他に比し福島縣の如く高率ではなく、右表中 C 項目に於ける八六・二七の高き指數を示すは、福島縣の場合と異り現在人口傾向線に對する自然差増の影響高き事を意味する。従つて秋田縣にありては自然差増の傾向の高きが如くにその現在人口線も傾向の高かるべき筈なるに拘らず、實際に於ては既に説明せる如く、現在人口傾向の低きは、人口の縣外移動の行はるゝ結果であると推定することが出来る。

三 移 動

人口の地域的移動に關しては直接利用し得る資料は殆んどないと云つて差支へない。こゝには人口自然増加と現在人口増加との關係竝に國勢調査による出生地別人口によつてその一端を窺ふにとどめ、將來の研究に俟つこととする。

先づ昭和五年國勢調査報告府縣編によつて、大正九年より昭和五年に至る十ヶ年間に死亡に對する出生の超過と現在人口増加とを比較することによつて、この間の來住往住の差を推定し、長期竝に一時的移動の状態を考察することとする。その爲上掲國勢調査報告によつて第十九表を作製し、特に來住に對する往住の超過、

第十九表 自大正九年 至昭和五年 自然増加と現在人口の増加

		自然増加(A)	現在人口増加(B)	來住ニ對スル 往住ノ超過(C)	$\frac{C}{A} \times 100$	移出超過 割合ノ順位
總	數	—	—	—	—	
東	北 區	1,115,222	780,395	334,837	30.02	
1	北 道	514,804	450,152	61,652	11.98	26
2	青 森	163,769	123,460	40,309	24.61	19
3	岩 手	158,424	130,231	28,193	17.80	23
4	宮 城	200,395	181,016	19,379	9.67	27
5	秋 田	168,921	89,166	79,752	47.21	9
6	山 形	180,464	111,109	69,355	38.43	14
7	福 島	243,249	145,400	97,849	40.23	11
8	茨 城	203,928	136,836	67,092	32.90	17
9	栃 木	190,951	95,258	95,693	50.11	6
10	群 馬	172,886	133,470	39,416	22.80	20
11	埼 千	193,974	139,911	54,063	27.87	18
12	東 奈	159,692	133,966	25,726	16.11	24
13	神 川	524,702	1,708,839	-1,184,137	- 225.678	—
14	新 潟	176,610	296,216	- 119,606	- 67.72	—
15		—	—	—	—	—
16	富 山	—	—	—	—	—
17	石 川	—	—	—	—	—
18	福 井	59,318	18,989	40,329	67.99	3
19	山 梨	93,779	47,589	46,190	49.25	7
20	長 野	232,997	154,396	78,601	33.73	6
21	岐 阜	168,447	107,998	60,449	35.89	15
22	靜 岡	295,252	247,418	45,834	15.52	25
23	愛 知	311,276	477,451	- 166,375	- 53.45	—
24	三 重	144,756	88,137	56,621	39.11	13
25	滋 賀	66,730	40,581	26,149	39.19	12
26	京 都	121,724	265,685	- 143,871	- 118.19	—
27	大 阪	269,572	952,170	- 682,598	- 253.22	—
28	兵 庫	281,076	344,502	- 63,426	- 22.57	—
29	奈 良	70,519	31,618	38,901	55.16	5
30	和 歌	101,052	80,337	20,715	21.41	22
31	鳥 取	—	—	—	—	—
32	島 根	60,086	24,795	35,291	58.73	4
33	岡 山	—	—	—	—	—
34	廣 島	—	—	—	—	—
35	山 口	104,218	94,624	9,594	9.21	28
36	德 島	88,821	46,332	42,489	47.84	8
37	香 川	—	—	—	—	—
38	愛 媛	160,336	95,402	64,934	40.50	10
39	高 知	—	—	—	—	—
40	福 岡	277,227	338,870	- 71,643	- 25.84	—
41	佐 賀	92,103	17,670	74,433	80.81	2
42	長 崎	—	—	—	—	—
43	熊 本	—	—	—	—	—
44	大 分	110,321	85,489	24,832	22.51	21
45	宮 崎	111,734	109,370	2,364	2.12	29
46	鹿 兒	—	—	—	—	—
47	沖 繩	52,892	5,937	46,955	88.78	1

昭和五年道府縣間移出移入人口の割合

全	國	A		B	
		170	% (0)	163	% (0)
青	森	69	(29)	142	(34)
岩	手	51	(37)	151	(29)
宮	城	77	(25)	187	(16)
秋	田	28	(44)	171	(24)
山	形	20	(46)	158	(26)
福	島	68	(30)	176	(22)

備考 「抽出法に依る昭和五年國勢調査結果の概観」に據る。

A、府縣現在人口千中府縣外出生人口の割合

B、府縣別出生人口千中他府縣現在人口の割合

弧内は全國に於ける順位

即ち、移出超過人口の自然増加に對する割合を算出して掲出した。ここに掲げた出生數及び死亡數は昭和五年國勢調査報告の採用する届出遅れに係るものを含まざるものである。

これによれば東北六縣の來住に對する往住の超過、即ち人口移出超過の自然増加に對する割合は、秋田縣の四七%が最高を示し、全國移出超過縣中數字の發表せられてゐるもの二十九縣中第九位を占めてゐる。秋田縣について福島縣は四〇%を示し、第十一位、山形縣三八%にして第十四位を示してゐる。青森、岩手、宮城の三縣は夫々二五%（第十九位）、一八%（第二十三位）、一〇%（第二十七位）である。

かくの如く、青森、岩手、宮城三縣に於ては自然増加人口の七五%乃至九〇%の多き部分が縣内に止まつたのと同様の結果であり、爾餘の三縣に於てはその五三%乃至六二%を縣内にとどめたと同様の結果を示してゐる。

次に昭和五年國勢調査抽出法の結果によつて現在人口に對する縣外出生者現在人口の比率を見れば、上掲表の如く、全國の一七〇%に對して宮城縣七七、青森縣六九、福島縣六八、岩手縣五一、秋田縣二八、

昭和五年内地出生者の移動による縣別人口の減少

		減 少 數	順 位 (38縣中)
青	森	73,960	33
岩	手	111,570	25
宮	城	158,710	18
秋	田	170,840	13
山	形	179,730	9
福	島	211,070	3

備考 「抽出法に依る昭和五年國勢調査結果の概観」に據る。
順位は増加府縣、東京、大阪、北海道、福岡、神奈川、京都、
兵庫、愛知、宮崎の道三府五縣を除き三十八縣の減少縣中
に於ける順位。

山形縣二〇の順位を示してゐるが、全國に比していづれも極めて低き地位に止つてゐる。全國に於ける地位も東北最高の宮城縣が第二五位に位するに止まり、爾餘の諸縣はいづれも極めて低位を占めるに過ぎない。この數字によれば、東北六縣の縣外よりの移入人口の割合は誠に微々たるものと云つてよい。

次に府縣別出生人口に對する他府縣現在人口の割合を見れば、全國一六三%に對し、宮城縣の一八七、福島縣一七六、秋田縣一七一であつて全國の割合を凌いでゐる。山形、岩手、青森三縣は夫々一五八、一五一、一四二であつて全國の割合の下位を占めてゐる。この點から見れば、青森、岩手二縣は人口の縣外移出極めて少く、爾餘の四縣は之に反して比較的多いといふことが出来る。

更には人口移動の帳尻とも云ふべき「移動による府縣人口の増減」を見れば、全國府縣中移入、移出差引増加を示せるものは上掲表備考の通り、三府、五縣であつて、いづれも商業の中心的大都市を包含する府縣並に植民地的性質を有する地方である。爾餘の三十八縣は差引減を示してゐるが、その中に占める東北六縣の地位は全國三十八縣中第三十三位の青森縣を最低として岩手、宮城、秋

田、山形、福島諸縣の順位であつて最高福島の地位は三十八縣中第三位、新潟、愛媛兩縣に亞いでゐる。

翻つて以上の諸點を上述の自然増加と現在人口の増加との關聯を比較考察すれば、既に移出入共に少しと認めらる、青森、岩手二縣は自然増加率高く現在人口の増加率も之に伴つて高く、(岩手縣の自然増加率は青森縣のそれよりも相當低い)が、その現在人口の増加率も之と共に低い)移動の極めて少き地域と推定するこゝとが出来る。

之に反して先に移出入口の割合多く移入人口の割合少き秋田、山形、福島三縣は、自然増加率は比較的高いが、現在人口の増加率は比較的に低い。かくてこの三縣特に秋田、福島二縣は人口の縣外移出が相當著しいと見なければならぬ。

次に宮城縣は東北地方としては移入人口の割合比較的によく、移出人口の割合も少くないこと上述の如くであるが、自然増加率、現在人口増加率共に極めて高位を占めてゐる。かくてこの縣は東北地方唯一の人口移入多きと共に移出も相當顯著であるが、差引自然増加率とほぼ同様の率を以て現在人口も増加しつつあるものゝ如くである。

進んで參考としてこの地方の移動の方向について一言しよう。昭和五年國勢調査の結果が未だ全部發表されるに至らないから、もとより部分的の考察に過ぎない。二、三注目すべき現象を列擧するに止めよう。(次表參照)

第二十表 大正九年東北六縣出生者現在府縣別

出生地		青 森	岩 手	宮 城	秋 田	山 形	福 島
道 府 縣	數						
總		140,763	123,690	211,539	173,456	149,451	197,229
1 北 海	道	104,935	58,318	95,457	100,010	66,036	55,778
2 青 森	森	—	10,825	2,362	7,268	1,274	1,633
3 岩 手	手	4,990	—	13,343	5,326	1,451	3,150
4 宮 城	城	1,653	16,597	—	2,830	10,026	14,373
5 秋 田	田	4,860	4,075	1,611	—	5,021	1,081
6 山 形	形	609	845	3,855	5,139	—	4,739
7 福 島	島	852	3,157	19,218	4,271	12,623	—
8 茨 城	城	461	2,318	3,288	3,063	1,585	16,981
9 栃 木	木	370	1,031	3,304	1,788	2,176	11,180
10 群 馬	馬	228	402	1,030	755	951	2,385
11 埼 玉	玉	747	896	2,384	1,003	1,104	1,806
12 千 葉	葉	364	496	1,215	1,030	859	1,711
13 東 京	京	11,374	15,056	38,439	24,232	29,118	55,774
14 神 奈 川	川	3,515	3,875	13,436	3,641	4,513	11,563
15 新 潟	潟	349	271	751	749	2,146	3,255
16 富 山	山	59	79	129	177	95	171
17 石 川	川	110	92	220	274	199	222
18 福 井	井	75	52	97	133	129	118
19 山 梨	梨	97	139	292	230	182	363
20 長 野	野	251	346	683	515	610	1,286
21 岐 阜	阜	83	166	255	352	255	421
22 靜 岡	岡	1,186	874	2,024	2,193	1,082	1,249
23 愛 知	知	353	400	845	931	835	871
24 三 重	重	101	89	171	124	251	207
25 滋 賀	賀	40	54	109	102	102	108
26 京 都	都	291	277	663	1,620	2,009	857
27 大 阪	阪	901	945	2,032	1,579	1,584	2,026
28 兵 庫	庫	541	594	1,363	1,559	921	1,227
29 奈 良	良	92	63	89	123	93	96
30 和 歌 山	山	52	62	110	126	78	93
31 鳥 取	取	37	52	57	40	55	78
32 島 根	根	34	50	86	72	61	120
33 岡 山	山	79	121	146	323	171	184
34 廣 島	島	173	168	474	176	294	332
35 山 口	口	89	108	279	131	151	229
36 德 島	島	34	27	55	46	54	24
37 香 川	川	40	24	75	42	50	77
38 愛 媛	媛	51	64	84	228	94	92
39 高 知	知	25	27	70	41	51	57
40 福 岡	岡	284	275	628	447	408	467
41 佐 賀	賀	22	40	63	32	57	83
42 長 崎	崎	117	69	209	218	275	206
43 熊 本	本	55	36	150	105	70	140
44 大 宮	宮	78	109	143	206	101	123
45 鹿 嶋	嶋	40	41	97	65	68	139
46 兒 島	島	46	61	109	117	93	75
47 沖 繩	繩	20	24	40	24	40	79

備考 國勢調査報告に據る。

第二十一表 昭和五年東北六縣出生者現在府縣別

出生地		青 森	岩 手	宮 城	秋 田	山 形	福 島
道	府 縣						
總	數	—	—	—	—	—	—
1	北海道	96,861	54,164	81,662	95,370	61,082	54,707
2	北青森	—	10,918	2,571	7,761	2,199	1,963
3	岩手	7,154	—	14,349	6,513	2,123	3,647
4	宮城	2,446	20,793	—	3,569	10,661	16,358
5	秋田	4,752	3,528	1,520	—	5,441	1,147
6	山形	663	795	3,458	4,356	—	4,433
7	福島	1,043	3,361	17,830	3,808	12,490	—
8	茨城	741	2,377	3,311	2,947	1,932	19,448
9	栃木	552	860	2,561	1,522	2,104	11,029
10	群馬	374	754	1,347	1,088	1,677	3,364
11	埼玉	676	1,238	4,420	1,895	2,373	4,817
12	千葉	733	1,062	2,810	3,142	1,742	4,070
13	東京	22,182	27,056	60,924	51,184	57,424	116,832
14	神奈川	4,914	5,570	17,388	9,751	10,636	20,025
15	新潟	—	—	—	—	—	—
16	富山	—	—	—	—	—	—
17	石川	—	—	—	—	—	—
18	福山	107	44	95	124	158	148
19	山梨	164	142	348	494	250	606
20	長野	296	387	840	765	797	1,762
21	岐阜	260	198	276	521	348	957
22	静岡	1,133	1,011	2,504	4,462	1,587	1,992
23	愛知	732	740	1,528	2,109	1,630	2,198
24	三重	120	138	250	233	328	408
25	滋賀	293	106	148	174	162	234
26	京都	484	450	888	1,073	1,532	1,353
27	大阪	1,309	1,218	2,811	2,664	2,687	3,360
28	兵庫	770	755	1,536	1,759	1,314	1,833
29	奈良	114	116	189	194	131	220
30	和歌山	70	85	139	140	166	147
31	鳥取	—	—	—	—	—	—
32	島根	50	70	57	60	111	75
33	岡山	—	—	—	—	—	—
34	廣山	—	—	—	—	—	—
35	山口	92	121	295	260	255	277
36	徳島	44	46	52	57	44	69
37	香愛	75	52	90	104	96	98
38	高知	—	—	—	—	—	—
39	福岡	—	—	—	—	—	—
40	佐賀	314	295	646	437	498	716
41	長崎	41	55	58	49	34	88
42	熊本	—	—	—	—	—	—
43	大宮	—	—	—	—	—	—
44	鹿兒	75	118	143	172	101	132
45	沖繩	54	72	105	110	70	137
46	島	—	—	—	—	—	—
47	繩	10	13	30	15	18	73

備考 國勢調査報告に據る。

(一) 六縣を通じてその出生者中北海道に現在するもの極めて多きはこの地方の一特色である。

(二) 之について東京府、神奈川縣現在者が特に多きを示してゐる。

(三) 宮城縣が岩手、福島、山形三縣から相當多數の人口を吸収し、福島、岩手二縣に送つて交換してゐる

ことは興味ある現象である。

(四) 大正九年の國勢調査の結果と昭和五年のそれとを比較すれば、

(1) 北海道現在者が著しく減じ、東京府、神奈川縣現在者が著しく増加したこと

(2) 宮城縣が爾餘の東北五縣から吸収してゐる人口が増加したこと

等は最も注意を惹くものである。

最後に一時的移動たる出稼について附言する。府縣別出稼の多少を比較し短期的移動の状況を窺ふ場合に各府縣の現在人口、特にその生産年齢人口に著しき差異があるのであるから、單に出稼者數の府縣別比較ではそれ程の意義を持たないことはいふ迄もない。そこで各府縣に現在する生産年齢人口に對して比較することは必要であるが、最近の生産年齢人口を知り得ないから、ここでは一應昭和七年十月一日現在推計人口に對して比較することとする。これは謂はゞ一種の粗雜なる出稼率とも稱すべきものを算出することに外ならない。

かくて中央職業紹介事務局調にかゝる昭和七年中府縣別出稼者數をとり昭和七年十月一日府縣別推計人口

第二十二表 昭和七年度府縣別出稼率

道府縣名	昭和7年 推計人口	昭和7年 出稼者數	推計人口 千二付 稼者數	順位
全國區	66,296,000	905,634	13.66	一
北海道	6,737,000	70,972	18.53	一
1 北海	2,935,200	12,003	4.09	43
2 道	906,100	21,806	24.07	12
3 青森	1,005,100	11,588	11.53	29
4 岩手	1,181,500	4,874	4.13	42
5 宮城	1,007,800	16,754	16.63	22
6 秋田	1,100,700	7,214	6.55	36
7 山形	1,535,800	8,736	5.69	38
8 福島	1,517,700	37,368	24.62	9
9 茨城	1,161,800	10,160	8.75	33
10 栃木	1,212,400	11,312	9.33	31
11 群馬	1,484,600	11,782	7.94	35
12 千葉	1,497,900	23,568	15.73	24
13 東神奈川	5,770,200	1,288	0.22	47
14 新	1,699,000	8,590	5.06	40
15 湯	1,966,000	81,820	41.62	4
16 山	790,600	31,782	40.20	5
17 富石	759,200	31,807	41.90	3
18 福山	626,100	12,458	19.90	18
19 長	642,900	18,849	29.32	7
20 山	1,751,500	22,217	12.68	26
21 岐阜	1,196,400	25,388	21.22	17
22 靜岡	1,847,400	10,901	5.90	37
23 愛知	1,664,500	6,186	2.32	45
24 三	1,176,900	27,685	23.52	13
25 滋	703,100	17,205	24.47	11
26 京	1,610,200	7,444	4.62	41
27 大	3,728,200	3,397	0.91	46
28 兵	2,721,400	15,433	5.67	39
29 奈	601,100	11,289	18.78	20
30 和	847,700	7,796	9.20	32
31 鳥	495,900	7,380	14.88	25
32 島	746,200	31,777	42.59	2
33 岡	1,301,800	22,691	17.43	21
34 廣	1,721,300	87,675	50.94	1
35 山	1,151,700	13,431	11.66	28
36 德	727,000	15,792	21.72	15
37 香	745,500	28,845	38.69	6
38 愛	1,160,000	26,380	22.74	14
39 高	730,200	6,253	8.56	34
40 福	2,615,400	10,167	3.89	44
41 佐	694,200	11,071	15.95	23
42 長	1,260,600	15,930	12.64	27
43 熊	1,376,700	26,805	19.47	19
44 大	957,800	23,531	24.57	10
45 宮	787,600	8,286	10.52	30
46 鹿	1,589,800	33,808	21.27	16
47 沖	585,300	17,112	29.24	8

一、〇〇〇に付き出稼者數を算出すれば第二十二表の如くである。即ち、東北區の出稼率は一〇・五三%であつて全國の一三・六六%に比して遙かに低いと云はなければならぬ。東北區全體としての出稼は決して盛んであるとは云ひ得ないが六縣各別に見れば、青森縣は二四・〇七%の多きを示し、全國第十二位を占めてゐ

る。之について秋田縣は一六・六三%を示し、全國第二十二位、岩手縣一一・五三%にして全國第二十九位に位する。山形、福島、宮城の三縣は極めて低く夫々六・五五、五・六九、四・一三%であつて、又その全國に於ける順位は夫々三十六、三十八、四十二の低位に位する。

出稼即ち短期移動に關して云へば青森、秋田、岩手三縣は稍々盛んであるが、爾餘の三縣は寧ろ極めて少

第二十三表 昭和七年東北六縣産業別出稼者數及割合

備考	福島	山形	秋田	宮城	岩手	青森	東北區	全國	産業別出稼者數及割合										
									工業	鑛業	土木建築業	商業	農業	林業	水産業	戸内使用人	雜業	合計	
	三、〇三三	一、八一九	一、六五六	一、三三一	二、三六〇	二、〇〇四	一〇、七一一	三〇、一六三	工業	二八二	二一五	一、〇五四	二、三八一	三、三〇九	四、一三三	三、一四九	三、四九九	五、二七九	七〇、九七三
	三四・七	二五・二	九・六	二七・三	二〇・四	二〇・四	一五・一	三三・三%	鑛業	三・二	二・一	六・三	三・四	四・七	五・八	四・五	四・九	七・四	一〇〇・〇%
									土木建築業	一、二四二	八・二	一、〇五四	二、三八一	三、三〇九	一、二六四	一、七二四	二、〇四	一、二六二	二一、八〇六
									商業	一、〇六六	六・四	二、四〇	二、三八一	四、七	五・三	八・二	〇・九	五・三	一一、〇〇〇%
									農業	一、二四二	八・二	六・三	二、三八一	三、三〇九	一、二六四	一、七二四	二、〇四	一、二六二	二一、八〇六
									林業	一、〇六六	六・四	二、四〇	二、三八一	三、三〇九	一、二六四	一、七二四	二、〇四	一、二六二	二一、八〇六
									水産業	一、〇六六	六・四	二、四〇	二、三八一	三、三〇九	一、二六四	一、七二四	二、〇四	一、二六二	二一、八〇六
									戸内使用人	一、〇六六	六・四	二、四〇	二、三八一	三、三〇九	一、二六四	一、七二四	二、〇四	一、二六二	二一、八〇六
									雜業	一、〇六六	六・四	二、四〇	二、三八一	三、三〇九	一、二六四	一、七二四	二、〇四	一、二六二	二一、八〇六
									合計	一、〇六六	六・四	二、四〇	二、三八一	三、三〇九	一、二六四	一、七二四	二、〇四	一、二六二	二一、八〇六

中央職業紹介事務局調により算出す。

に於ける道府縣外出稼者數調

縣	山形縣			秋田縣			計			全國合計		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
160	149	561	710	52	85	137	406	2,110	2,516	23,056	75,675	98,731
211	123	499	622	256	917	1,173	1,427	3,159	4,573	26,990	66,574	93,564
—	7	—	7	16	—	16	1,597	16	1,013	22,699	345	23,044
—	10	2	12	1	—	1	14	2	16	1,357	27	1,384
—	6	—	6	—	—	—	18	—	18	1,098	64	1,162
148	425	37	462	244	85	329	1,528	441	1,969	55,843	27,903	83,746
519	720	1,099	1,819	569	1,087	1,656	4,990	5,728	10,718	131,043	170,588	301,631
55	66	14	80	133	8	141	558	86	644	18,359	8,328	26,687
133	57	18	75	208	12	220	515	100	615	6,414	2,214	8,636
188	123	32	155	341	20	361	1,073	186	1,259	24,773	10,550	35,323
78	334	—	334	79	—	79	2,057	3	2,060	19,488	139	19,627
—	32	—	32	78	—	78	209	—	209	4,129	63	4,192
313	70	12	82	788	5	793	1,912	111	2,023	14,212	1,698	15,910
12	146	—	146	84	20	104	958	36	994	10,070	1,779	11,849
403	582	12	594	1,029	25	1,054	5,136	150	5,286	47,932	3,686	51,618
11	—	—	—	24	—	24	139	15	154	16,996	1,000	17,996
25	15	2	17	86	13	99	505	165	670	21,055	7,069	28,124
72	339	106	445	102	15	117	1,198	359	1,557	57,955	19,390	77,631
108	354	108	462	212	28	240	1,842	539	2,381	96,292	27,459	123,751
—	5	10	15	—	—	—	58	65	123	3,461	2,065	5,526
—	—	—	—	1	—	1	1	4	5	1,300	2,036	3,336
—	—	—	—	15	—	15	15	—	15	2,469	92	2,561
—	189	58	247	331	112	443	1,397	769	2,166	10,269	5,420	15,689
107	5	2	7	4	1	5	126	8	134	473	91	564
237	120	56	176	29	8	37	663	203	866	4,764	2,194	7,058
344	319	126	445	380	121	501	2,260	1,049	3,309	22,736	11,998	34,734
35	28	4	32	36	1	37	160	43	203	3,229	1,278	4,507
672	71	6	77	1,231	81	1,312	3,141	122	3,263	7,306	499	7,805
457	13	8	21	101	8	109	593	73	665	2,890	789	3,679
1,164	112	18	130	1,368	90	1,458	3,894	238	4,132	13,425	2,566	15,991
17,546	1,282	74	1,356	8,521	245	8,766	33,253	383	33,636	77,924	3,303	81,227
2	12	—	12	1	—	1	15	—	15	1,121	424	1,545
166	292	25	317	730	80	810	1,354	144	1,498	8,723	2,472	11,195
17,714	1,586	99	1,685	9,252	325	9,577	34,622	527	35,149	87,768	6,199	93,967
204	392	608	1,000	218	664	882	1,154	2,305	3,459	60,806	81,094	141,900
—	14	10	24	9	—	9	77	19	96	7,557	990	8,542
812	136	48	184	164	42	206	1,609	258	1,867	16,746	6,985	23,731
44	5	11	16	8	—	9	90	57	147	3,054	2,791	5,854
306	408	292	700	607	194	801	2,117	1,052	3,169	40,740	27,861	68,601
1,162	563	361	924	788	237	1,025	3,893	1,386	5,279	68,097	38,627	106,719
21,806	4,751	2,463	7,214	14,157	2,597	16,754	58,864	12,108	70,972	552,867	352,767	905,634

第二十四表 昭和七年中東北六縣

	宮 城 縣			福 島 縣			岩 手 縣			青 森			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		
工 業	製紡酒凍寒其 豆腐製工 天他計	糸績造 造業	79	424	503	79	422	501	47	458	505	—	160
			203	227	430	845	1,285	2,130	—	20	20	—	211
			4	—	4	14	—	14	1,556	16	1,572	—	—
			—	—	—	3	—	3	—	—	—	—	—
			10	—	10	2	—	2	—	—	—	—	—
	300	84	384	156	227	383	255	8	263	148	—		
	596	735	1,331	1,099	1,934	3,033	1,858	502	2,360	148	371		
鑛 業	炭其 坑他 計	稼山業	106	34	140	201	25	226	1	1	2	51	4
			83	33	116	34	21	55	13	3	16	120	13
			189	67	256	235	46	281	14	4	18	171	17
土 木 建 築 業	大石 土其 方他 計	工工 工雇 日木 建業	62	—	62	367	—	367	1,137	3	1,140	78	—
			13	—	13	83	—	83	3	—	3	—	—
			83	30	113	335	10	345	323	54	377	313	—
			26	2	28	442	5	447	248	9	257	12	—
			184	32	213	1,227	15	1,242	1,711	66	1,777	403	—
商 業	賣各 其種 他計	行行 行商 商業	12	2	14	92	13	105	—	—	—	11	—
			126	57	183	253	93	346	—	—	—	25	—
			208	82	290	477	138	615	14	4	18	58	14
			346	141	487	822	244	1,066	14	4	18	94	14
農 業	養茶刈農牧其 摘他 畜計	製製 茶蘭 耕業	12	22	34	41	33	74	—	—	—	—	—
			—	—	—	—	4	4	—	—	—	—	—
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			198	87	285	218	155	373	461	357	818	—	—
			—	—	—	8	5	13	2	—	2	107	—
	89	54	143	181	47	228	31	14	45	213	24		
	299	163	462	448	244	692	494	371	865	320	24		
林 業	製伐其 採他 計	運林業	25	20	45	32	18	50	4	—	4	35	—
			26	—	26	35	1	36	1,106	34	1,140	672	—
			15	24	39	23	17	40	—	—	—	441	16
			66	44	110	90	36	126	1,110	34	1,144	1,148	16
水 產 業	漁鹽其 他計	撈稼 水產業	680	7	687	71	12	83	5,153	45	5,198	17,546	—
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—
			70	1	71	38	7	45	89	—	89	135	31
	750	8	758	109	19	128	5,242	45	5,287	17,673	31		
戶 內 使 用 人	戶內使用人	仕夫人業	123	308	431	297	551	848	45	49	94	79	125
			23	—	23	23	9	32	8	—	8	—	—
雜 業	仲雜遊其 役藝他計	稼雜業	163	100	263	326	68	394	8	—	8	812	—
			5	20	25	41	12	53	—	—	—	31	13
			312	200	512	533	308	841	5	4	9	252	54
			503	320	823	923	397	1,320	21	4	25	1,095	67
合 計			3,056	1,818	4,874	5,250	3,486	8,736	10,509	1,079	11,588	21,141	665

四九

備考 中央職業紹介事務局調に據る

き地域であると云はなければならぬ。結局東北全體として見れば短期移動もそれほど盛んではないと云つて差支へないのである。

次に此等の出稼者が如何なる産業に趨くかは地方産業と人口との關係上極めて重要な問題であるが、ここでは東北地方の出稼者の産業別の特色を指摘するにとどめ詳論を他日に譲ることとする。東北區に於ては第二十三表の如く、水産業に趨くものゝ割合極めて多く（全國一〇%、東北區五〇%）出稼者の半ばを占めてゐる。中でも青森縣の如きは出稼者の八割一分を占め、秋田縣、岩手縣は夫々五割七分、四割六分の多きに達してゐる。之に反して商工業特に商業に就くものは極めて少い。商業は全國一四%に對し東北區は僅かに三%であり、工業は全國三三%に對し東北區は一五%に過ぎない。又林業並に農業の割合は夫々五・八%、四・七%であつて、全國の一・八%、三・八%を凌いでゐる。

四 産業別人口構成と其の變化

以上に於て、東北地方の人口増加の著しきこと、而かも増加人口が比較的縣外に移出されずに内部に止まつて支持せられたことを明かにした。然らば、此等の増加人口が如何なる産業によつて養はれたかといふことが次に來るべき一大問題である。この項は主としてこの問題に對する解答である。

さて、昭和五年十月一日、東北六縣現在人口は六百五十七萬四千餘、その中有業人口は二百九十九萬五千

餘であつて、現在人口の四割五分六厘に當り、全國（内地）の有業率と全く相等しい。然しこの六縣の内でも青森、宮城、秋田三縣の有業率は全國よりやゝ低く夫々四四・九%、四二・六%、四二・八%である。之に反して福島、岩手、山形三縣は夫々四八・一%、四七・〇%、四六・九%であつて全國よりも稍々高い。この地方は出生率特に高く、それが爲に十五歳未満の幼年人口の割合が大きい。この點を斟酌して考へれば一般に東北地方の有業率は實質的には全國よりも寧ろ高いと云つて差支へない。

今、大正九年十月一日國勢調査の結果による有業率と昭和五年のそれとを比較すれば、東北區に於ては大正九年の四八・九%から四五・六%に低下してゐるが、全國の有業率の低下と殆んど相等しい。六縣を個別に見れば、岩手縣はこの間變化なく、宮城、福島兩縣は低下の割合少く、他の三縣特に秋田縣が稍々多い。

一般にこの地方は工業化の程度低く、今、昭和五年生産額の産業別百分比を求むれば次表の如くである。即ち、東北區に於ては農産額の全生産額中に占める割合は約四割であつて全國の一割八分に比し二倍以上の高率を示してゐる。之に反して工産額は僅かに二割五分を占め、全國の六割二分に比して極めて低き地位に止まつてゐる。工産額中、藁製品、疊表、竹製品、眞綿、麥粉、或は又味噌、醤油、酒類等、其の他蠶絲の如き、農産品に近き性質を有し、且この地方の物産として重要な地位を占むるものゝ産額を農産額に合算すれば、農産額の割合は六割乃至七割にも上り、更に水産、畜産、林産を加ふれば、價格に於て、原始産業に依存すること正に八割乃至九割の高きに達し、工業の發達未だ遅々として殆んど全國にその比を見ない状

第二十五表 昭和五年道府縣別生産額百分率

道	府	縣	名	畜産	農産	蠶糸	水産	林産	鑛産	工産
1	全	東	國	2.1	18.0	8.3	3.9	2.3	3.4	62.0
2	北	青	道	2.5	39.6	10.7	6.0	7.8	8.8	24.6
3	北	岩	森	3.1	26.0	0.0	17.8	3.5	10.4	39.2
4	北	宮	手	3.3	48.3	0.6	8.5	8.3	0.1	30.9
5	北	秋	城	2.7	36.6	6.8	11.8	11.3	12.2	18.6
6	山	福	田	2.7	41.7	8.7	12.8	3.8	1.3	29.0
7	山	茨	形	1.8	39.9	1.5	1.6	15.3	24.1	15.8
8	福	城	島	1.6	44.0	24.0	1.1	3.7	0.9	24.8
9	茨	木	城	2.9	32.6	18.5	2.9	4.9	9.3	28.9
10	栃	馬	城	2.6	43.3	12.4	3.9	2.5	7.3	28.1
11	群	馬	木	2.2	38.9	3.9	0.3	3.2	7.1	44.4
12	埼	玉	葉	1.8	15.6	27.9	0.2	2.8	0.6	52.2
13	千	葉	京	3.6	28.3	28.9	0.1	1.0	0.4	37.6
14	東	京	川	4.9	41.0	4.1	10.0	2.2	0.0	37.9
15	神	川	湯	1.6	1.8	1.0	1.5	0.3	0.0	93.9
16	新	湯	湯	2.6	7.6	3.1	2.8	0.4	0.2	83.3
17	富	山	山	1.5	31.3	5.9	1.8	2.8	12.9	43.8
18	石	川	山	1.1	26.6	2.5	4.6	1.3	1.7	62.2
19	福	井	川	1.5	21.0	2.5	3.9	3.8	1.3	66.0
20	山	梨	井	1.1	16.0	3.2	3.1	2.3	1.0	73.3
21	長	野	野	1.6	27.3	42.5	0.2	6.5	0.7	21.3
22	岐	阜	阜	1.9	14.8	68.3	0.6	2.0	0.2	12.1
23	靜	岡	岡	1.4	18.0	19.9	0.6	3.6	1.1	55.5
24	愛	知	岡	3.0	20.9	7.2	9.8	2.9	1.1	55.2
25	三	重	知	2.6	10.8	10.7	1.8	0.3	0.3	73.7
26	滋	賀	重	1.9	26.2	10.1	6.8	3.2	0.4	51.4
27	京	都	賀	2.1	27.5	9.1	1.4	1.9	0.3	57.7
28	大	阪	都	2.5	7.4	7.7	0.5	1.7	0.2	80.0
29	兵	庫	阪	0.9	3.1	0.0	0.5	0.1	0.0	95.4
30	奈	良	庫	1.4	9.0	2.8	1.2	0.8	0.4	84.3
31	和	山	良	2.6	31.0	8.7	0.6	5.2	0.3	51.6
32	鳥	取	山	1.0	14.3	7.0	4.8	5.6	0.6	66.7
33	島	根	山	2.8	40.1	31.3	3.3	6.0	1.3	15.1
34	岡	山	島	2.7	32.7	16.9	7.5	7.5	0.4	32.3
35	廣	山	島	1.8	24.8	7.4	2.7	2.5	1.4	59.4
36	山	島	口	3.4	20.8	3.6	4.0	2.3	0.4	65.5
37	德	鳥	島	1.7	20.9	1.5	15.4	3.6	8.5	48.4
38	香	川	島	1.6	24.3	18.4	7.8	3.1	1.5	43.4
39	愛	媛	川	2.5	28.5	3.2	10.7	0.6	0.6	53.9
40	高	知	媛	1.6	20.8	17.0	6.1	2.8	9.3	42.5
41	福	岡	岡	2.5	29.6	17.5	13.7	9.5	1.2	26.1
42	佐	賀	岡	1.6	14.5	2.2	1.7	0.7	22.2	57.1
43	長	崎	賀	2.5	35.5	7.4	4.4	1.9	9.8	38.4
44	熊	本	崎	2.0	19.2	4.8	13.2	3.1	10.7	47.0
45	大	分	本	2.2	31.1	14.1	2.1	3.1	3.9	43.5
46	宮	崎	分	2.5	30.6	10.6	5.3	5.6	12.2	33.3
47	鹿	島	崎	4.0	38.8	18.9	6.5	12.5	1.7	17.6
48	兒	鳥	島	5.6	42.5	8.7	7.1	7.6	1.3	27.3
49	沖	繩	島	9.2	42.3	1.0	7.9	4.0	1.7	36.8

備考 静岡縣統計課調昭和五年全國道府縣別生産額に據り若干の修正を
ほどこして百分比を算出す

態である。従つて貨幣經濟化の程度も極めて低いと云はなければならぬ。

然らばかゝる産業の特色が如何に人口を包攝し、扶養しつゝあるかを産業人口の産業別構成によつて考察しよう。

昭和五年國勢調査の結果によれば、東北區有業人口二百九十九萬五千餘人中、農業に従事する人口は百九十三萬三千弱であつて首位に位し、その有業人口中に占める割合は六割四分五厘の多きに達し、全國の割合四割八分三厘に比すれば著しく高い。

次に工業人口は僅かに農業人口の約一割八分弱であつて三十四萬二千餘、商業人口は工業人口よりも更に少く、三十二萬八千弱を數ふるに過ぎない。工業人口及び商業人口が有業人口中に占める割合は夫々一割一分四厘、一割九厘であつて、何れも全國の割合に比し相當低い地位を占めてゐる。水産業人口の割合は二分二厘、鑛業人口一分一厘であつて、全國の水準よりも極めて僅かに高い。交通業二分一厘、公務自由業五分三厘、家事使用人二分三厘、其の他有業者二厘の割合であつて、いづれも全國の水準よりも下位に位する。

更に六縣を個別的に見れば、素より、種々の差異を示してゐる。この地方の農業人口の割合の最高を示してゐるのは岩手縣の六九・五%であつて、最低は宮城縣の六〇・一%であるが、何れも全國の割合を遙かに超えてゐる。東北地方最高の岩手縣が全國に於ける地位は沖繩の七二・八%、茨城の六九・九%に次いで第三位を占め、最低の宮城縣と雖も第十五位に位する。

次に秋田縣は六六・三%で、東北地方第二位にをり、以下福島縣の六五・三%、山形縣の六三・六%青森縣の六二・〇%の順位である。

工業人口の割合は岩手縣の九・五%を最低として、青森縣の九・八%、秋田縣の一〇・一%の順である。東北地方に於ては比較的工業的な縣と印象付けられてゐる山形、福島、宮城の三縣に於てすらその割合は僅かに夫々一四・二%、一二・八%一〇・九%に過ぎず、全國についてみても僅かの府縣を除いて最低乃至は著しく低き地方に屬してゐる。

商業人口についても宮城縣の一三・二%を最高として、山形縣の一・七%、青森縣の一・一%、福島縣の一〇・九%、秋田縣の一〇・一%最後に岩手縣の八・五%の順であつて、いづれも全國有數の低い地方をなしてゐる。

交通業人口の割合は青森縣の二・七%宮城縣の二・六%以外は二%に達せず、一般に著しく少ないと云はなければならぬ。

水産業人口の割合は青森、岩手、宮城三縣に於ては夫々五・七%、三・七%、三・一%を示し著しく高く、何れも全國屈指の高級地方である。之に反して他の三縣は〇・六%内外であつて寧ろ低き地方に屬してゐる。

鑛業人口の割合は炭坑を以て聞えてゐる福島縣が最高であるが、僅かに二・三%を出でない。秋田の一・九%が之に次ぎ、鐵を以て有名な岩手縣と雖も一%に達せず、青森縣は最低で僅かに〇・二%に過ぎない。

公務自由業の割合は宮城縣の七・二%を最高として他は何れも5%内外であつて一般に全國の水準よりも低い。

進んで大正九年國勢調査の結果と昭和五年のそれとを比較することによつて十ヶ年間の産業別人口構成の變化に關して一言することとする。

周知の通り、大正九年國勢調査に於ける職業分類と昭和五年の國勢調査に於けるそれとは著しく異つてゐる。大正九年の職業分類は職業分類といふ名稱にも拘らず、著しく産業分類的であることは一般に認められるところである。そこで大正九年の職業別人口に若干の修正を加へて昭和五年國勢調査に於ける産業別人口と比較することとする。大正九年職業分類の修正の箇所は次の如くである。

- (1) 水産業中「製鹽業」を工業に移す。
 - (2) 工業中「煙草製造」及び「土木建築の設計、測量等に關する業」を公務自由業に移す。
 - (3) 交通業中「郵便、電信、電話業」を公務自由業に移す。
 - (4) 各職業に配屬されたる從屬者たる家事使用人は家事使用人本業者に合算す。
- 尚修正すべき點は殘存するが、一應これにて主要なるものゝ修正はなされたるものと見て差支へないであらう。
- さて、東北區に、ついて見るにこの間割合の増加したものは、商業、公務自由業、水産業及び家事使用人で

ある。中でも商業人口の割合の増加が最も顯著であつて、大正九年の八・三%から一〇・九%に昇つてゐる。次に公務自由業は四・八%から五・三%に、家事使用人は二・一%から二・三%に上り、經濟不況の進展の産業別構成への反映たる全國の産業別構成の變化の傾向と一致してゐるが、その率に於ては全國のそれに比しいづれも明かに少い。水産業は全國に於てはこの間不變であるが、東北區に於ては約一割の増加率を示してゐる。次に最も著しく割合の減少してゐるものは鑛業であつて、大正九年の一・六%から一・一%に下つてゐる。全國に於いても著しき減少を示してゐるが、減少の率は全國よりも稍々少い。工業、交通業の割合も亦この間全國とともに若干減少を示してゐるが、いづれも全國の低下率よりも軽い。農業人口の割合は大正九年の六四・七%から六四・五%に極めて僅かに減少してゐるが、全國の減少率に比し遙かに少ないといふべきである。

進んで縣別に見れば、農業人口の割合は青森、秋田兩縣は不變、山形、福島兩縣に於ては却つて増加を示してゐる。減少してゐるのは宮城、岩手の二縣である。水産業人口の割合は岩手、宮城二縣に於て相當増加を示し、福島縣も亦極めて僅か増加を示し、その他の四縣はいづれも僅かに低減を見せてゐる。鑛業人口の割合は岩手縣に於て僅かに増加した以外は全部減少を示してゐる。福島縣の減退は特に顯著である。工業人口の割合は青森、岩手二縣に於てやゝ増加し、宮城縣は不變、他は減少を示してゐる。商業、公務自由業の割合は各縣ともに増加し、交通業の割合は青森縣に於て僅かに増加し、宮城縣不變、其の他一般に減少を見

せてゐる。家事使用人の割合は福島縣に於て減少したるほかはいづれも増加が見られる。

産業別人口構成にその變化を概言したが、次に産業別人口實數の増減を概説する。

大正九年より昭和五年に至る十年間に於ける東北區の有業人口の増加實數は差引十六萬四千弱である。農業人口の増加數は十萬一千弱の多數に上り、有業人口増加數の六割二分に當つてゐる。農業について商業人口は九萬二千弱を加へ、公務自由業、工業に於て夫々二萬四千弱、一萬六千餘を増加してゐる。其の他家事使用人に於て一萬餘、水産業に於て七千弱、交通業に於て二千餘を増してゐる。然るに鑛業に於ては一萬二千餘の減少を示してゐる。今、大正九年に比してその増加率を見れば、最も増加率著しきは商業の二二・九%であつて、家事使用人の一七・七%、公務自由業の一七・六%であるが、いづれも全國の増加率に比して遙か

第二十六表

自大正九年
至昭和五年 産業別人口増加數

(△印減)

	有業人口	農業	水産業	鑛業	工業	商業	交通業	公務自由業	家事使用人
全國	一、九五九、四四四	△ 二四、二〇〇	五二、二七九	△ 一三二、三八四	一三二、五六〇	一、七七一、一三六	九、四五五	四五二、七二五	一六〇、三四三
東北區	一六三、五三四	一〇〇、五九〇	六、八五五	△ 一三、〇九〇	一六、二三〇	九一、七八九	二、四七九	一三、九五八	一〇、二八〇
青森	二八、八八七	一五、一七一	六、一八	△ 一、五九	六、七六三	一三、九二七	一、三三一	二、七五一	一、六五四
岩手	六一、〇〇七	三一、四一六	六、八五八	一、二五二	八、八二一	一三、二〇三	九九八	四、八〇〇	一、三三八
宮城	五一、六九九	二五、二五五	二、六五二	△ 二八	五、五五一	二二、一八	一、六七五	五、八五三	一、五五九
秋田	七、四一五	△ 四、六〇六	二、〇八三	△ 三、三九九	一、九五九	一〇、三五	九五六	三、五〇六	四、七七六
山形	六、五四〇	△ 一三、二六七	一、八五二	△ 一、〇九〇	二、七〇四	一四、六五四	一七二	三、六七四	二、九六一
福島	二七、八二六	△ 二三、一八七	六、六二	△ 六、九三	二四二	一九、五三六	三九七	三、四七五	△ 二、〇五三

に及ばない。水産業は一一・八%、工業は五・〇%、交通業は四・〇%の増加率を示してゐるが全國のそれよりも遙かに著しい。全國に於て農業人口は〇・二%減少を示してゐるが東北地方は五・五%の増加率を見せてゐる。

次に六縣各別に見れば、農業人口は、秋田縣に於て約五千(一・七%)の減少を示してゐるのを異例として他の五縣に於ては相當顯著な増加が見られる。中でも岩手縣の増加は三萬一千餘、その率は一〇・九%に上り、北海道を除いて全國第一位の増加率を示し、宮城縣の八・六%が之について全國第二位を示してゐる。

工業人口は東北地方に於て比較的工業的であると考へられる山形、福島、秋田三縣に於て却つて減少を示し岩手を筆頭に青森、宮城三縣に於て相當著しき増加率を示してゐる。特に岩手縣の増加率は二五・五%に達し、東京府、大阪府を凌ぎ、宮崎、愛知二縣について全國第三位を占めてゐる。商業人口は各縣ともに増加を示してゐるが、この率はいづれも全國のそれには達してゐない。この中岩手縣の増加率は東北最高であつて五一・七%を示し全國のそれに迫つてゐる。交通業は工業と類似の傾向を示し、秋田、山形、福島三縣に於て減少し他の三縣に於て相當顯著な増加を示してゐる。水産業は秋田、山形兩縣に於て可成り著しき減少を示してゐるほかはいづれも増加を示してゐる。中でも岩手縣の増加率は六八・二%の高さを示し、全國増加率の首位を占めてゐる。公務自由業は各縣共に増加を示してゐるが岩手縣の三一・二%がこの地方の最高である。家事使用人は福島縣を除いて各縣ともに増加してゐるが、秋田縣の増加率五二・一%は愛知縣に次ぐ全國第二位の高率である。鑛業人口は岩手縣の四一・五%といふ著しい増加率を異例として他の五縣に於

てはいづれも顯著な減退を示してゐる。特に青森縣に於ける減少率は全國に類を見ない。

以上數字について東北六縣の産業別人口構成竝に大正九年より昭和五年に至る十ヶ年間の變化を概説した。以下に於てそれに關する東北地方の特色、更に又その内部の各縣についてその特色の主なる點を要約して列舉しておかう。

東北地方は一般に

(一) 幼年人口の多い割合に有業率は全國の水準を保つてゐる。

(二) 東北六百五十七萬の人口を支へてゐるのは主として農業である。即ち有業人口の約六割五分を農業が包攝し、全生産額中七割内外が農業生産物乃至は農産加工品である。

(三) 上記の十ヶ年間に於て現在人口の増加は相當に著しく、増加人口は主として農業に包攝せられた。上述の如く農業人口がその有業者中に占める地位は商業人口、公務自由業人口等の割合の増加によつて極めて僅かに低下してはゐるが、全國の減退的傾向に逆行して相當顯著な増加率を示してゐる。

(四) 東北地方の増加人口は主として農業に包攝されたが、全國的傾向に伴つて、商業及び公務自由業に包攝された數も決して少くはない。

(五) 工業人口は秋田、山形、福島三縣に於ては僅かに減少したが他の三縣の増加は案外に多く東北六縣を含む増加率は全國のそれを凌いでゐる。工業人口の割合は上記減少三縣の低下に打ち消されて東北

道府縣別産業別人口

交通業	公務 自由業	家事 使用人	其ノ他 ノ産業	有業	無業	總數
932,080	2,051,110	815,540	56,000	29,220,550	35,229,455	64,067,050
63,765	159,945	68,421	2,012	2,995,085	3,579,274	6,574,359
62,756	86,298	26,989	8,947	1,207,677	1,604,658	2,812,335
10,752	24,633	8,119	607	394,729	485,185	879,914
8,838	20,202	6,771	506	458,149	517,622	975,771
12,816	34,918	11,720	225	487,297	655,487	1,142,874
8,585	22,957	13,938	287	422,862	564,844	987,706
8,838	25,590	14,311	117	506,142	573,892	1,080,034
13,936	31,645	13,562	270	725,906	782,244	1,508,150
10,367	31,532	14,647	183	772,672	714,425	1,487,097
10,369	27,343	12,185	377	517,568	624,169	1,141,737
10,456	23,808	10,455	238	552,652	633,428	1,186,080
13,323	29,766	19,794	253	701,628	757,544	1,459,172
15,473	46,290	16,273	241	752,841	717,280	1,470,121
119,416	279,431	161,734	15,162	2,298,851	3,109,827	5,408,678
42,967	82,867	26,972	3,666	657,714	961,892	1,619,606
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
7,474	20,149	4,351	158	310,020	308,124	618,144
5,606	15,357	4,630	150	310,125	320,917	631,042
15,109	38,973	9,426	1,251	905,254	811,864	1,717,118
11,540	28,771	7,220	387	552,688	625,717	1,178,405
21,545	45,801	13,115	2,863	791,034	1,006,771	1,797,805
39,895	77,673	23,399	1,571	1,197,771	1,369,642	2,567,413
15,103	30,310	8,222	274	540,367	617,040	1,157,407
7,892	19,443	5,152	537	343,014	348,617	691,431
22,072	61,991	31,733	2,362	712,163	840,669	1,552,832
89,733	123,951	66,308	9,471	1,559,228	1,980,789	3,540,017
63,388	85,334	39,635	6,818	1,176,126	1,470,175	2,646,301
9,389	19,872	5,687	323	238,108	358,117	596,225
11,960	22,440	7,584	530	344,821	485,927	830,748
—	—	—	—	—	—	—
7,676	22,121	6,671	446	376,957	362,550	739,501
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
21,995	34,082	10,466	635	527,538	608,099	1,135,637
7,232	19,847	6,350	169	358,597	357,947	716,544
—	—	—	—	—	—	—
13,036	28,077	9,593	334	508,689	633,433	1,142,122
—	—	—	—	—	—	—
54,649	80,384	31,734	4,550	1,093,751	1,433,368	2,527,119
9,153	17,503	9,131	143	316,807	374,758	691,565
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
9,318	25,255	9,225	393	461,580	484,191	945,771
6,991	18,057	8,865	253	362,789	397,678	760,467
—	—	—	—	—	—	—
4,064	7,846	4,205	52	278,683	298,826	577,509

第二十七表 昭和五年

道	府	縣	農 業	水 産 業	鑛 業	工 業	商 業
總	東	數 區	14,104,160	585,040	303,070	5,414,410	4,95,9140
			1,932,650	64,866	33,456	342,324	327,616
1	北 海	道 森	542,136	120,275	38,281	150,511	171,484
2			244,926	22,526	593	38,777	43,796
3			318,526	16,911	4,271	43,392	38,732
4			292,881	14,963	2,387	53,065	64,292
5			280,451	3,499	7,906	42,589	42,650
6	山 福	形 島	321,812	2,642	1,956	71,792	59,084
7			474,054	4,325	16,343	92,709	79,062
8			540,221	7,068	7,806	72,376	88,472
9			312,703	415	6,597	76,347	71,232
10			306,216	404	1,446	124,796	74,833
11	埼 千	玉 葉	430,116	380	532	120,694	86,770
12			472,083	24,397	443	75,318	102,323
13			149,672	5,849	4,711	777,886	784,990
14			165,476	12,728	1,886	166,712	154,440
15			—	—	—	—	—
16	富 石	山 川	—	—	—	—	—
17			—	—	—	—	—
18			161,308	6,285	569	69,516	40,210
19			187,804	102	651	59,607	36,218
20			536,785	564	1,066	203,978	98,102
21	岐 靜	阜 岡	315,518	913	2,082	115,275	70,982
22			403,855	21,068	2,315	161,693	118,779
23			438,887	10,142	2,768	366,326	237,110
24			288,515	19,975	930	102,766	74,272
25			206,550	1,295	380	60,665	41,100
26	京 大	都 阪	185,794	2,647	1,493	210,578	184,493
27			163,875	4,425	2,139	593,358	505,968
28			411,809	18,375	3,244	300,714	246,809
29			115,824	157	224	44,106	42,526
30			148,999	11,834	1,037	82,882	57,555
31	鳥 島	取 根	—	—	—	—	—
32			248,705	7,206	789	45,460	37,883
33			—	—	—	—	—
34			—	—	—	—	—
35			268,961	22,829	14,572	78,914	75,084
36	德 香	鳥 川	214,341	9,088	1,425	53,373	46,772
37			—	—	—	—	—
38			276,569	16,591	5,710	93,878	64,901
39			—	—	—	—	—
40			363,576	12,307	115,352	240,515	190,684
41	佐 長	賀 崎	174,648	6,035	14,112	45,026	41,056
42			—	—	—	—	—
43			—	—	—	—	—
44			294,694	11,582	1,567	55,034	54,512
45			233,633	6,183	1,433	48,760	38,614
46	鹿 兒	島 繩	—	—	—	—	—
47			202,903	6,930	1,230	31,686	19,767

府縣別職業別人口(修正)

交通業	公務自由業	家事 使用人	其ノ他	有業者	無業者	總數
922,625	1,598,396	655,197	527,451	27,261,106	28,701,947	55,963,053
61,236	135,987	58,141	78,600	2,831,551	2,962,423	5,793,974
57,799	57,870	26,141	51,540	1,066,355	1,292,828	2,359,183
9,421	21,882	6,465	16,356	370,842	385,612	756,454
7,840	15,402	5,433	8,185	397,142	448,398	845,540
11,141	29,166	10,161	9,837	435,598	526,170	961,768
9,541	19,451	9,162	13,332	430,277	468,260	898,537
9,010	21,916	11,305	21,260	499,602	469,323	968,925
14,333	28,170	15,615	9,629	698,090	664,660	1,362,750
11,231	25,248	15,680	6,409	747,354	603,046	1,350,400
11,825	22,898	12,753	6,249	515,637	530,842	1,046,479
10,109	19,822	10,805	7,222	547,932	504,678	1,052,610
11,215	22,299	18,411	3,948	694,807	624,726	1,319,533
14,291	36,844	14,420	10,552	714,952	621,203	1,336,155
90,843	188,698	111,334	31,377	1,630,292	2,069,136	3,699,428
41,482	59,444	24,073	10,436	596,658	726,732	1,323,390
21,579	43,351	20,998	26,687	923,207	853,267	1,776,474
9,131	20,260	4,517	7,869	328,846	395,430	724,276
8,372	28,186	5,223	8,366	366,533	387,827	747,360
8,432	16,973	3,471	6,171	312,260	286,895	599,155
5,160	13,118	5,133	3,145	312,335	271,118	583,453
17,969	34,190	9,505	22,138	855,887	706,835	1,562,722
11,944	24,962	5,471	7,172	534,846	535,561	1,070,407
22,391	34,772	11,442	14,001	728,057	822,330	1,550,387
30,177	70,767	14,711	15,142	992,165	1,097,597	2,089,762
15,833	26,896	7,222	9,261	538,352	530,918	1,069,270
7,633	17,387	5,172	4,581	341,991	309,109	651,050
18,654	56,538	22,912	9,801	632,585	654,562	1,287,147
82,185	87,539	48,483	18,982	1,173,557	1,414,290	2,587,847
71,309	66,141	29,469	17,944	1,044,000	1,257,799	2,301,799
9,418	14,321	4,785	4,205	218,054	346,553	564,607
13,773	19,328	7,245	10,331	310,117	440,294	650,411
6,153	11,987	3,109	5,999	243,454	211,221	454,675
8,506	20,824	6,136	8,280	380,015	334,697	714,712
16,046	32,105	5,915	6,842	634,707	582,991	1,217,698
26,395	58,974	9,007	10,448	711,107	830,798	1,541,905
25,650	27,826	9,090	11,451	485,532	555,481	1,041,013
9,741	16,045	7,283	7,580	352,703	317,509	670,212
8,380	18,847	6,291	3,707	333,181	344,671	677,852
14,697	23,807	7,937	8,577	488,521	558,199	1,046,720
9,243	15,602	6,483	9,037	347,490	323,405	670,895
55,161	66,950	23,694	16,815	1,036,644	1,151,605	2,188,249
10,895	16,636	7,986	3,193	323,623	350,272	673,895
20,294	40,812	13,179	9,622	572,563	563,619	1,136,182
17,876	33,861	16,530	9,375	633,563	599,670	1,233,233
9,902	22,261	7,398	5,832	450,935	409,347	860,282
10,684	14,251	7,559	7,311	324,027	327,070	651,097
13,471	28,027	15,061	8,286	689,675	725,907	1,415,582
5,489	5,833	5,022	3,468	295,090	276,482	571,572

以下の修正を加ふ。

造並に土木建築の設計、測量等に関するを公務自由業に移す。

(4) 各職業に配屬されたる従屬者たる家事使用人は家事使用人本業者に合算す。

第二十八表 大正九年道

道	府	縣	農 業	水 産 業	鑛 業	工 業	商 業
總		數	14,128,360	533,761	424,464	5,282,850	3,188,002
東	北	區	1,832,060	58,011	45,546	326,094	235,827
1	北海	道	483,921	89,653	39,378	138,577	121,976
2	青	森	229,755	21,908	2,172	32,014	30,869
3	岩	手	287,110	10,053	3,019	34,571	25,529
4	宮	城	269,626	12,311	2,668	47,514	43,174
5	秋	田	285,057	5,582	11,305	44,548	32,299
6	山	形	309,645	4,494	3,046	74,496	44,430
7	福	島	450,867	3,663	23,336	92,951	59,526
8	茨	城	530,594	8,692	11,349	70,570	67,576
9	栃	木	308,858	518	10,005	88,799	53,732
10	群	馬	325,146	388	743	122,618	51,079
11	埼	玉	453,041	346	379	126,930	58,238
12	千	葉	466,973	30,463	782	69,971	70,656
13	東	京	168,134	5,244	6,112	627,684	400,866
14	神	川	183,945	12,964	1,511	166,093	96,710
15	新	潟	587,066	11,476	7,643	124,105	80,302
16	富	山	193,610	7,024	391	50,486	35,557
17	石	川	201,903	10,462	2,410	64,438	37,173
18	福	井	174,562	7,757	741	64,859	29,294
19	山	梨	196,151	106	426	63,614	25,482
20	長	野	512,974	601	1,253	186,313	70,944
21	岐	阜	325,118	855	3,094	106,207	50,023
22	靜	岡	414,836	18,618	2,590	130,219	79,188
23	愛	知	450,381	10,114	2,092	270,914	127,958
24	三	重	310,325	18,803	762	94,533	54,717
25	滋	賀	223,219	1,458	500	49,670	32,321
26	京	都	208,160	2,890	1,128	197,055	115,447
27	大	阪	165,225	4,453	2,939	486,531	287,220
28	兵	庫	394,890	18,080	3,865	284,368	157,934
29	奈	良	112,604	101	333	44,711	27,576
30	和	山	142,589	11,051	1,575	66,105	38,120
31	鳥	取	159,576	3,252	275	32,861	20,242
32	島	根	254,322	7,710	1,451	42,131	30,655
33	岡	山	382,637	7,656	3,164	117,867	62,475
34	廣	島	373,586	13,067	1,090	145,547	72,993
35	山	口	258,023	19,959	13,632	66,202	53,699
36	德	島	216,697	9,231	1,274	50,067	34,785
37	香	川	198,077	8,947	1,523	53,626	33,783
38	愛	媛	274,570	13,953	5,065	93,516	46,399
39	高	知	208,441	14,255	1,001	50,732	32,696
40	福	岡	351,992	11,880	175,973	202,042	132,137
41	佐	賀	174,344	6,275	29,632	42,492	32,170
42	長	崎	283,169	38,002	27,924	86,539	53,022
43	熊	本	403,698	11,787	6,946	74,816	58,674
44	大	分	301,942	10,158	1,671	53,510	35,261
45	宮	崎	217,776	4,467	840	35,736	25,403
46	鹿	島	490,274	15,495	1,788	77,712	39,561
47	沖	繩	212,951	7,539	3,667	35,990	15,131

備考 大正九年國勢調査報告 全國の部第二卷に據る。

- (1) 水産業中製鹽業を工業に移す。(2) 工業中煙草製
(3) 交通業中郵便、電信、電話業ヲ公務自由業に移す。

有業人口産業別構成比較 (百分比)

同工業者同		同商業者同		同交通業者同		同公務自由業者同		同家事使用人同		同其他有業者同	
昭5%	大9%	昭5%	大9%	昭5%	大9%	昭5%	大9%	昭5%	大9%	昭5%	大9%
18.5	19.4	17.0	11.7	3.2	3.4	7.0	5.9	2.8	2.4	0.2	1.9
11.4	11.5	10.9	8.3	2.1	2.2	5.3	4.8	2.3	2.1	0.2	2.8
12.5	13.0	14.2	11.4	5.2	5.4	7.1	5.4	2.2	2.5	0.7	4.8
9.8	8.6	11.1	8.3	2.7	2.6	6.2	5.9	2.1	1.7	0.2	4.4
9.5	8.7	8.5	6.4	1.9	2.0	4.4	3.9	1.5	1.4	0.1	2.1
10.9	10.9	13.2	9.9	2.6	2.6	7.2	6.7	2.4	2.3	0.1	2.3
10.1	10.4	10.1	7.5	2.0	2.2	5.4	4.5	3.3	2.1	0.1	3.1
14.2	14.9	11.7	8.9	1.7	1.8	5.1	4.4	2.8	2.3	0.0	4.2
12.8	13.3	10.9	8.5	1.9	2.1	4.4	4.0	1.9	2.2	0.0	1.4
9.4	9.4	11.5	9.0	1.3	1.5	4.1	3.4	1.9	2.1	0.0	0.9
14.8	17.2	13.8	10.4	2.0	2.3	5.3	4.5	2.4	2.5	0.1	1.2
22.6	22.4	13.5	9.3	1.9	1.8	4.3	3.6	1.9	2.0	0.0	1.3
17.2	18.3	12.4	8.4	1.9	1.6	4.2	3.2	2.8	2.6	0.0	0.6
10.0	9.8	13.6	9.9	2.1	2.0	6.1	5.1	2.2	2.0	0.0	1.5
33.8	38.5	34.1	24.6	5.2	5.6	12.2	11.6	7.0	6.8	0.7	1.9
25.3	27.8	23.5	16.2	6.5	7.0	12.6	10.0	4.1	4.0	0.6	1.7
—	13.5	—	8.7	—	2.3	—	4.7	—	2.3	—	2.9
—	15.3	—	10.8	—	2.8	—	6.2	—	1.4	—	2.4
—	17.6	—	10.1	—	2.3	—	7.7	—	1.4	—	2.3
22.4	20.8	13.0	9.4	2.4	2.7	6.5	5.4	1.4	1.1	0.1	2.0
19.2	20.4	11.7	8.2	1.8	1.7	5.0	4.2	1.5	1.6	0.0	1.0
22.5	21.8	10.8	8.3	1.7	2.1	4.3	4.0	1.0	1.1	0.1	2.6
20.9	19.9	12.8	9.4	2.1	2.2	5.2	4.7	1.3	1.0	0.1	1.3
20.4	17.9	15.0	10.9	2.7	3.1	5.8	4.8	1.7	1.6	0.4	1.9
30.6	27.3	19.8	12.9	3.3	3.1	6.5	7.1	2.0	1.5	0.1	1.5
19.0	17.6	13.7	10.2	2.8	2.9	5.6	5.0	1.5	1.4	0.1	1.7
17.7	14.5	12.0	9.5	2.3	2.2	5.7	5.1	1.5	1.5	0.2	1.4
30.8	31.2	25.9	18.3	3.1	2.9	8.7	8.9	4.5	3.6	0.3	1.5
38.1	41.5	32.4	24.5	5.8	6.2	7.9	7.4	4.3	4.1	0.6	1.6
25.6	27.2	21.0	15.1	5.4	6.9	7.3	6.4	3.4	2.8	0.6	1.7
18.5	20.5	17.9	12.7	3.9	4.3	8.3	6.6	2.4	2.2	0.1	1.9
24.0	21.3	16.7	12.3	3.5	4.5	6.5	6.3	2.2	2.3	0.2	3.3
—	13.5	—	8.3	—	2.5	—	4.9	—	1.3	—	2.5
12.1	11.1	10.0	8.1	2.0	2.2	5.9	5.5	1.8	1.6	0.1	2.2
—	18.6	—	9.8	—	2.5	—	5.1	—	0.9	—	1.1
—	20.5	—	10.3	—	3.7	—	8.3	—	1.3	—	1.5
15.0	13.6	14.2	11.1	4.2	5.3	6.5	5.7	2.0	1.9	0.1	2.4
14.9	14.2	13.0	9.9	2.0	2.8	5.5	4.5	1.8	2.1	0.0	2.1
—	16.1	—	10.1	—	2.5	—	5.7	—	1.9	—	1.1
18.5	19.1	12.8	9.5	2.6	2.0	5.5	4.9	1.9	1.6	0.1	1.8
—	14.6	—	9.4	—	2.6	—	4.5	—	1.9	—	2.6
22.0	19.5	17.4	12.7	5.0	5.3	7.3	6.5	2.9	2.3	0.4	1.6
14.2	13.1	13.0	9.9	2.9	3.4	5.5	5.1	2.9	2.5	0.0	1.0
—	15.1	—	9.3	—	3.5	—	7.1	—	2.3	—	1.7
—	11.8	—	9.3	—	2.8	—	5.3	—	2.6	—	1.5
11.9	11.9	11.8	8.5	2.0	2.2	5.5	4.9	2.0	1.6	0.1	1.3
13.4	11.0	10.6	7.9	1.9	3.0	5.0	4.4	2.4	2.4	0.1	2.4
—	11.3	—	5.7	—	2.0	—	4.1	—	2.2	—	1.2
11.4	12.2	7.1	5.1	1.5	1.9	2.8	2.0	1.5	1.7	0.0	1.2

第二十九表 昭和五年—大正九年道府縣別

道 府 縣	人口中有業者 ノ占ムル割合		有業者中農業者 ノ占ムル割合		同 水産業者 同		同 鑛業者 同	
	昭5%	大9%	昭5%	大9%	昭5%	大9%	昭5%	大9%
全東	45.6	48.7	48.3	51.8	2.0	2.0	1.0	1.5
1 北海	45.6	48.9	64.5	64.7	2.2	2.0	1.1	1.6
2 青岩	42.9	45.2	44.9	45.4	10.0	8.4	3.2	3.7
3 宮秋	44.9	49.0	62.0	62.0	5.7	5.9	0.2	0.6
4 森手	47.0	47.0	69.5	72.3	3.7	2.5	0.9	0.8
5 城田	42.6	45.3	60.1	61.9	3.1	2.8	0.5	0.6
6 山福	42.8	47.9	66.3	66.3	0.8	1.3	1.9	2.6
7 茨栃	46.9	51.6	63.6	62.0	0.5	0.9	0.4	0.6
8 群	48.1	51.2	65.3	64.6	0.6	0.5	2.3	3.4
9 木馬	52.0	55.3	69.9	71.0	0.9	1.2	1.0	1.5
10 玉葉	45.3	49.3	60.4	59.9	0.1	0.1	1.3	1.9
11 京川	46.6	52.1	55.0	59.4	0.1	0.1	0.3	0.1
12 湯	48.1	52.7	61.3	65.2	0.1	0.0	0.1	0.1
13 山	51.2	53.5	62.7	65.3	3.2	4.3	0.1	0.1
14 井梨	42.5	44.1	6.5	10.3	0.3	0.3	0.2	0.4
15 野	40.6	45.1	25.2	30.8	1.9	2.2	0.3	0.3
16 阜岡	—	52.0	—	63.6	—	1.2	—	0.8
17 知重	—	45.4	—	58.9	—	2.0	—	0.1
18 賀	—	49.0	—	55.1	—	2.8	—	0.7
19 都	50.2	52.1	52.0	55.9	2.0	2.5	0.2	0.2
20 阪庫	49.1	53.5	60.6	62.8	0.0	0.0	0.2	0.1
21 山	52.7	54.8	59.3	59.9	0.1	0.1	0.1	0.1
22 取根	46.9	50.0	57.1	60.9	0.2	0.1	0.4	0.6
23 山島	44.0	47.0	51.1	57.0	2.7	2.5	0.3	0.3
24 口	46.7	47.5	36.6	45.4	0.8	1.0	0.2	0.2
25 島	46.7	50.3	53.4	57.6	3.7	3.5	0.2	0.1
26 川	49.6	52.5	60.2	65.3	0.4	0.4	0.1	0.1
27 媛	49.5	49.1	26.1	32.9	0.4	0.5	0.2	0.2
28 知	44.0	45.3	10.5	14.1	0.3	0.4	0.1	0.2
29 重	44.4	45.4	35.0	37.8	1.6	1.7	0.3	0.4
30 賀	39.9	38.6	48.6	51.6	0.1	0.0	0.1	0.2
31 山	41.5	41.3	43.2	46.0	3.4	3.5	0.3	0.5
32 取	—	53.5	—	65.6	—	1.3	—	0.1
33 根	51.0	53.2	66.0	66.9	1.9	2.0	0.2	0.4
34 山	—	52.1	—	60.3	—	1.2	—	0.5
35 島	—	46.1	—	52.5	—	1.8	—	0.1
36 口	46.5	46.6	51.0	53.1	4.3	4.1	2.8	2.8
37 島	50.0	52.6	59.8	61.4	2.5	2.6	0.4	0.4
38 川	—	49.2	—	59.4	—	2.7	—	0.3
39 媛	44.5	46.7	54.4	56.2	3.3	2.9	1.1	1.0
40 知	—	51.8	—	60.0	—	4.1	—	0.3
41 岡	43.3	47.4	33.2	34.0	1.1	1.1	10.5	17.0
42 賀	45.8	48.0	55.1	53.9	1.9	1.9	4.5	9.2
43 崎	—	50.4	—	49.5	—	6.6	—	4.9
44 本	—	51.4	—	63.7	—	1.9	—	1.1
45 分	48.8	52.4	63.8	67.0	2.5	2.2	0.3	0.4
46 崎	47.7	49.8	64.4	67.2	1.7	1.4	0.4	0.3
47 島	—	48.7	—	71.1	—	2.2	—	0.2
兒	48.3	51.6	72.8	72.2	2.5	2.5	0.4	1.2

第三十表 大正九年—昭和五年産業別人口増加率

道府縣	現在人口	有業人口	農業	水産業	鑛業	工業	商業	交通業	公務自由業	家事使用人
總數	15.17	7.2	- 0.2	9.6	-28.4	2.5	55.6	1.0	28.3	24.5
1 北海道	13.47	5.8	5.5	11.8	-26.5	5.0	38.9	4.0	17.6	17.7
2 北海	19.21	13.3	12.0	23.0	- 2.8	8.6	40.6	8.6	49.1	3.2
3 青森	16.32	7.8	6.6	2.8	-72.7	21.1	41.9	14.1	12.6	25.6
4 岩手	15.40	15.4	10.9	68.2	41.5	25.5	51.7	12.7	31.2	24.6
5 宮城	18.82	11.9	8.6	21.5	-10.5	11.7	48.9	15.0	19.7	15.3
6 秋田	9.92	- 1.7	- 1.6	-37.3	-30.1	- 4.4	32.0	-10.0	18.0	52.1
7 山形	11.47	1.3	3.9	-41.2	-45.3	- 3.6	33.0	- 1.9	16.8	26.2
8 福島	10.67	4.0	5.1	18.1	-30.0	- 0.3	32.8	- 2.8	12.3	-13.1
9 茨城	10.12	3.4	1.8	-18.7	-31.2	2.6	30.9	- 7.7	24.9	- 6.6
10 栃木	9.10	0.4	1.2	-19.9	-34.1	-14.0	32.6	-14.0	19.4	- 4.4
11 群馬	12.68	0.9	- 5.8	4.1	94.6	1.8	46.5	3.4	20.1	- 3.2
12 埼玉	10.58	1.0	- 5.1	9.8	40.4	- 4.9	49.0	18.8	33.5	7.5
13 千葉	10.03	5.3	1.1	-19.9	-43.4	7.6	44.8	8.3	25.6	12.9
14 東京	46.20	41.0	-11.0	11.5	-22.9	23.9	95.8	31.5	48.1	45.2
15 神奈川	22.38	10.2	-10.0	- 1.8	24.8	0.4	59.7	3.6	39.4	12.0
16 新潟	8.83	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17 富山	7.55	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18 石川	1.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19 福井	3.17	- 0.7	- 7.6	-19.0	-23.2	7.2	37.3	-11.4	18.7	25.4
20 山梨	8.16	- 0.7	- 4.3	- 3.8	52.8	- 6.3	41.7	8.6	17.1	- 9.8
21 長野	9.88	5.8	4.6	- 6.2	-14.9	9.5	38.3	-15.9	14.0	- 0.8
22 岐阜	10.09	3.3	- 3.0	6.8	-32.7	8.5	41.9	- 3.4	15.3	32.0
23 靜岡	15.96	8.7	- 2.6	13.2	-10.6	24.2	50.0	- 3.8	31.7	14.6
24 愛知	22.86	20.7	- 2.6	0.3	32.3	35.2	85.3	32.2	9.9	59.1
25 三重	8.24	0.4	- 7.0	6.2	22.0	8.7	35.7	- 4.6	12.7	13.8
26 滋賀	6.23	0.3	- 7.5	-11.1	-24.0	22.1	27.2	3.3	11.8	- 0.4
27 京都	20.64	12.6	-10.7	- 8.4	32.4	11.4	59.8	18.3	9.6	38.5
28 大阪	36.80	32.9	- 0.8	- 0.6	-27.2	22.0	76.2	24.3	41.6	36.8
29 兵庫	14.97	12.7	4.3	1.6	-16.1	5.7	56.3	-11.1	29.0	34.5
30 奈良	5.60	9.2	2.9	45.5	-32.7	- 1.4	54.2	- 0.3	38.8	18.9
31 和歌山	10.71	11.2	4.5	7.1	-34.2	25.4	51.0	-13.2	16.1	4.7
32 鳥取	7.61	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33 島根	3.47	0.8	2.2	- 6.5	-45.6	7.9	23.6	- 9.8	6.2	8.7
34 岡山	5.44	-	-	-	-	-	-	-	-	-
35 廣島	9.74	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36 山口	9.09	8.7	4.2	14.4	6.9	19.2	39.8	-14.2	22.5	15.1
37 徳島	6.91	1.7	- 1.1	- 1.5	11.9	6.6	34.5	-25.8	23.7	-12.8
38 香川	8.11	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-
39 愛媛	9.11	-	- 0.7	18.9	12.7	0.4	39.9	-11.3	17.9	20.8
40 高知	7.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41 福岡	15.49	5.5	3.3	3.6	-34.4	19.0	44.3	- 0.9	20.0	33.9
42 佐賀	2.62	- 2.1	0.2	- 3.8	-52.4	6.0	27.6	-16.0	5.2	14.3
43 長崎	8.55	-	-	-	-	-	-	-	-	-
44 熊本	9.79	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45 大分	9.94	2.4	- 2.4	14.0	- 6.2	2.8	42.5	- 5.9	13.4	24.7
46 宮崎	16.80	12.0	7.3	38.4	70.6	36.4	52.0	-34.6	26.7	17.3
47 鹿兒島	9.97	-	-	-	-	-	-	-	-	-
48 沖繩	1.04	- 5.6	- 4.7	- 8.1	-66.5	-12.0	30.6	-26.0	34.5	-16.3

全體としては幾分低下を示してゐる。

(六) 鑛業は一萬二千の人口を吐き出してゐる。減少率は極めて高いが、もともと鑛業人口の割合が少いのであるから吐き出した数は率ほどに驚くべきものではない。

更に東北地方内部に於ける特色を縣について若干摘記しておくこととする。

(一) 青森、岩手、宮城三縣と秋田、山形、福島三縣とは相當相異つた様相を呈してゐる。

(a) 後の三縣は前の三縣に比べて工業商業鑛業人口の割合が幾分多い。

(b) 前三縣に於ては鑛業を除いてあらゆる産業部門の人口が増加してゐるに反し、後三縣に於ては鑛業はもとより、工業、交通業、水産業(福島縣を除く)等に於て減少を示し、主として農業(秋田縣を除く)商業、公務自由業等に増加して行つてゐる。

(c) 極めて特色ある縣は岩手、秋田二縣であつて奇なる對象をなしてゐる。

(1) 岩手縣は他の縣が残らず減少してゐるにも拘らず獨り鑛業人口の増加を示し、工業人口の増加も特に顯著であり、水産業人口の増加は殆んど東北水産業人口の増加を代表するが如き觀があり、産業の全部門に亘つて増加を示してゐる。

(2) 之に反して秋田縣は商業、公務自由業、家事使用人に於て増加したる以外各産業部門に亘つて顯著な減退を示してゐる。農業人口も五千近く減少してゐる。

五 土地と農家

前項に於て、東北地方の増加人口は主として農業に吸収せられたことを明かにしたが、然らばこの間農家については如何なる變化を示してゐるであらうか。この問題に解答するに先立つてこの地方の土地の利用の特色を明かにしなければならぬ。

東北地方の土地利用の特色は、山林並に牧場原野の面積の廣大なるに反し耕地少なく、全面積に對する耕地の割合は、全國中北海道並東北區を除けば、最も少なき處である。されど最近十ヶ年間、(大正十一年—昭和七年)の推移を見れば耕地の増加率(二・二一%)は全國(〇・三七%)並に府縣(一・三七%)の増加率よりも大なるは可耕地面積の餘地多きを示すもので、耕地面積に對する將來の耕地の擴張見込地面積の割合(昭和八年末)も府縣の平均率が二四・二%なるのに、東北地方に於ては二九・四%を示してゐる。(北海道を含める全國の率は三七・七%を示せり)。たゞ本地方の總面積中、最も廣大なる地域を占むる山林並に原野の約五割が國有林野に屬する事は本地方民の土地利用に及ぼす影響極めて大なるものあるのを見逃がす事が出來ない。

總面積に對する山林面積の割合(昭和八年末現在)は全國平均が五三・八%、府縣平均が五〇・九%であるに、東北地方は遙かに高くして五七・三%を示してゐる。之を六縣別に見れば、福島縣は最も廣く七一・二%の高率を示し、山形、岩手、青森の三縣は何れも五七%以上で、全國並に府縣の平均よりも遙かに高い。牧

場原野の面積の割合も、東北地方は全國竝に府縣の平均より高く八・七%の高率で、岩手、秋田、青森の三縣は、共に一〇%以上である。之に反して、耕地は全國平均が一五・六%、府縣平均が一七・二%なるのに、東北地方は下りて一四・〇%を示し、最も少ない岩手縣は僅かに九・三%に過ぎない(昭和八年末)。

(註) 上述の耕地の率は昭和八年末であるが、昭和四年の農業調査結果報告によれば、全國は一五・四%東北地方は一三・二%、最も少ない岩手縣は九・一%の割合である。

更に林野總面積に對する國有林野面積の割合(昭和五年末現在)を見るに、其の廣大なる事驚くべく、全國平均が二四・〇%なるのに、東北地方は四九・三%で、二倍餘に上り、青森の如きは六四・三%の高率を占め、最も少ない宮城縣と雖も三五・五%で、全國平均の一倍半を有して居る。此等の國有林野は從來稀なる點で地元農民を均霑する事少くはないが、凶作の今日残る其の面積が廣大であるから其の利用が問題視せらるゝに至つた。東北地方の耕地の割合(昭和四年現在)は、全國の平均率が一三・二%であるのに比べると、略々之に近い一三・九%であるのに最も低い岩手縣は僅かに九・一%に過ぎない。されど之が最近十ヶ年間の推移を見るに、府縣の平均率が一・三七%であるのに、東北地方は二・二%に上り、宮城縣は最高八・一%に達して居る。されど岩手、福島二縣は却つて耕地の減少を見、福島縣の如きは、四・四八%を減じて居る。耕地に於ける田畑の割合を見ると、東北地方は全國に比して畑の割合が多く、全國の平均率が田が六一・七%畑が三八・三%なるに反し、田は五四・一%、畑は四五・九%の率を示し、殊に畑は岩手縣の五六・三%を最高

とし、福島縣の四五・八%、青森縣の四五・三%と共に之に次ぎ、田は秋田縣の八〇・五%を最高とし、山形縣の七一・二%之に次いで居るのは、地形の然らしむる所である。(以上昭和四年農業調査結果報告) 水田の大部分が一毛作田なる事は、林野の大部分が國有林野なる事と共に、東北地方の土地利用上、注目すべき事で、全國平均率が、一毛作田が六〇・九%、二毛作田が三九・一%であるに、北海道の一毛作田が九九・八%、二毛作田が僅かに〇・二%であるを除けば、東北地方の一毛作田が九五・九%二毛作田が僅かに、四・一%に過ぎないで、府縣の最下位であるのは、土地生産力の低き事を證する著しき特質である。しかも其の二毛作田に於て、普通裏作が僅に一六・一二%に過ぎないのは、東北地方の水田に於ける二毛作田の農作上の價値が極めて乏しき事を示して居る。今耕地の自小作別に就き、其の推移を見るに、自作地の減少は、全國的傾向であるが、東北地方に於ては、殊に其の減少率著しいばかりでなく、小作地の増加率も亦著しい。之を東北六縣別にすれば水田面積の廣き秋田、山形、宮城三縣に於ては殊に小作地が多い。之が十ヶ年間に於ける推移は自作地の減少率が、東北地方は全國一・八八%並府縣の一・〇一%でそれよりも高く、四・三五を示し、小作地の増加率は一〇・七五%の高率に上つて居る。昭和七年に於ける東北地方の耕地の自小作別は、全國の平均率が自作地が五二・八一%小作地が四七・一九%であるのに、東北地方は自作地が五三・〇一%(府縣は五二・九九%)、小作地が四六・九九%(府縣は四六・〇一%)で、自作地に於ては岩手縣の六六・〇五%を最高とし、小作地に於ては秋田縣の五六・七〇%を最高とする。之を十ヶ年間の推移に就き、六縣別に見れば、福島縣は最

高一〇・三〇%に上り、山形秋田二縣之に次いで居るが、小作地の増加に於ては山形縣の二〇・一八%を最高とし、宮城秋田二縣之に次いで居る。

(註) 昭和四年農業調査結果報告に據れば、自作地小作地の割合は、岩手、福島、青森三縣に於て、自作地が共に多く、畑の多き岩手縣の六七・九%を最高とし、小作地は秋田、宮城、山形三縣に多く、水田多き秋田縣の五八・四%を最高とする。

第三十一表 山林、牧場原野、耕地面積の總面積に對する割合 (昭和八年末現在農林省耕地課調)

全 國	山 林			牧場原野			耕 地			
	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
全 國	五三・八	八・五%	八・五	一五・六%	一七・二	三二・七%	一〇・四	一八・九%	一三・六	二五・八%
府 縣	五〇・九	七・二%	七・二	一三・八%	一四・〇	二五・八%	一三・六	二五・八%	一三・六	二五・八%
北 海 道	六三・五	一二・七%	一二・七	二二・〇%	一〇・四	一八・九%	一〇・四	一八・九%	一〇・四	一八・九%
東 北 區	五七・三	八・七%	八・七	一五・六%	一四・〇	二五・八%	一四・〇	二五・八%	一四・〇	二五・八%
青 森 縣	五六・九	一〇・六%	一〇・六	一九・四%	一三・六	二五・八%	一三・六	二五・八%	一三・六	二五・八%
岩 手 縣		五七・七%		一二・一%		二二・〇%		三二・七%		五八・三%
宮 城 縣		四五・八%		六・八%		一三・八%		二五・八%		四七・八%
秋 田 縣		五一・六%		一二・〇%		二二・〇%		三二・七%		五八・三%
山 形 縣		六〇・六%		五・八%		一五・一%		二五・八%		四七・八%
福 島 縣		七一・二%		四・七%		一三・八%		二五・八%		四七・八%

第三十二表 林野並耕地面積の總面積に對する割合

全 國	林野總面積に對する 國有林野面積の割合 (昭和五年末農林省 耕地課調)			總面積に對する耕地 (田畑)の割合 (昭和四年農業調査 結果報告)		
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
全 國	二四・〇	一三・二%	六一・七	三三・三%	一三・二	二四・〇%
東 北 區	四九・三	一三・九%	五四・一	四三・九%	一三・九	二八・〇%
青 森 縣	六四・三	一三・六%	五四・七	四三・三%	一三・六	二八・〇%
岩 手 縣		四〇・〇%	九・一	四三・七%	九・一	二〇・五%
宮 城 縣		三五・五%	一九・二	四七・四%	一九・二	二二・六%
秋 田 縣		五五・六%	一二・五	八〇・五%	一二・五	二八・八%
山 形 縣		五九・一%	一五・二	七一・二%	一五・二	二八・八%
福 島 縣		四四・六%	一三・五	五四・二%	一三・五	二八・八%

第三十三表 耕地並自作別耕地の割合 (昭和七年末現在農林省統計)

地域	大正十一年				昭和七年				
	總數	自作	小作	自作小作	總數	自作	小作	自作小作	
全國	六、〇一四、一九八、五町三、三四、九三七・一町二、七八九、二六一、四町五、六二〇/四六・三八%	二、七六六、五六三・三	二、三八四、五三〇・九	五三・八〇	四六・二〇	五、九九二、〇八四・八	三、一六四、一八三・二	二、八二七、九〇一・六	五二・八一
府縣	五、一六一、〇九四・二	二、七六六、五六三・三	二、三八四、五三〇・九	五三・八〇	四六・二〇	五、〇九〇、四七八・二	二、七四八、四五二・四	二、三四二、〇二五・八	五三・九九
東北區	八七〇、七〇八・二	四九二、三三三・六	三七八、三九四・六	五六・五四	四三・四六	八八九、九三五・七	四七〇、九二二・六	四一九、〇三三・一	五三・〇一
青森	一四、八三三・五	六七、九五六・九	五六、八六五・六	五四・四四	四五・五六	一三〇、九一〇・三	六八、七四一・〇	六二、一六九・三	五三・五一
岩手	一四三、九五四・六	九三、八三一・五	五〇、一三三・一	六九・一八	三四・八二	一四〇、五九二・二	九二、八一九・五	四七、七〇九・七	六六・〇五
宮城	一三一、四九七・九	六七、三三二・二	六四、二七六・七	五一・二二	四八・八八	五、九九二、〇八四・八	三、一六四、一八三・二	二、八二七、九〇一・六	五二・八一
秋田	一三六、五八〇・六	六四、八六五・〇	七一、七二五・六	四七・四九	五二・五一	五、〇九〇、四七八・二	二、七四八、四五二・四	二、三四二、〇二五・八	五三・九九
山形	一三三、七五九・七	七〇、八七一・九	六二、八八七・八	五二・九八	四七・〇二	八八九、九三五・七	四七〇、九二二・六	四一九、〇三三・一	五三・〇一
福島	二〇〇、〇九二・九	一二七、五六七・一	七二、五二五・八	六三・七五	三六・二五	一三〇、九一〇・三	六八、七四一・〇	六二、一六九・三	五三・五一
全國	五、九九二、〇八四・八	三、一六四、一八三・二	二、八二七、九〇一・六	五二・八一	四七・一九	五、九九二、〇八四・八	三、一六四、一八三・二	二、八二七、九〇一・六	五二・八一
府縣	五、〇九〇、四七八・二	二、七四八、四五二・四	二、三四二、〇二五・八	五三・九九	四六・〇一	五、〇九〇、四七八・二	二、七四八、四五二・四	二、三四二、〇二五・八	五三・九九
東北區	八八九、九三五・七	四七〇、九二二・六	四一九、〇三三・一	五三・〇一	四六・九九	八八九、九三五・七	四七〇、九二二・六	四一九、〇三三・一	五三・〇一
青森	一三〇、九一〇・三	六八、七四一・〇	六二、一六九・三	五三・五一	四七・四九	一三〇、九一〇・三	六八、七四一・〇	六二、一六九・三	五三・五一
岩手	一四〇、五九二・二	九二、八一九・五	四七、七〇九・七	六六・〇五	三三・九五	一四〇、五九二・二	九二、八一九・五	四七、七〇九・七	六六・〇五

第三十四表 自作地、小作地の割合 (昭和四年農業調査結果報告)

地域	自作地 (%)	小作地 (%)
全國	五一・九%	四八・一%
北海道	四〇・九	五九・一
東北區	五三・〇%	四七・〇%
青森縣	五三・六	四六・四

兩年度比較増減率 (大正十一年基準)

地域	總數	自作	小作
全國	・三七	△一・八八	一・三九
府縣	一・三七	△一・〇一	△一・七六
東北區	二・二二	△四・三五	一〇・七五
青森	四・八八	一・一五	九・三三
岩手	△二・三八	△一・〇八	△四・八二
宮城	八・一一	△六・七	一七・二八
秋田	五・二二	△四・〇七	一三・六一
山形	五・八〇	△六・九七	二〇・一八
福島	△四・四八	△一〇・三〇	五・六

△印は減

秋田縣	自作地	六七・九%	小作地	三二・一%
宮城縣	自作地	四五・四	小作地	五四・六
岩手縣	自作地	四一・六	小作地	五八・四
山形縣	自作地		小作地	四六・七%
福島縣	自作地		小作地	六〇・六
山形縣	自作地		小作地	三九・四

第三十五表 道府縣別耕地一町步當並に農業人口一人當農產額

道府縣	農業人口一人當農產額	耕地一町步當農產額
全國	一五三	三六〇
北海道	一〇五	六三
青森縣	一二六	二三六
岩手縣	一一三	二五六
宮城縣	一六五	二九一
秋田縣	一四九	三七二
山形縣	一六四	三七二
福島縣	一二八	三一八
茨城縣	一四七	三六六
栃木縣	一七五	三八〇
群馬縣	一四五	三九三
埼玉縣	一四七	三八八
千葉縣	一四二	三五〇
東京府	一三七	四〇八
神奈川縣	一八一	四三〇
新潟縣		三三六
富山縣		三五四
石川縣		三四七
福井縣	一四六	三七九
山梨縣	一三三	四七〇
長野縣	一二七	三九八
岐阜縣	一五〇	四六〇
靜岡縣	一三四	四〇七
愛知縣	一八四	四九六
三重縣	一七七	四九〇
滋賀縣	一九二	五〇〇
京都府	一七一	五二九
大阪府	二一三	五八四
兵庫縣	一九一	五九八
奈良縣	二三二	五九五
和歌山縣	一七八	五三七
鳥取縣		四八八
島根縣		三三三
岡山縣		五六四
廣島縣		四九一
山口縣	一七一	四二七
德島縣	一四三	五八〇
香川縣		七〇九
愛媛縣	一七六	五三九
高知縣		三四九
福岡縣	二〇六	五二三
佐賀縣	二一〇	五一二
長崎縣		三八〇
熊本縣		四三七
大分縣	一五一	四八一
宮崎縣	一五〇	三七五
鹿兒島縣		三三二
沖繩縣	九三	三一四

備考 (1) 農産額は米、麥、食用農産物、園藝農産物、工業農産物、繭を含む(昭和七年) (2) 農業人口は昭和五年國勢調査産業別人口農業に據る。

ここに附言すべきはこの地方の土地の生産力如何の問題である。

土地の生産力の高低を測定することは極めて困難であつて、輕々に斷定することは甚だ危険であると云はなければならぬが、今假りに耕地一町歩當主要農産額を見るに、第三十五表の如く昭和七年に於て、秋田、山形二縣は耕地當りに於ては同額であるが、農業人口一人當りに於ては秋田に低く山形に高い。それは秋田縣の農業人口の割合が山形縣に比して多いことによると見ることが出来る。

概して東北地方の土地の生産力は乏しく、地理的條件に恵まれるところ少く、自然に抗する努力著しく、屢々凶作の見舞ふところとなり、上述の如き土地利用、耕地配分の特色、農業經營の發達が遅れてゐること等と相俟つて、この地方の人口の大半を托する農業の如何に困難なるかは想像に餘りある。

北海道を除けば、青森縣は僅に二三六圓にして全國府縣中の最下位に在りて全國平均の六割五分に過ぎず、これに次ぐ岩手縣も亦二五六圓にして全國平均の七割餘、宮城縣は之に次ぎ二九一圓にして八割餘である。第五位は福島縣の二二八圓である(第四位は沖繩縣)。かく東北地方の四縣の農産額は全國の最低位で、土地生産力の弱いことを示してゐる。僅かに秋田、山形二縣は全國平均より稍々高位にあると云ふことが出来る。

更に農業人口一人當生産額を見るに、東北地方は概して少く、殊に岩手縣は一一三圓、青森、福島二縣は各一二六圓、一二八圓を示すに過ぎない。秋田、山形、宮城の三縣之に次ぐも共に一六五圓以下である。之を近畿地方の平均一九三圓に比較すれば、平均に於て五三圓、即ち約三割八分の低額を示してゐる。之を最も低き岩手縣と比較すれば、八二圓即ち岩手縣の七割四分の差高を示してゐる。尙宮城縣に於ては耕地一町歩當農産額は比較的に低いが、農業人口一人當のそれはやゝ上昇を示してゐる。この縣の農業人口の割合が東北地方としては比較的少いことによつてゐる。

東北地方の農家の農業經營を考察すると、最近十ヶ年間に於ける農家戸數の増加率は八・五六%で、府縣の平均の増加率五・〇二%に比すると、二・五四%の増加を示して居る。然るに東北地方の耕地面積が上述の如く増加せるに拘はらず、農家一戸當の經營面積の推移は、約一反步(〇・八八反)の減少を示して居る。かゝる農家戸數の激増は、一面農業以外へ此等増加戸數を包擁すべき産業の缺如に基く事に起因して居るし、經營面積の縮少は、一面さなきだに生産力の乏しき東北地方の農家經濟を壓迫するに至つた。

農家一戸當の經營面積を見ると、府縣平均の率は僅かに〇・九四町なるに比して、東北地方は一・四二町に達してゐるから一見其の規模が大きいやうに見ゆるが、耕地の生産力の乏しい東北地方の農家としては、之に依て漸く最低の生活を維持し得るに過ぎない。しかも最近十年間に於ける耕地經營別農家戸數の推移の狀況は、一町未滿の經營農家が、五三・二〇%^{*}(大正十一年)から五三・七一%^{*}(昭和七年)への増加は、府縣

の平均率が、一町未満の經營農家の七〇・四二%より七〇・二二%に減少せるに反し、反對の現象を示してゐる。だから最低の生活水準を營みつゝある東北地方の貧農の實情は益々零細化せる事を実證する。この現象は、直ちに自小作別農家の推移にも反映し、府縣の平均率は自作農が増加して小作農の減少を見るのに反し、東北地方に於ては、自作農が著しく減少し、又小作農が著しく増加してゐる。最近十ヶ年間に於ける小作農の増加率が二割以上に上つてゐるのは、年を逐つて自作農の轉落の甚だしい事を実證する。

然るに一町以上三町未満の經營農家は、府縣の平均率と共に大體に於て増加はしてゐるが、三町以上の經營農家は、五町以上の經營農家と共に、最近十ヶ年間に府縣の平均率と共に減少してゐるが、殊に東北地方に於て激減してゐるのは大規模の農業經營の崩壞並に分家等の現象が之に現はれてゐるものと考へられる。

東北地方に於ける一町未満の耕地經營農家を縣別に見ると岩手縣の五七・七八%を最高とし、福島、宮城二縣之に次ぎ、秋田縣の四七・一二%が最も低率である。然るに、一町以上三町未満の經營農家は、秋田縣四六・八八%を最高とし、青森、福島二縣之に次ぎ、岩手の三八・一六%が最低である。三町以上の經營農家は山形縣七・七二%を最高とし、宮城、青森二縣之に次ぎ、福島縣の二・〇六%を最低とする。

耕地所有の規模の推移に於ても、其の傾向略々耕地經營の推移と其の趣を同じくして居る。即ち一町未満所有の戸數は、府縣の平均率が七五・〇六%（大正十一年）より七六・三八%（昭和七年）に増加してゐるのに對し、東北地方に於ては六四・七八%（大正十一年）から六六・三〇%（昭和七年）に増加し、一町以上五町未満所有

の戸数は、府縣平均率は二二・四二%（大正十一年）より二一・四六%（昭和七年）に減じてゐるのに、東北地方に於ては、三一・〇〇%（大正十一年）から二九・八三%（昭和七年）に減じてをり、五町以上所有の戸数は、府縣の平均率と共に逐年減少の傾向を示し、大所有地主の崩壊を證してゐるが、殊に水田地域の廣い秋田、山形、福島三縣に於て、特に激増を見るのは、土地兼併の著しき傾向を示すものである。即ち五十町以上所有の戸数は近年著しい増加であるが、最近十ヶ年間の増加率は、秋田縣に於て二四・五四%の最高率を示し、山形縣の二一・八八%、福島縣の二〇・〇〇%之に次いで大きい。

第三十六表 自作小作別農家戸數

縣名	大正十一年		自作兼小作	自作	小作	自作兼小作
	總數	自作				
全國	五、三六二、五三三	一、六四〇、八〇七	二、七二一、七二六	三〇・六〇%	二八・三六%	四二・〇三%
府縣	五、一八五、一六三	一、五七四、一七六	一、四三七、九三五	二、一七三、〇五二	二七・七三%	四二・九一%
東北區	五七六、四九〇	一九九、八九〇	一六一、五三四	二七三、〇六六	三二・一〇%	二七・九二%
青森	七七、七〇七	三三、二四七	三三、二〇三	三二、二七五	二九・九二%	四〇・三三%
岩手	九九、一三三	四一、二八八	一八、一〇三	三九、七四一	四一・六五%	四〇・〇九%
宮城	九二、五五七	二二、五八二	三一、三八五	三九、五九〇	三三・三三%	四二・七七%
秋田	八一、二六四	一七、七九五	二九、六四三	三八、八二六	二〇・六三%	四五・〇一%
山形	九一、五三八	二三、五二〇	二八、六六八	三九、三五〇	二五・六九%	四二・九九%
福島	一三一、二九二	五三、四五六	三〇、五三二	四八、三〇二	三九・九六%	三六・七六%

昭和七年

兩年度比較增減率 (大正十一年基準) △印ハ減

全 國	全 國	附 屬 縣	東 北 區	青 島 森	岩 手 縣	宮 城 縣	秋 田 縣	山 形 縣	福 島 縣	全 國	全 國	附 屬 縣	東 北 區	青 島 森	岩 手 縣	宮 城 縣	秋 田 縣	山 形 縣	福 島 縣	
五、六四二、五〇九	一、七五四、五三七	一、四九八、五八六	二、三八九、三七六	三、〇一九	二、六五六	三、三〇一	二、五七二	二、五〇〇	四、二三五	五、〇二二	六、九三〇	一、五三二	八、六一〇	一、〇〇五	七、七〇〇	二、二八〇	八、七五〇	一、〇七〇	七、四〇〇	八、九六〇
五、四四五、三二九	一、六八八、六二六	一、四〇〇、三〇九	二、三五六、三九四	三、一〇一	二、五七二	三、一〇一	二、五〇〇	二、九〇〇	四、〇〇〇	五、〇二二	六、九三〇	一、五三二	八、六一〇	一、〇〇五	七、七〇〇	二、二八〇	八、七五〇	一、〇七〇	七、四〇〇	八、九六〇
六二八、〇三四	一七五、五四一	一九四、六七九	一、五七、八一四	二、七、九五	二、九〇〇	三、一〇〇	三、三〇〇	三、七〇〇	四、〇〇〇	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二	四、〇二二
八五、五二〇	二五、〇三八	二八、一四〇	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二	三二、三四二
一〇八、八一八	四〇、八九〇	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五	四三、九三五
一〇二、一六八	二一、二二七	三三、二四二	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九	四二、五一九
九三、〇七四	一七、六三九	三三、七六四	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一	四一、六七一
九九、四〇〇	二二、五六〇	三三、一八二	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八	四四、六五八
一三九、〇五四	四八、一八七	三八、二二六	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一	五二、六三一
五・三三%	六・九三%	一・五三%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%	八・六一%
五・〇二	七・二七	二・六二	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四	八・四四
八・五六	△二・四二	二〇・五二	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五	八・七五
九・七七	△〇・九六	三三・三三	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇	一〇・七〇
一〇・三八	△一・六四	三三・四二	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇	七・四〇
一四・五三	△〇・八八	一三・九〇	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三	七・三三
八・五九	△四・〇八	一一・二六	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九	一三・四九
五・九一	△八・一四	二五・二三	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六	八・九六

第三十七表 農家一戸當耕地面積 (農林省農林統計)

大正十一年 昭和七年 減率 一・〇六二 〇・〇六〇 五・六四%

府	縣	○・九九五	○・九三五	○・〇六〇	六・〇三
東北區		一・五〇五	一・四一七	〇・〇八八	五・八四
青森		一・六〇六	一・五三一	〇・〇七五	四・六七
岩手		一・四五二	一・二九一	〇・一六一	一一・〇九
宮城		一・四二一	一・三九一	〇・〇三〇	二・一一
秋田		一・六八一	一・五四四	〇・一三七	八・一五
山形		一・四六一	一・四二四	〇・〇三七	二・五三
福島		一・五二四	一・三七五	〇・一四九	九・七八

第三十八表 耕作耕地廣狹別農家戶數（農林省農林統計）

大正十一年

縣名	總數	五段未滿	一町未滿	二町未滿	三町未滿	五町未滿	五町以上	%
全國	五、三六二、五三二	一、八八八、五三七	一、七九六、五三六	一、一三六、〇三七	三二六、〇五三	一四三、八三三	八一、五四六	三五・三三
府縣	五、一八五、一六三	一、八六六、八一九	一、七八四、八三五	一、一一九、三九七	二九三、二二七	九九、一四九	二一、七四六	*三六・〇〇
東北區	五七八、四九〇	一五九、八八四	一四八、四四四	一四九、六八四	七六、二四四	三五、六七六	八、五五八	*二七・六四
青森	七七、七〇七	二二、二一九	一九、二九五	二〇、一五四	一〇、五六八	四、九八三	一、五八八	二七・一八
岩手	九九、一三二	二八、四〇六	二六、四八三	二四、三五九	一一、五六七	五、五五四	一、七六三	二八・六五
宮城	九二、五三七	二八、三六七	二三、九四九	二一、〇五〇	一一、三九〇	六、四一六	一、三八五	三〇・六五
秋田	八六、二六四	一九、六三三	二〇、一三二	二五、四八六	一三、八七七	六、〇七八	一、〇六八	二三・七五
山形	九一、五三八	二五、六二九	二三、一一一	二三、一三七	一三、一四八	六、二三八	一、二七五	二八・〇〇
福島	一三一、二九二	三六、七四〇	三五、四七四	三六、四九八	一四、六九四	六、四〇七	一、四七九	二七・九八
全國	五、六四二、五〇九	一、九三六、四一九	一、九三三、二二九	一、二四二、八六三	三四四、二九四	一二九、五三三	七六、一九一	三四・三三
昭和七年								三四・二六
								二二・〇三
								五・七五
								二・三〇
								一・三五

府縣	五、四四五、三九	一、九〇三、三七〇	一、九二〇、六九六	一、二三五、四六三	二九九、七五〇	八三、二九一	一二、七五九	*三四、九五	*三五、二七	二二、五〇	五、五〇	一、五三	〇、二三
東北區	六八、〇三四	一六七、一三五	一七〇、一八一	一七三、六八〇	八二、六三	二九、八三	四、六二	*二六、六一	*二七、一〇	二七、六五	一三、一五	四、七五	〇、七四
青森	八五、五二〇	二一、八三六	二三、〇六〇	二三、四六九	一一、九六七	四、三九八	七九〇	二五、五三	二六、九七	二七、四四	一三、九九	五、一四	〇、九三
岩手	一〇八、八二八	三一、六八五	三一、一八六	二九、一八七	一二、三三七	三、六八八	七三五	二九、一二	二八、六六	二六、八二	一一、三四	三、三九	〇、六七
宮城	一〇二、一六八	二九、三四四	二五、九四一	二五、四五三	一四、一三	六、一五一	一、一五六	二八、七二	二五、三九	二四、九二	一三、八二	六、〇二	一、一三
秋田	九三、〇七四	二〇、四八〇	二三、三九五	二八、八七九	一四、七五〇	五、〇九七	四七三	三三、〇〇	二五、一三	三一、〇二	一五、八五	五、四八	〇、五一
山形	九九、四〇〇	二六、七九六	二五、二四一	二六、二三八	一三、四四〇	六、七五〇	九三五	二六、九六	二五、三九	二六、四〇	一三、五二	六、七九	〇、九四
福島	一三九、〇五四	三六、九九四	四一、三五八	四〇、四五四	一五、九九六	三、七二九	五三	二六、六一	二九、七四	二九、〇九	一一、五〇	二、六八	〇、三八

兩年度比較增減率

全國	五・三二	二・五四	七・六一	九・四〇	二・六一	△九・九四	△六・五七
府縣	五・〇二	一・九六	七・六一	九・四八	二・三三	△一五・九九	△四一・三三
東北區	八・五六	四・五四	一四・六四	一六・〇三	八・五八	△一六・四三	△四六・一一
青森	一〇・一〇	三・四〇	一九・五一	一六・四五	一三・二四	△二一・七四	△五〇・二五
岩手	九・七七	一一・五四	一七・七六	一九・八二	△一・八三	△三三・六六	△五八・三一
宮城	一〇・四二	三・四四	八・三三	二〇・九二	二三・九九	△四・一三	△一六・五三
秋田	七・八九	四・三七	一六・二二	一三・三一	六・二九	△一六・一四	△五五・七一
山形	八・五九	四・五五	九・三三	一八・五三	二・二三	△八・二二	△二六・六七
福島	五・九一	〇・六九	一六・五九	一〇・八四	八・八六	△四一・六四	△六四・六四

第三十九表 耕地所有の廣狹別戸數

大正十一年

縣名	總數	五段	未滿	一町	未滿	三町	未滿	五町	未滿	十町	未滿	五十町	未滿	五十町以上	五段	未滿	一町	未滿	三町	未滿	五町	未滿	十町	未滿	五十町	未滿	五十町以上
全國	四、七九六、一八〇	二、三五二、六五五	一、一六三、〇七八	八六六、二〇一	二二三、一七一	一三九、一三〇	四七、七〇一	四、二四四	四四、〇四%	二七、〇九	二〇、五〇	五、〇三	二、五三	〇、七六	〇、〇五												

府縣	四、六三、〇八九	二、三六、七九九	一、二五二、〇七四	八四四、五四八	一九四、七五五	八四、〇二八	三〇、五五一	二、三三四	五〇、二〇	二四、八六一	一、八二二	四、二〇	一、八一〇	〇、〇五
東北區	五二、二二二	二〇九、〇六五	一一三、七三二	一一二、九六六	三六、八三三	一五、二三五	五、七八一	六二〇	四〇、八二	二二、九六一	一、七一九	二、九二	一、一三〇	〇、二二
青森	六八、九九一	二六、一八九	一七、二二一	一六、八六四	五、五六四	二、二五五	八九六	一〇二	三七、九六	二四、八二	二、四〇四	一、三〇	〇、〇五一	
岩手	九一、一〇一	三一、八二九	二五、四三五	二二、九六九	七、二七六	二、七三四	七八八	七〇	三四、九四	二七、九二	二、七九九	三、〇〇	〇、〇八	
宮城	七六、五一一	三五、二〇四	一七、二三三	一五、二七七	五、一四八	二、四九四	一、〇二二	一三四	四六、〇一	二二、五二	一、九七六	三、二六	一、三三〇	〇、一八
秋田	七一、四二六	三一、二五六	一六、三三八	一五、六八五	四、四四九	二、四三八	一、一九七	一六三	四三、七六	二二、七三	二、九六六	三、三〇	一、六八〇	〇、三三
山形	七八、六四二	三六、五六九	一七、三三三	一五、九五四	五、二四六	二、四五二	一、〇二二	九六	四六、五〇	二二、〇一	二、九六六	三、三〇	一、二九〇	〇、二二
福島	二五、五四一	四八、〇一八	二九、三九二	三五、二二七	九、一四〇	二、八五二	八六七	五五	三八、二五	二二、四二	二、〇五七	二、二七	〇、〇六九	〇、〇五

昭和七年

全國	五、二〇、三三八	二、五四六、〇八九	一、二八六、〇五〇	九〇三、四一五	二二二、三三七	一一二、四四九	四六、二七〇	三、七三八	四九、七三	二五、一二	二、七六四	四、三四	二、二〇	二、九〇〇	〇、七
府縣	四、九五、四六六	二、五一一、〇一五	一、二七二、七八六	八七三、九三四	一八九、〇四二	七七、四八一	二七、一三〇	二、〇七八	五〇、六九	二五、六九	一、七六四	三、八二	一、五六〇	〇、〇四	
東北區	五三七、三六六	二二七、四〇四	一二八、八五八	一二六、二九〇	三四、〇三三	一四、七二七	五、四三二	六三二	四二、三二	二二、九八	二、三〇	二、七四	一、〇一一	〇、二二	
青森	七二、七七三	二八、〇三一	一九、〇四七	一七、一〇九	五、五二二	二、一八八	八〇二	七四	三八、五二	二六、一七	二、三五	一、七五九	三、〇一一	一、〇〇一	
岩手	九七、〇四三	三七、六九七	二五、七八八	二四、八六三	五、九一三	二、一四六	五七六	六〇	三八、八五	二六、五八	二、五六二	二、〇九九	二、〇五九	〇、〇六	
宮城	七九、二三三	三五、六七九	二〇、〇九一	一四、九九八	四、九〇七	二、四二二	一、〇二四	一一二	四五、〇三	二五、三六	一、八九三	一、九三〇	一、二九	〇、一四	
秋田	七八、〇一〇	三六、二四五	一七、三七〇	一六、〇二八	四、四六〇	二、五一一〇	一、一九四	二〇三	四六、四六	二二、二七	二、〇五四	二、三二	一、五三〇	〇、二六	
山形	七九、二三三	三六、九一一	二六、二〇二	一七、〇七六	五、三四二	二、五五四	一、〇二〇	一一七	四六、五九	二〇、四五	二、一五六	六、七四	三、二二	一、一九〇	〇、一五
福島	一三一、〇八五	五二、八四一	三〇、三六〇	三六、二二六	七、八八九	二、八九七	八二六	六六	四〇、三一	二二、一六	二、七六三	六、〇二	二、二二	〇、〇六	〇、〇五

兩年度比較增減率

全國	六・七六	八・四三	△一〇・五七	四・三〇	△〇・三八	△一九・一八	△三・〇〇	△二一・九二							
府縣	六・八七	七・九二	△一〇・四八	三・四八	△二・九三	△七・七九	△一一・二〇	△二〇・九七							
東北區	四・九一	八・七七	△四・九九	三・五五	△七・五八	△三・三四	△六・〇四	△一一・九四							
青森	五・四八	七・〇三	△一一・二五	一・四五	△〇・七五	△二・九七	△一〇・四九	△二七・四五							

岩手	六・五二	一八・四四	一・三九	八・三五	△一八・七三	△二一・五一	△二六・九〇	△二四・二九
宮城	三・五八	一・三五	一六・五八	△一・八三	△四・六八	△二・八九	〇・二九	△二六・四二
秋田	九・三三	一五・九六	六・九七	二・一九	△〇・二五	△二・九五	△〇・二五	△二四・五四
山形	〇・七四	〇・九四	△六・四二	七・〇三	△一・八三	△四・一六	△〇・七九	△二・八八
福島	四・四二	一〇・〇四	三・二九	二・八四	△一三・六九	一・五八	△五・八八	二〇・〇〇

六 一世帯當人口

最後にこの地方の一世帯當人口を見るに、昭和五年東北區普通世帯一世帯當人員は五・八八人であつて、全國五・〇七人に比すれば、一世帯當り一人近く大である。東北六縣中普通世帯一世帯當り人員の最高は、山形縣の六・〇五人であつて、次の表によつて知らるる全國各府縣中第一位を占めてゐる。山形縣に次いで宮城縣の六・〇一人、岩手縣五・九二人、秋田縣五・八七人、青森縣五・八六人、福島縣五・六六人の順位であつて、正に全國最高の地域を形成してゐる。

次に大正九年より昭和五年に至る十ヶ年間の普通世帯一世帯當り人員の變化を見れば、東北區に於ては、大正九年の五・七人から、昭和五年の五・九人に増加を示し、全國四・九人から五・一人への増加と略々歩調を共にしてゐる。

全國に就ても、農業世帯の一世帯當り人員は、一般の普通世帯一世帯當り人員よりも、相當多いのである

第四十表 普通世帯一世帯當人員

縣	名	*昭和五年	大正九年
全東	國區	5.07	4.89
	北海道	5.88	5.73
1	北 青岩	5.40	5.13
2	海 森手	5.86	5.84
3		5.92	5.80
4	秋 田	6.01	5.82
5		5.87	5.83
6	山 形	6.05	5.94
7	福 島	5.66	5.39
8	茨 城	5.25	4.96
9	栃 木	5.51	5.35
10	群 馬	5.34	5.28
11	埼 玉	5.41	5.45
12	千 葉	5.16	5.09
13	東 神	4.70	4.63
14	奈 新	4.85	4.87
15		—	5.36
16	富 山	—	5.08
17	石 川	—	4.84
18	福 井	4.76	4.75
19	山 梨	5.11	5.02
20	長 野	4.97	4.84
21	岐 阜	4.92	4.80
22	靜 岡	5.41	5.31
23	愛 知	4.75	4.69
24	三 重	4.82	4.73
25	滋 賀	4.57	4.49
26	京 都	4.61	4.50
27	大 阪	4.49	4.42
28	兵 庫	4.61	4.55
29	奈 良	4.89	4.92
30	和 歌	4.62	4.57
31	鳥 取	—	4.90
32	島 根	4.63	4.49
33	岡 山	—	4.49
34	廣 島	—	4.48
35	山 口	4.51	4.42
36	德 島	4.90	4.72
37	香 川	—	4.62
38	愛 媛	4.71	4.51
39	高 知	5.00	4.57
40	福 岡	—	4.87
41	佐 賀	5.33	5.17
42	長 崎	—	4.83
43	熊 本	—	5.10
44	大 分	4.92	4.80
45	宮 崎	5.08	4.87
46	鹿 兒	—	4.69
47	沖 繩	4.67	4.73

* 第五十三回帝國統計年鑑に據る

が東北地方に於ても、普通世帯一般の一世帯當り人員を遙に超えてゐる。即ち昭和五年全國農業世帯一世帯當り人員は五・七人であつて、一般普通世帯よりも六分方大である。東北區に於ては、農業世帯一世帯當り六・七人であつて、その一般普通世帯よりも、一世帯につき八分方大である。

農業世帯一世帯當り人員も、以上の十ヶ年間に一世帯當り三分方多くなつてゐるが、東北區に就ても六・四人から六・七人に三分方増加を示してゐる。

以上の如くこの地方は、全國に於て特に大世帯地域であり、その大半を占める農業世帯の一世帯當り人員は、特に大であると云ふことが出来る。

第四十一表 大正九年普通世帯及人員

縣別	世帯數	人員	一世帯平均
全國	一一、二二、二二〇	五四、三六、三五六	四・九
東北區	九八八、一八二	五、六六五、九一四	五・七
青森	一六、三七六	七三七、四六〇	五・八
岩手	一四三、一〇八	八二九、九六八	五・八
宮城	一六〇、〇〇八	九二一、九九五	五・八
秋田	一五一、六二四	八八四、一三七	五・八
山形	一五九、七五〇	九四九、〇七六	五・九
福島	二四七、三二六	一、三三三、二七六	五・四

備考 國勢調査報告に據る

第四十二表 大正九年農家世帯及人員

縣別	世帯數	人員	一世帯平均
全國	四、九一五、七二八	二六、七六三、五一四	五・四
東北區	五三五、一〇一	三、四四八、〇一四	六・四
青森	六二、八二六	四一、三四八	六・五
岩手	九〇、三三九	五七五、三二六	六・四
宮城	八二、六六二	五四六、八二一	六・六
秋田	八〇、三六四	五三〇、六七一	六・六
山形	八二、八二四	五六〇、三七一	六・八
福島	一三六、一八六	八三三、四七七	六・〇

備考 國勢調査報告に據る

第四十三表 昭和五年普通世帯及人員

縣別	世帯數	人員	一世帯平均
全國	一一、七〇五、八九六	六四、四五〇、〇〇五	五・一
東北區	一、一〇六、九三五	六、五七四、三五九	五・九
青森	一四八、二九一	八七九、九一四	五・九
岩手	一六二、九六五	九七五、七七一	六・〇
宮城	一八七、六六一	一、一四二、七八四	六・一
秋田	一六七、〇九五	九八七、七〇六	五・九
山形	一七六、九八四	一、〇八〇、〇三四	六・一
福島	二六三、九三九	一、五〇八、一五〇	五・七

備考 國勢調査報告に據る

第四十四表 昭和五年農家世帯及人員

縣別	世帯數	人員	一世帯平均
全國	四、七六三、〇〇〇	二七、二五五、〇〇〇	五・七
東北區	五六一、七六一	三、七四〇、八七五	六・七
青森	六七、九三三	四四九、三三三	六・六
岩手	九二、五四七	六二二、六五六	六・六
宮城	八七、八四〇	六一〇、二六八	六・九
秋田	八五、九二九	五六七、八〇六	六・六
山形	九一、三九〇	六二四、七三八	六・八
福島	一三六、一三三	八七五、〇八五	六・四

備考 國勢調査報告に據る

七 結 語

以上に於て東北地方の人口現象の大要を明かにし、其の特殊性の那邊に存するかを諸種の條件との關聯に於て考察した。今之を極めて簡単に要約すれば以下の如くである。

一般にこの地方は自然的、地理的環境に恵まれること薄く、生産力の發達遅々たるに拘はらず、今日猶依然として多婚多産、多産多死、而かも人口の自然増加率極めて高く全國の最高位を占むる状態である。

斯くの如く著しき増殖力を有するこの地方の人口は如何にして、扶養せられて來たのであらうか。勿論一部の増加人口は縣外に移出せられた。福島、秋田、山形の如きは其の割合は比較的大である。然し其の大多數は縣内に止まつた。殊に岩手、青森、宮城三縣に於ては縣外移動は極めて少く人口自然増加の大部分は縣内増加人口として残つたのである。

然るに一般に工業化の程度極めて低きこの地方に於て、増加人口の大部分は農業によつて包攝せられた。即ち農業人口は全國的に減退の傾向を示してゐるが之に反してこの地方に於ては農業人口竝に農家戸數は極めて顯著なる増加を示して居り、増加人口の大部分は農業に入つたのである。尤もこの間耕地總面積も明かに増加を示した。元來この地方に於ては耕地面積の全面積に對する割合は、極めて小であり、可耕見込地は尙比較的に大なりと見られる。かくて最近十ヶ年間に於ける耕地面積の増加率は、全國のそれを凌いでゐる

が、それにも拘はらず、農家戸數の著しい増加に追隨し得なかつたことは、農家一戸當り耕地面積の減少と云ふ事實によつて明かである。尤もこの地方の農家一戸當耕地面積は他の地方に比して、幾分大ではあるが、自然的條件に於て劣り一毛作が大部分を占めるが如き状態であり、而かも農業技術竝に農業經營の發達程度低く農家一戸當り耕地面積が稍々大であると云ふことは、他の地方に比してこの地方の農家所得を多からしめてゐるとは云ひ得ない。かくて農家一戸當耕地面積の低減は明かに更に一層農家經濟に壓迫を加へたと云はなければならぬ。更にこの間經營耕地面積一町歩未滿の小農が激増し、自作農の減退、小作農の増加等の事實と相俟つて、耕地の配分状態は惡化したと見ることが出来る。

又元來この地方の家族構成人員は、全國のそれよりも遙に多く、特に農家一戸當り人員も全國の水準に比し相當大である。更に普通世帯家族構成人員は、全國の傾向に伴つて最近十ヶ年間増大を示して居るの狀況であつて家族扶養の負擔は愈々加はらんとしつゝある。之を上記の諸事實と照合すればこの地方の生活程度は漸次低下する傾向にあると云はなければならぬ。

最後に一概に東北地方と云つても、夫々縣によつて特異な現象を示してゐることは注意を要する。各縣について記述することは省略するが、人口増加率高く、而かも移出口少き青森、岩手兩縣が以上に要約した諸結果を最も強く反映してゐることは注意を要する。この二縣の農業人口の増加が特に著しく更に溢れてあらゆる産業部門に殖え亘つてゐることもその一つの反映であらう。之に對して秋田縣に於て殆んどあらゆる

主要産業部門に人口減少を見せてゐることも特に注意を要するところであらう。

以上によつて東北地方に關する諸問題の根柢にその特殊なる人口現象の横はつてゐること、竝にその人口現象が如何なる性質のものなるかは略々之を明かにし得たであらう。かくて今次の凶作の慘、その由つて來るところ深く且遠きを知ることが出来る。又、この地方に對する一切の政策の出發點が正にこの人口現象の特異性の認識に存すること云ふ迄もない。

律異封の懸隔の存すること云々述べてい

る。この點は且茲を以て示すことを出来る。又、この點は二種ある一冊の宛策の出発地は五三この人口更衆の
懸隔は成同なる封賈のものなるは、（一） 懸隔の大小即ち「封」の大小を示すこと。又、（二） 今定の凶非の封、その由て來
以土のよへて東北版表の關する諸國の懸隔の大小の封、その由て來人口更衆の懸隔の大小を示すこと。又、（三） 封の大小の人口
主要な懸隔の人口懸隔を示すこと。又、（四） 封の大小の人口懸隔を示すこと。又、（五） 封の大小の人口懸隔を示すこと。

昭和十年五月一日印刷
昭和十年五月五日發行

〔一部金四五錢〕

內務省社會局內

編輯兼
發行者 財團
法人

人口問題研究會

東京市世田谷區北澤三丁目九二〇番地

禁轉載

館 稔

東京市板橋區練馬南町一ノ三五三二

印刷所

株式會社 日本印刷局

印刷者

清水昌美

電話 神田 三一八九・三二七一

發賣所

東京市神田區
駿河臺三丁目六番地

刀江書院

(振替東京七三一八)

財團法人 人口問題研究會編 人口問題資料目錄

第一輯	人口問題講演集(第一輯)	〇・三五
第二輯	日本人口密度圖(刀江書院發行)	二・五〇
第三輯	我國人口問題の解決方針(懸賞論文集)	二・五〇
第四輯	人口問題講演集(第二輯)	〇・三五
第五輯	一九三一年ローマ國際人口會議資料	近刊
第六輯	マルサス歿後百年記念 人口問題講演集(第三輯)	近刊
第七輯	マルサス歿後百年記念 人口問題展覽會寫真集	近刊
第八輯	マルサスに關する文獻集	近刊
第九輯	東北地方の人口に關する調査	〇・四五
第四季報	「人口問題」第一卷第一號(昭和十年一月)	一・〇〇

